

令和 7 年度
龍ヶ崎市障がい福祉に関する実態調査
【結果報告書】

令和 8 年 3 月
龍 ヶ 崎 市

目 次

第Ⅰ部 調査の概要	1
1. 調査概要	3
第Ⅱ部 障がい者アンケート【調査結果】	5
1. あなたご自身のことについて	7
2. あなたの障がいの状況について	18
3. 障がい福祉サービス等の利用について	27
4. 住まいや暮らしについて	33
5. 日中活動について	38
6. 余暇活動について	53
7. 相談相手について	57
8. 権利擁護について	63
9. 災害時の避難等について	68
10. 龍ヶ崎市の福祉施策について	73
第Ⅲ部 市民アンケート【調査結果】	87
1. あなたご自身のことについて	89
2. 障がい者福祉への関心について	94
3. 障がい者に対する理解について	96
4. 障がい者への支援・ボランティアについて	102
5. 障がい者の就労・教育について	108
6. 災害時の対応について	112
7. 福祉のまちづくり・龍ヶ崎市の障がい者施策について	114
第Ⅳ部 事業所アンケート【調査結果】	121
1. 事業所の概要について	123
2. 事業所の経営課題について	131
3. サービス提供について	132
4. 事業所への支援について	134
5. 防災対策について	135

6. 入所施設について	137
7. 就労支援について	138
8. 福祉のまちづくりについて	139

第Ⅴ部 資料編（使用した調査票）143

1. 障がい者アンケート 調査票	145
2. 市民アンケート 調査票	166
3. 事業所アンケート 調査票	175

第 I 部 調査の概要

1. 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、障がい者の実情やニーズを把握するとともに、市民から障がい者施策のご意見やご要望をうかがい、「龍ヶ崎市障がい者プラン・第8期障がい福祉計画・第4期障がい児福祉計画」に反映させることを目的に実施しました。

(2) 調査対象者

調査区分	調査対象者	対象者数
障がい者	身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者	1,699 人
一般市民	18 歳以上の男女	299 人
事業所	龍ヶ崎市の障がい者の利用実績のある事業所	101 か所

(3) 調査方法・調査期間

- 調査方法：郵送配布・郵送回収
- 調査期間：令和7年12月19日（金）から令和8年1月19日（月）まで

(4) 回収結果

調査区分	配付数	回収数	回収率
障がい者	1,699 件	727 件	42.8%
一般市民	299 件	88 件	29.4%
事業所	101 件	57 件	56.4%

(5) 報告書を見る際の注意点

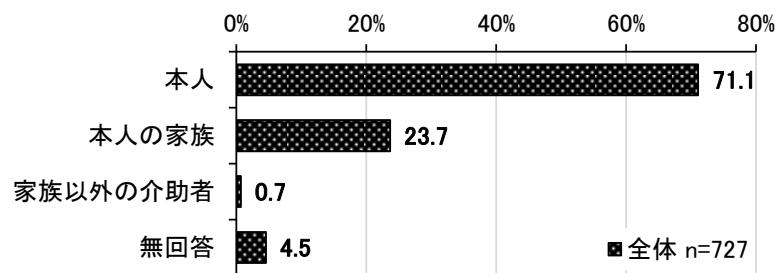
- 図表中の「n」とは、その設問の回答者数を表しています。
- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを示しているため、その合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答の設問の場合、回答比率の合計は100.0%を超える場合があります。
- 設問の選択肢は、表記を省略している場合があります。
- 「n」が少数である場合、比率が動きやすく分析には適さないため、参考値として示すにとどめています。

第Ⅱ部 障がい者アンケート【調査結果】

1. あなたご自身のことについて

問1 お答えいただくのは、どなたですか。（1つのみ）

回答者については、「本人」が71.1%で最も高く、次いで「本人の家族」が23.7%、「家族以外の介助者」が0.7%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「本人」は難病患者が83.2%で最も高くなっています。一方で、「本人の家族」は知的障がい者が61.9%で最も高くなっています。

		本人	本人の家族	家族以外の介助者	無回答
全体 n=727		71.1%	23.7%	0.7%	4.5%
障がい種別	身体障がい者 n=421	73.6%	20.9%	0.5%	5.0%
	知的障がい者 n=113	34.5%	61.9%	0.0%	3.5%
	精神障がい者 n=134	81.3%	14.2%	0.0%	4.5%
	難病患者 n=143	83.2%	14.0%	0.0%	2.8%

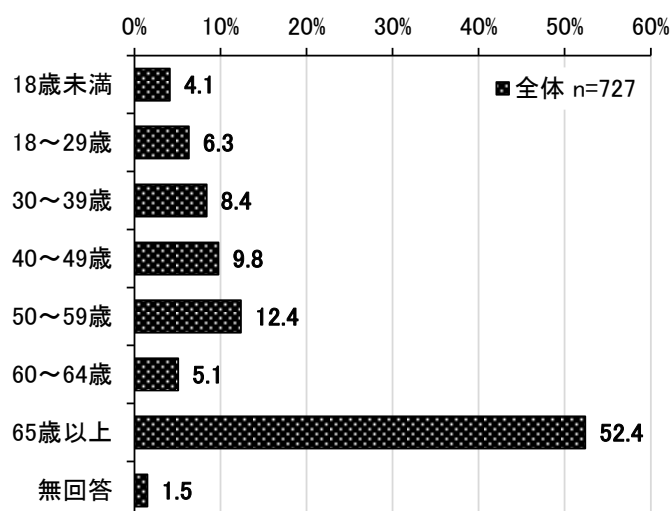
■ 経年比較

「本人」は、前回調査と比べて7.0ポイント増加しています。

	本人	本人の家族	家族以外の介助者	無回答
R7_今回調査 n=727	71.1%	23.7%	0.7%	4.5%
R4_前回調査 n=772	64.1%	26.6%	0.9%	8.4%
R2_前々回調査 n=903	65.6%	28.0%	2.5%	3.9%

問2 あなたの年齢をお答えください。(令和7年12月1日現在)

年齢については、「65歳以上」が52.4%で最も高く、次いで「50～59歳」が12.4%、「40～49歳」が9.8%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、知的障がい者は「18歳未満」が15.9%、「18～29歳」22.1%と、他の障がい種別と比べて高くなっています。一方で、「65歳以上」は、身体障がい者が70.8%、難病患者が62.9%と、他の障がい種別と比べて高くなっています。

		18歳未満	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
全体 n=727		4.1%	6.3%	8.4%	9.8%	12.4%	5.1%	52.4%	1.5%
障がい種別	身体障がい者 n=421	1.7%	2.6%	2.6%	6.7%	9.7%	4.8%	70.8%	1.2%
	知的障がい者 n=113	15.9%	22.1%	23.9%	14.2%	13.3%	1.8%	8.8%	0.0%
	精神障がい者 n=134	1.5%	12.7%	22.4%	17.2%	14.9%	8.2%	22.4%	0.7%
	難病患者 n=143	3.5%	2.8%	1.4%	9.1%	16.8%	3.5%	62.9%	0.0%

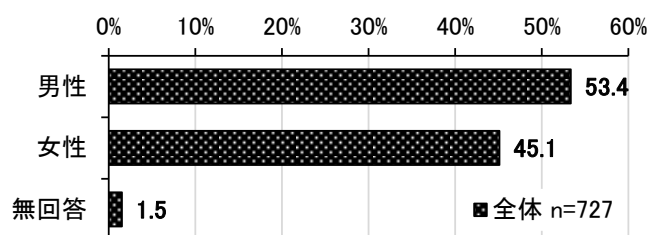
■経年比較

「65歳以上」は、前回調査と比べて20.4ポイント増加しています。

	18歳未満	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
R7_今回調査 n=727	4.1%	6.3%	8.4%	9.8%	12.4%	5.1%	52.4%	1.5%
R4_前回調査 n=772	4.8%	9.7%	11.4%	14.8%	14.5%	7.5%	32.0%	5.3%
R2_前々回調査 n=903	6.3%	10.6%	9.6%	14.4%	11.4%	10.6%	35.7%	1.3%

問3 あなたの性別をお答えください。(1つのみ)

性別については、「男性」が53.4%、「女性」が45.1%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、難病患者を除き、男性が女性を上回っています。

		男性	女性	無回答
全体 n=727		53.4%	45.1%	1.5%
障がい種別	身体障がい者 n=421	55.8%	42.8%	1.4%
	知的障がい者 n=113	58.4%	40.7%	0.9%
	精神障がい者 n=134	53.7%	45.5%	0.7%
	難病患者 n=143	42.7%	56.6%	0.7%

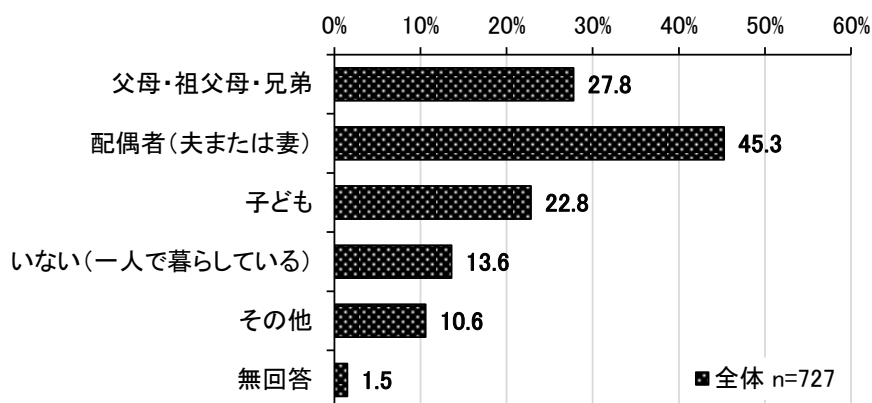
■経年比較

「女性」は、前回調査と比べて7.1ポイント増加しています。

	男性	女性	無回答
R7_今回調査 n=727	53.4%	45.1%	1.5%
R4_前回調査 n=772	57.1%	38.0%	4.9%
R2_前々回調査 n=903	57.0%	42.3%	0.7%

問4 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。(いくつでも)

現在、一緒に暮らしている人については、「配偶者（夫または妻）」が 45.3%で最も高く、次いで「父母・祖父母・兄弟」が 27.8%、「子ども」が 22.8%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「父母・祖父母・兄弟」は知的障がい者が 69.9%で最も高くなっています。一方で、「いない（一人で暮らしている）」は精神障がい者が 21.6%で最も高くなっています。

		父母・祖父母・兄弟	配偶者(夫または妻)	子ども	いない(一人で暮らしている)	その他	無回答
全体 n=727		27.8%	45.3%	22.8%	13.6%	10.6%	1.5%
障がい種別	身体障がい者 n=421	15.2%	53.9%	25.4%	14.5%	12.1%	1.2%
	知的障がい者 n=113	69.9%	13.3%	8.0%	4.4%	14.2%	0.0%
	精神障がい者 n=134	40.3%	29.9%	7.5%	21.6%	7.5%	0.7%
	難病患者 n=143	18.9%	63.6%	35.7%	7.7%	9.1%	0.0%

■ 経年比較

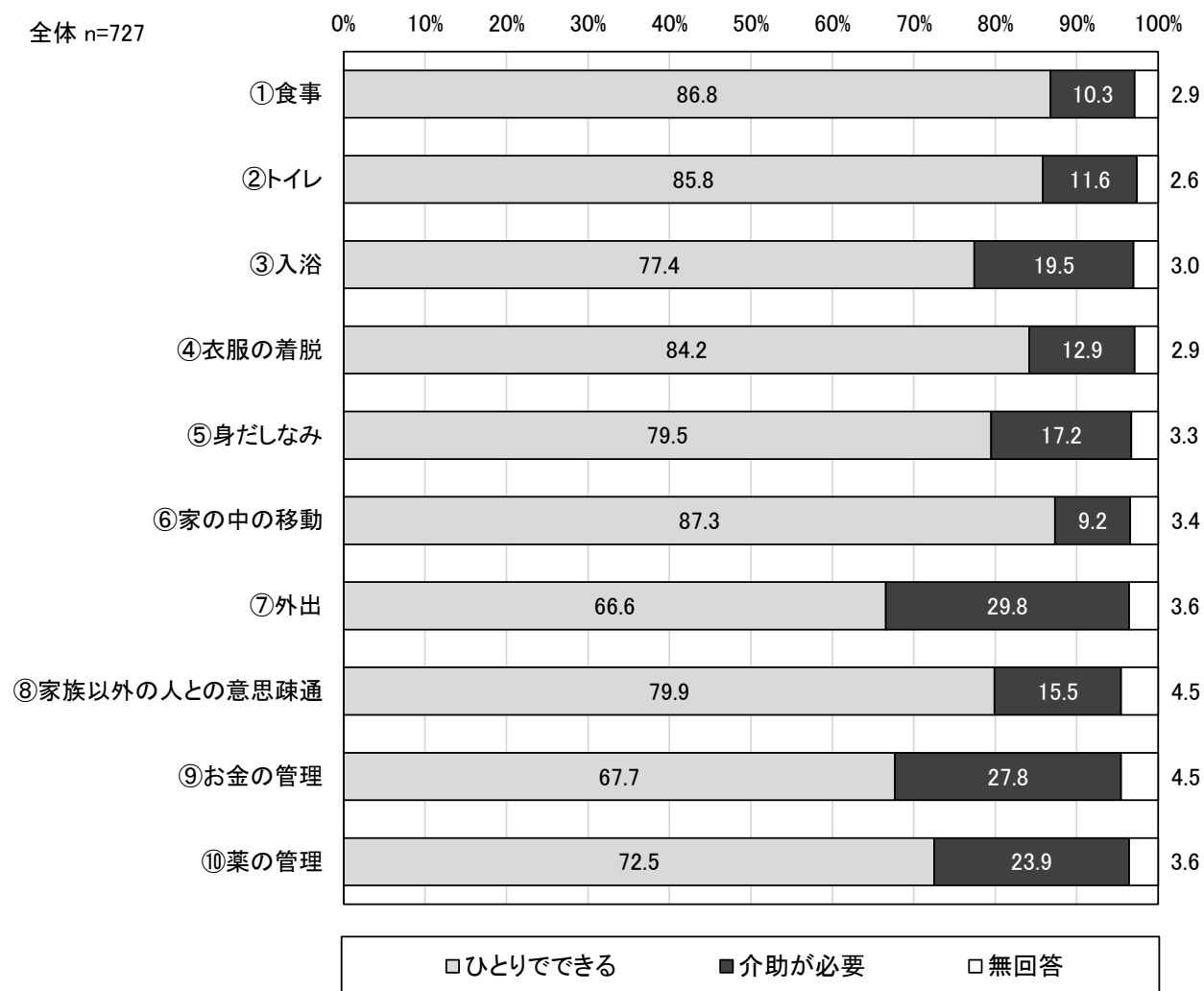
「父母・祖父母・兄弟」は、前回調査と比べて 10.0 ポイント減少する一方で、「配偶者（夫または妻）」は 9.7 ポイント増加しています。

	父母・祖父母・兄弟	配偶者(夫または妻)	子ども	いない(一人で暮らしている)	その他	無回答
R7_今回調査 n=727	27.8%	45.3%	22.8%	13.6%	10.6%	1.5%
R4_前回調査 n=772	37.8%	35.6%	17.4%	13.9%	9.7%	5.2%
R2_前々回調査 n=903	38.4%	39.8%	19.5%	11.4%	11.7%	0.6%

**問5 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。
(①から⑩それぞれ1つのみ)**

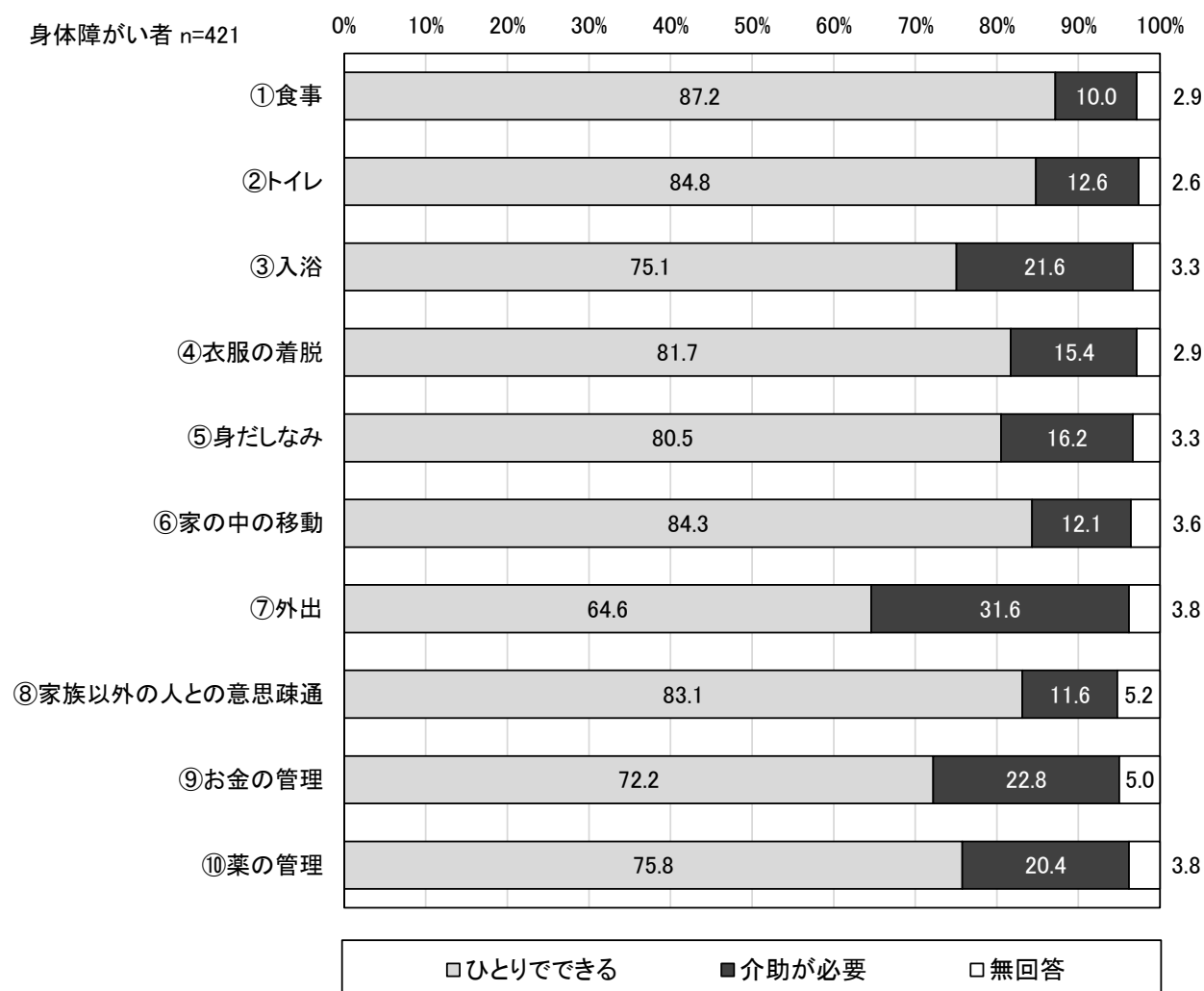
(1) 全体

介助の状況について「介助が必要」をみると、『⑦外出』が29.8%で最も高く、次いで『⑨お金の管理』が27.8%、『⑩薬の管理』が23.9%となっています。



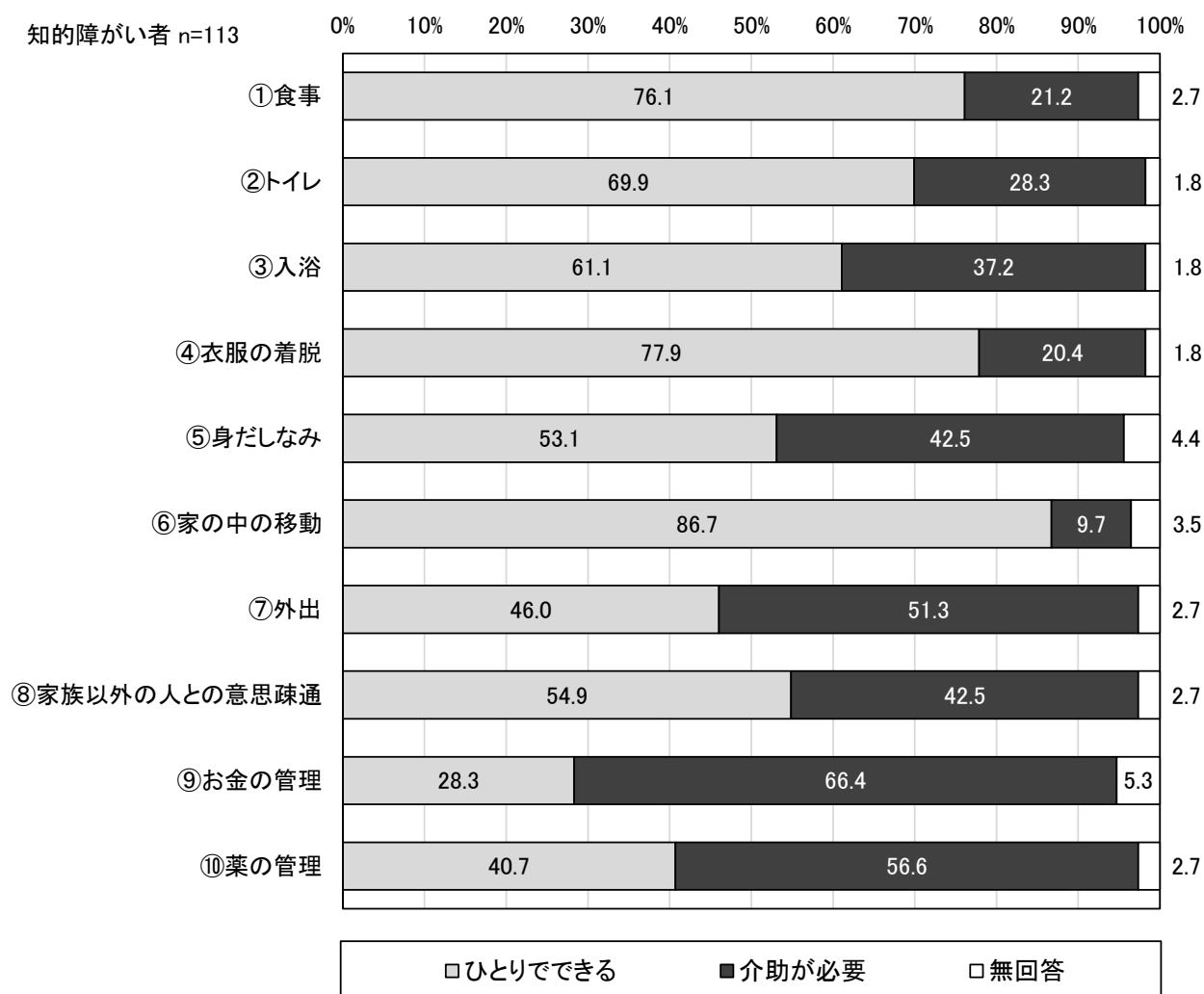
（２）身体障がい者

身体障がい者の介助の状況について「介助が必要」をみると、『⑦外出』が31.6%で最も高く、次いで『⑨お金の管理』が22.8%、『③入浴』が21.6%となっています。



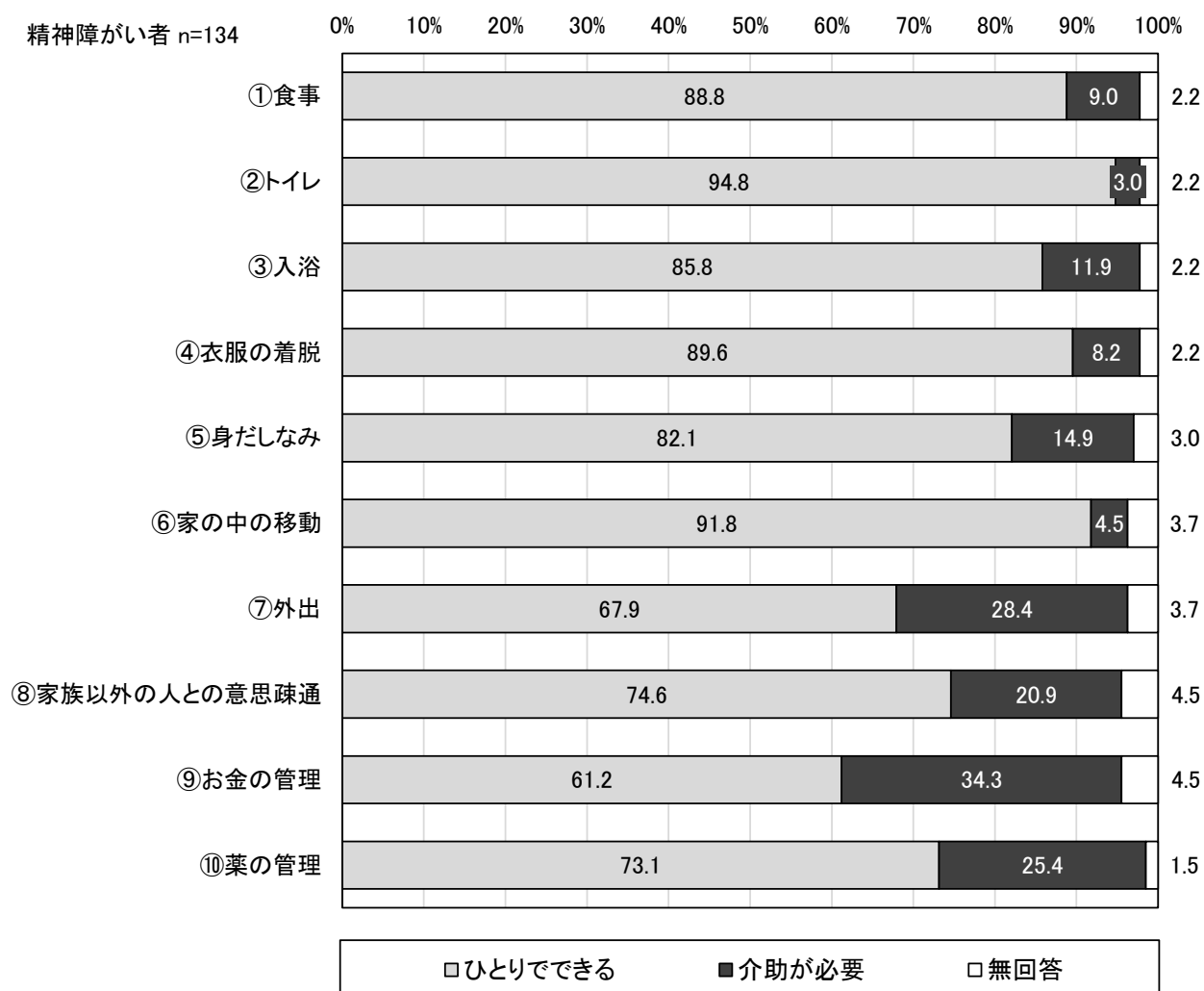
（３）知的障がい者

知的障がい者の介助の状況について「介助が必要」をみると、『⑨お金の管理』が66.4%で最も高く、次いで『⑩薬の管理』が56.6%、『⑦外出』が51.3%となっています。



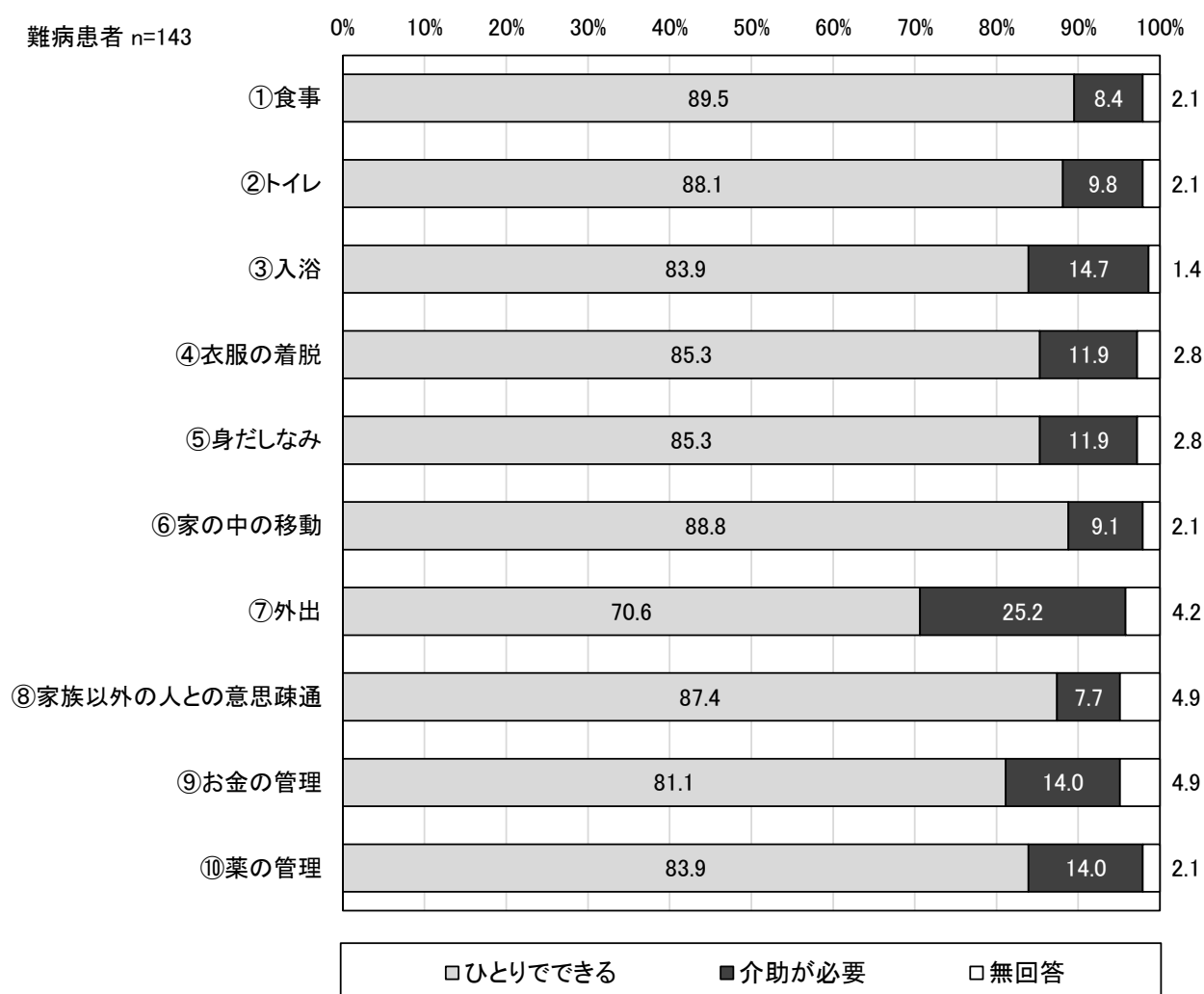
（４）精神障がい者

精神障がい者の介助の状況について「介助が必要」をみると、『⑨お金の管理』が34.3%で最も高く、次いで『⑦外出』が28.4%、『⑩薬の管理』が25.4%となっています。



（５）難病患者

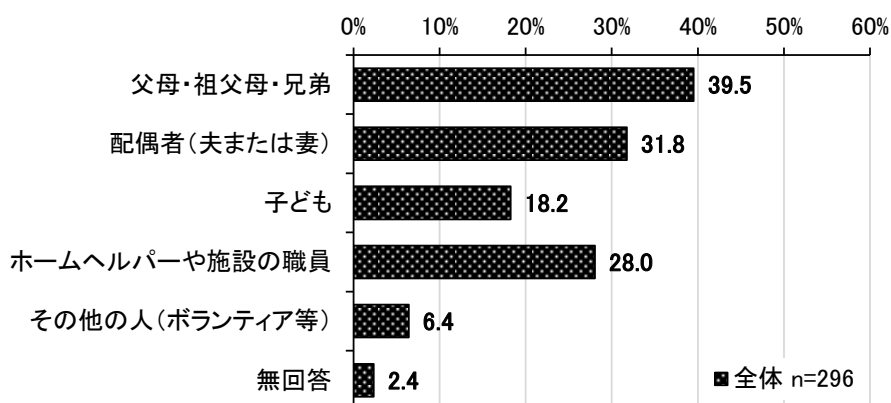
難病患者の介助の状況について「介助が必要」をみると、『⑦外出』が25.2%で最も高く、次いで『③入浴』が14.7%、『⑨お金の管理』『⑩薬の管理』がともに14.0%となっています。



【問5で「介助が必要」と回答した方にお聞きします。】

問6 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。(いくつでも)

主な介助者については、「父母・祖父母・兄弟」が39.5%で最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」が31.8%、「ホームヘルパーや施設の職員」が28.0%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「父母・祖父母・兄弟」は知的障がい者が81.5%で最も高くなっています。一方で、「その他の人（ボランティア等）」は精神障がい者が12.7%で最も高くなっています。

		父母・祖父母・兄弟	配偶者(夫または妻)	子ども	ホームヘルパーや施設の職員	その他の人(ボランティア等)	無回答
全体 n=296		39.5%	31.8%	18.2%	28.0%	6.4%	2.4%
障がい種別	身体障がい者 n=160	20.0%	43.8%	30.6%	28.8%	6.3%	1.9%
	知的障がい者 n=81	81.5%	9.9%	0.0%	29.6%	2.5%	1.2%
	精神障がい者 n=71	42.3%	29.6%	5.6%	23.9%	12.7%	2.8%
	難病患者 n=43	16.3%	60.5%	18.6%	25.6%	4.7%	2.3%

■ 経年比較

「父母・祖父母・兄弟」は、前回調査と比べて15.9ポイント減少する一方で、「配偶者（夫または妻）」が9.4ポイント、「子ども」が9.2ポイント増加しています。

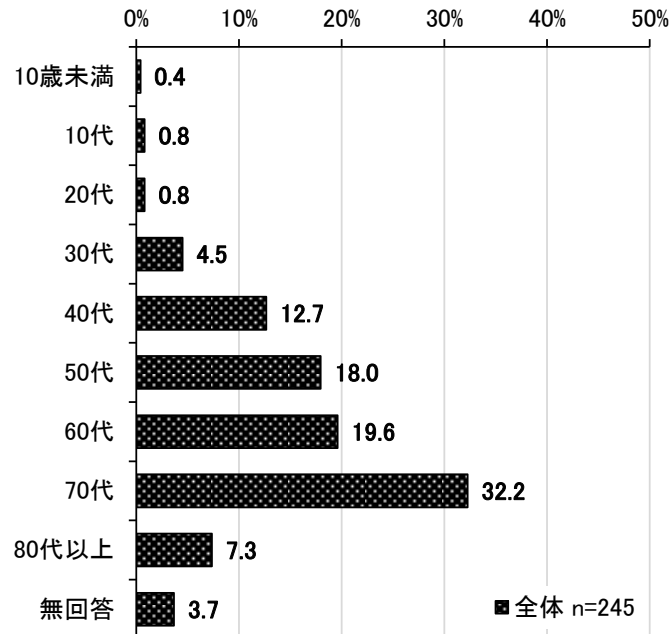
	父母・祖父母・兄弟	配偶者(夫または妻)	子ども	ホームヘルパーや施設の職員	その他の人(ボランティア等)	無回答
R7_今回調査 n=296	39.5%	31.8%	18.2%	28.0%	6.4%	2.4%
R4_前回調査 n=312	55.4%	22.4%	9.0%	23.7%	5.8%	2.2%
R2_前々回調査 n=412	51.2%	28.2%	8.3%	27.4%	5.8%	4.1%

【問6で「父母・祖父母・兄弟」「配偶者（夫または妻）」「子ども」と回答した方にお聞きます。】

問7 主な介護者の年齢もお答えください。（1つのみ）

主な介護者の年齢については、「70代」が32.2%で最も高く、次いで「60代」が19.6%、「50代」が18.0%となっています。

なお、「60代」「70代」「80代以上」の合計値は59.1%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「60代」「70代」「80代以上」の合計値は、身体障がい者が66.4%、知的障がい者が52.7%、精神障がい者が55.5%、難病患者が67.6%となっています。

		10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
全体 n=245		0.4%	0.8%	0.8%	4.5%	12.7%	18.0%	19.6%	32.2%	7.3%	3.7%
障がい種別	身体障がい者 n=134	0.0%	0.0%	0.7%	2.2%	11.2%	15.7%	17.9%	35.8%	12.7%	3.7%
	知的障がい者 n=74	0.0%	1.4%	1.4%	5.4%	14.9%	20.3%	21.6%	24.3%	6.8%	4.1%
	精神障がい者 n=54	0.0%	1.9%	0.0%	11.1%	14.8%	16.7%	25.9%	22.2%	7.4%	0.0%
	難病患者 n=37	2.7%	0.0%	0.0%	5.4%	8.1%	5.4%	5.4%	54.1%	8.1%	10.8%

■ 経年比較

「60代」「70代」「80代以上」の合計値は、前回調査と比べて17.1ポイント増加しています。

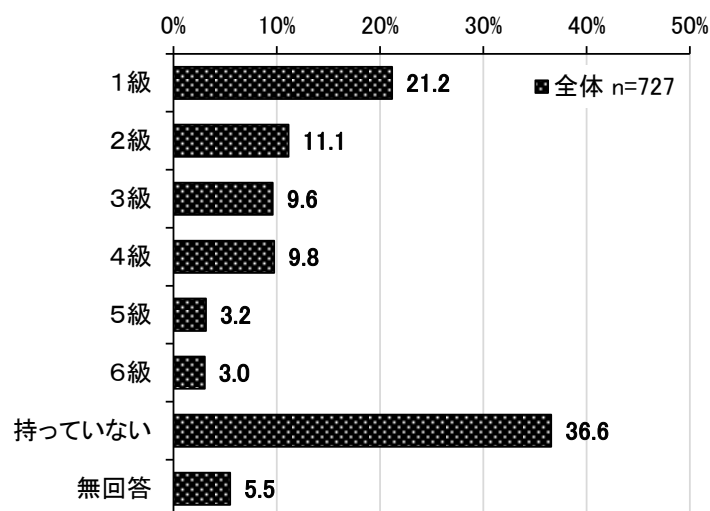
		10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
R7_今回調査 n=245		0.4%	0.8%	0.8%	4.5%	12.7%	18.0%	19.6%	32.2%	7.3%	3.7%
R4_前回調査 n=312		0.0%	1.3%	1.0%	7.1%	13.1%	13.8%	21.2%	17.9%	2.9%	21.8%

2. あなたの障がいの状況について

問8 あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(1つのみ)

身体障害者手帳の所有状況については、「1級」が21.2%で最も高く、次いで「2級」が11.1%、「4級」が9.8%となっています。

なお、「持っていない」は36.6%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、身体障がい者では、「1級」が36.6%で最も高く、次いで「2級」が19.2%、「4級」が16.9%となっています。

		1級	2級	3級	4級	5級	6級	持っていない	無回答
全体 n=727		21.2%	11.1%	9.6%	9.8%	3.2%	3.0%	36.6%	5.5%
障がい種別	身体障がい者 n=421	36.6%	19.2%	16.6%	16.9%	5.5%	5.2%	0.0%	0.0%
	知的障がい者 n=113	9.7%	6.2%	4.4%	1.8%	1.8%	0.0%	66.4%	9.7%
	精神障がい者 n=134	5.2%	12.7%	3.7%	0.7%	0.0%	1.5%	67.9%	8.2%
	難病患者 n=143	14.0%	7.7%	6.3%	2.8%	2.1%	3.5%	60.8%	2.8%

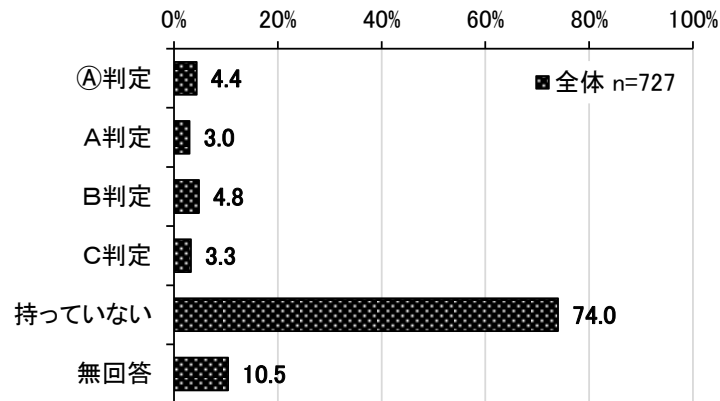
■経年比較

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	持っていない	無回答
R7_今回調査 n=727	21.2%	11.1%	9.6%	9.8%	3.2%	3.0%	36.6%	5.5%
R4_前回調査 n=772	21.6%	11.7%	9.2%	10.6%	4.1%	1.7%	34.2%	6.9%
R2_前々回調査 n=903	25.8%	13.1%	9.0%	11.8%	3.3%	2.9%	28.7%	5.4%

問9 あなたは療育手帳をお持ちですか。(1つのみ)

療育手帳の所有状況については、「B判定」が4.8%で最も高く、次いで「A判定」が4.4%、「C判定」が3.3%となっています。

なお、「持っていない」は74.0%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、知的障がい者では、「B判定」が31.0%で最も高く、次いで「A判定」が28.3%、「C判定」が21.2%となっています。

		①判定	A判定	B判定	C判定	持っていない	無回答
全体 n=727		4.4%	3.0%	4.8%	3.3%	74.0%	10.5%
障がい種別	身体障がい者 n=421	3.1%	0.5%	1.9%	1.0%	81.2%	12.4%
	知的障がい者 n=113	28.3%	19.5%	31.0%	21.2%	0.0%	0.0%
	精神障がい者 n=134	2.2%	0.7%	2.2%	3.7%	79.1%	11.9%
	難病患者 n=143	1.4%	0.0%	2.8%	1.4%	88.1%	6.3%

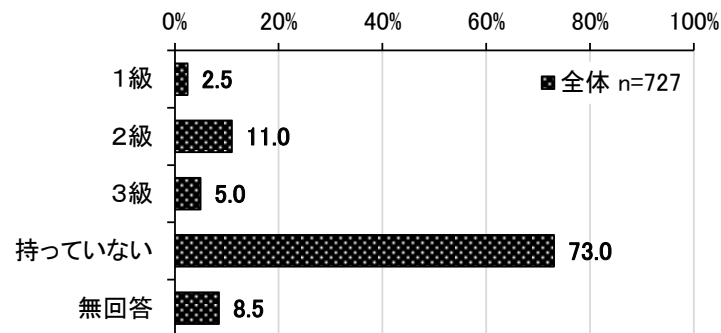
■ 経年比較

	①判定	A判定	B判定	C判定	持っていない	無回答
R7_今回調査 n=727	4.4%	3.0%	4.8%	3.3%	74.0%	10.5%
R4_前回調査 n=772	4.8%	3.2%	5.7%	7.5%	62.7%	16.1%
R2_前々回調査 n=903	5.5%	4.8%	5.8%	6.3%	64.5%	13.2%

問 10 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。（1つのみ）

精神障害者保健福祉手帳の所有状況については、「2級」が 11.0%で最も高く、次いで「3級」が 5.0%、「1級」が 2.5%となっています。

なお、「持っていない」は 73.0%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、精神障がい者では、「2級」が 59.7%で最も高く、次いで「3級」が 26.9%、「1級」が 13.4%となっています。

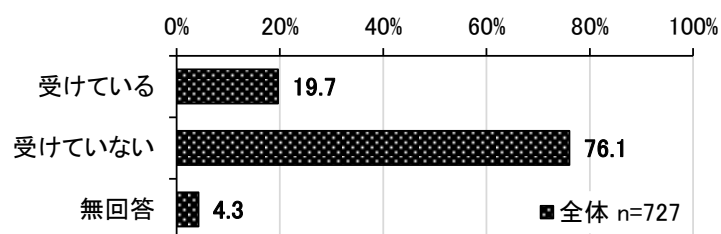
		1級	2級	3級	持っていない	無回答
全体 n=727		2.5%	11.0%	5.0%	73.0%	8.5%
障がい種別	身体障がい者 n=421	1.9%	4.5%	1.2%	82.9%	9.5%
	知的障がい者 n=113	2.7%	5.3%	2.7%	77.9%	11.5%
	精神障がい者 n=134	13.4%	59.7%	26.9%	0.0%	0.0%
	難病患者 n=143	0.0%	2.1%	0.7%	93.0%	4.2%

■ 経年比較

	1級	2級	3級	持っていない	無回答
R7_今回調査 n=727	2.5%	11.0%	5.0%	73.0%	8.5%
R4_前回調査 n=772	3.4%	15.7%	6.9%	64.4%	9.7%
R2_前々回調査 n=903	3.0%	10.3%	5.3%	74.4%	7.0%

問 11 あなたは難病や特定疾患の認定を受けていますか。(1つのみ)

難病（特定疾患）の認定状況については、「受けている」が19.7%、「受けていない」が76.1%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、難病（特定疾患）との重複は身体障がい者が12.4%と、他の障がい種別と比べて高くなっています。

		受けている	受けていない	無回答
全体 n=727		19.7%	76.1%	4.3%
障がい種別	身体障がい者 n=421	12.4%	82.9%	4.8%
	知的障がい者 n=113	7.1%	90.3%	2.7%
	精神障がい者 n=134	3.0%	94.8%	2.2%
	難病患者 n=143	100.0%	0.0%	0.0%

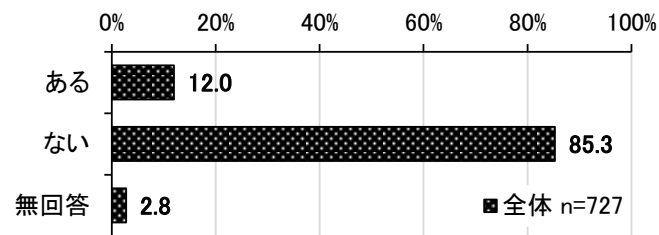
■ 経年比較

「受けている」は、前回調査と比べて10.9ポイント増加しています。

	受けている	受けていない	無回答
R7_今回調査 n=727	19.7%	76.1%	4.3%
R4_前回調査 n=772	8.8%	84.2%	7.0%
R2_前々回調査 n=903	9.9%	85.4%	4.8%

問 12 あなたは発達障がいとして診断されたことがありますか。(1つのみ)

発達障がいの診断状況については、「ある」が12.0%、「ない」が85.3%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「ある」は、知的障がい者が48.7%で最も高く、次いで精神障がい者が27.6%、身体障がい者が3.6%となっています。

		ある	ない	無回答
全体 n=727		12.0%	85.3%	2.8%
障がい種別	身体障がい者 n=421	3.6%	94.5%	1.9%
	知的障がい者 n=113	48.7%	49.6%	1.8%
	精神障がい者 n=134	27.6%	70.1%	2.2%
	難病患者 n=143	2.8%	96.5%	0.7%

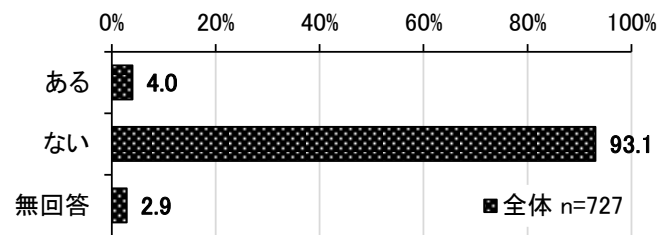
■ 経年比較

「ある」は、前回調査と比べて5.5ポイント減少しています。

	ある	ない	無回答
R7_今回調査 n=727	12.0%	85.3%	2.8%
R4_前回調査 n=772	17.5%	77.7%	4.8%
R2_前々回調査 n=903	17.6%	79.3%	3.1%

問 13 あなたは高次脳機能障がいとして診断されたことがありますか。（1つのみ）

高次脳機能障がいの診断状況については、「ある」が4.0%、「ない」が93.1%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「ある」は、身体障がい者が5.0%で最も高く、次いで難病患者が4.2%、精神障がい者が3.0%となっています。

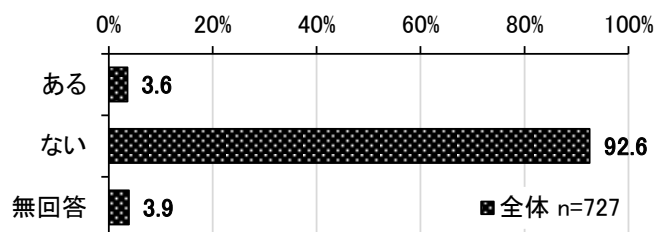
		ある	ない	無回答
全体 n=727		4.0%	93.1%	2.9%
障がい種別	身体障がい者 n=421	5.0%	92.2%	2.9%
	知的障がい者 n=113	1.8%	97.3%	0.9%
	精神障がい者 n=134	3.0%	93.3%	3.7%
	難病患者 n=143	4.2%	93.7%	2.1%

■ 経年比較

	ある	ない	無回答
R7_今回調査 n=727	4.0%	93.1%	2.9%
R4_前回調査 n=772	5.4%	89.1%	5.4%
R2_前々回調査 n=903	5.3%	91.6%	3.1%

問 14 あなたは強度行動障がいと言われたことはありますか。(1つのみ)

強度行動障がいと言われたことがあるかについては、「ある」が 3.6%、「ない」が 92.6%となっています。



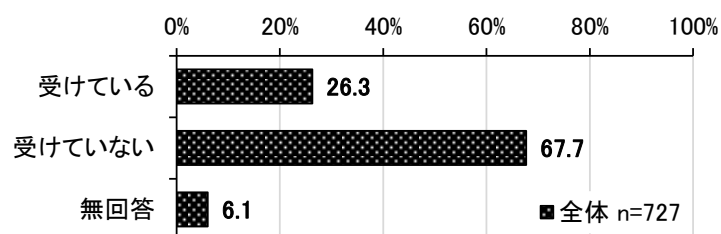
■ 障がい種別

障がい種別でみると、「ある」は、知的障がい者が 9.7%で最も高く、次いで精神障がい者が 9.0%、身体障がい者が 1.9%となっています。

		ある	ない	無回答
全体 n=727		3.6%	92.6%	3.9%
障がい種別	身体障がい者 n=421	1.9%	94.3%	3.8%
	知的障がい者 n=113	9.7%	86.7%	3.5%
	精神障がい者 n=134	9.0%	85.1%	6.0%
	難病患者 n=143	1.4%	95.8%	2.8%

問 15 あなたは医療的ケアを受けていますか。(1つのみ)

医療的ケアを受けているかについては、「受けている」が26.3%、「受けていない」が67.7%となっています。



■ 障がい種別

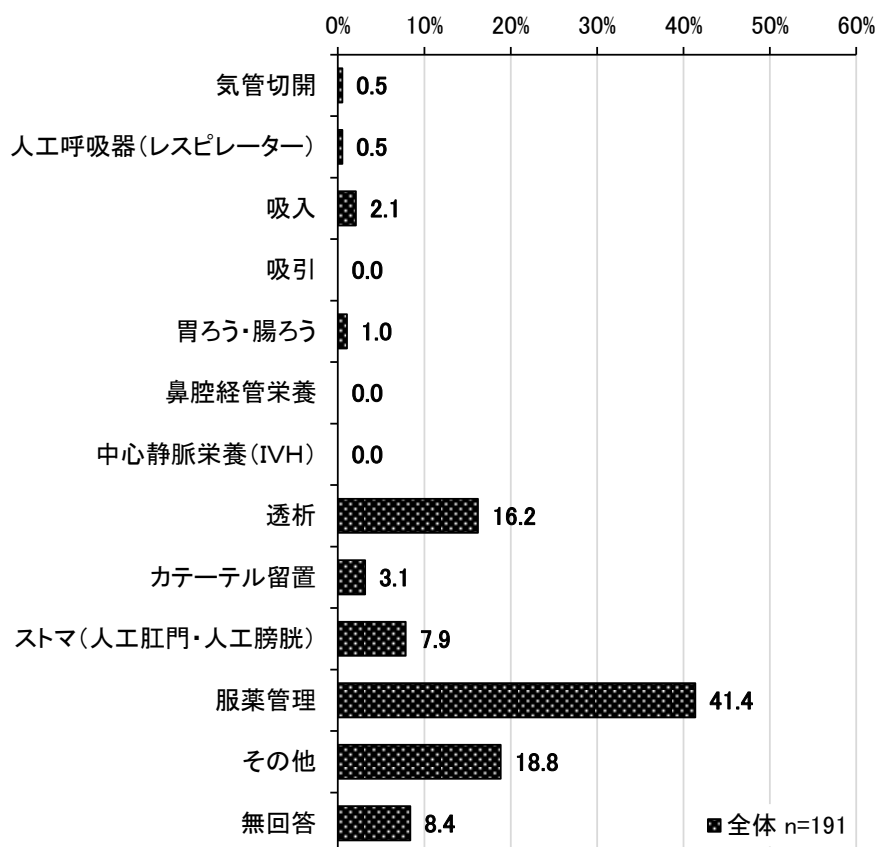
障がい種別でみると、「受けている」は、身体障がい者が31.1%で最も高く、次いで精神障がい者が23.9%、難病患者が23.8%となっています。

		受けている	受けていない	無回答
全体 n=727		26.3%	67.7%	6.1%
障がい種別	身体障がい者 n=421	31.1%	62.5%	6.4%
	知的障がい者 n=113	22.1%	75.2%	2.7%
	精神障がい者 n=134	23.9%	71.6%	4.5%
	難病患者 n=143	23.8%	67.8%	8.4%

【問 15 で「受けている」と回答した方にお聞きます。】

問 16 あなたが現在受けている医療的ケアを教えてください。（1つのみ）

現在受けている医療的ケアについては、「服薬管理」が41.4%で最も高く、次いで「透析」が16.2%、「ストマ（人工肛門・人工膀胱）」が7.9%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、身体障がい者では、「服薬管理」が27.5%で最も高く、次いで「透析」が22.9%、「ストマ（人工肛門・人工膀胱）」が11.5%となっています。

		気管切開	人工呼吸器 (レスピレーター)	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養	中心静脈栄養 (IVH)	透析	カテーテル 留置	ストマ(人工 肛門・人工 膀胱)
	全体 n=191	0.5%	0.5%	2.1%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	16.2%	3.1%	7.9%
障 が い 種 別	身体障がい者 n=131	0.8%	0.8%	1.5%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	22.9%	4.6%	11.5%
	知的障がい者 n=25	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%	4.0%	0.0%
	精神障がい者 n=32	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	3.1%	3.1%
	難病患者 n=34	0.0%	0.0%	8.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	5.9%	0.0%

		服薬管理	その他	無回答
	全体 n=191	41.4%	18.8%	8.4%
障 が い 種 別	身体障がい者 n=131	27.5%	19.1%	9.9%
	知的障がい者 n=25	48.0%	28.0%	12.0%
	精神障がい者 n=32	65.6%	21.9%	3.1%
	難病患者 n=34	52.9%	17.6%	8.8%

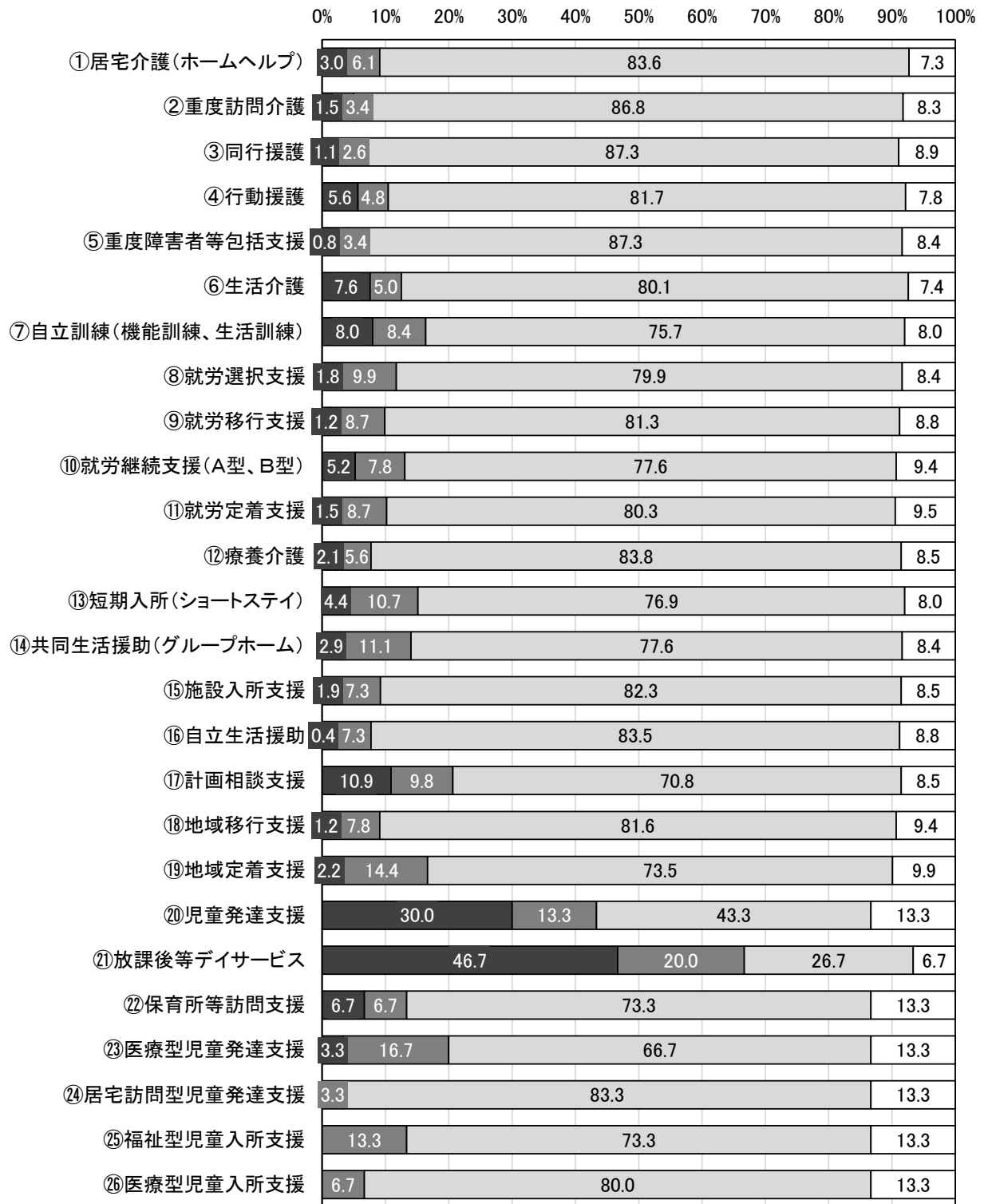
3. 障がい福祉サービス等の利用について

問 17 あなたは次のサービスを利用していますか。または、今後利用したいと考えますか。
(①から②⑥のそれぞれについて回答してください)

(1) 全体 ※①～⑱ n=727 ⑳～㉔ n=30

サービスの利用状況及び利用意向について、「利用している」をみると、『㉑放課後等デイサービス』が46.7%で最も高く、次いで『㉒児童発達支援』、『㉓計画相談支援』と続きます。

また、「利用したい」をみると、『㉑放課後等デイサービス』が20.0%で最も高く、次いで『㉓医療型児童発達支援』、『㉒地域定着支援』と続きます。

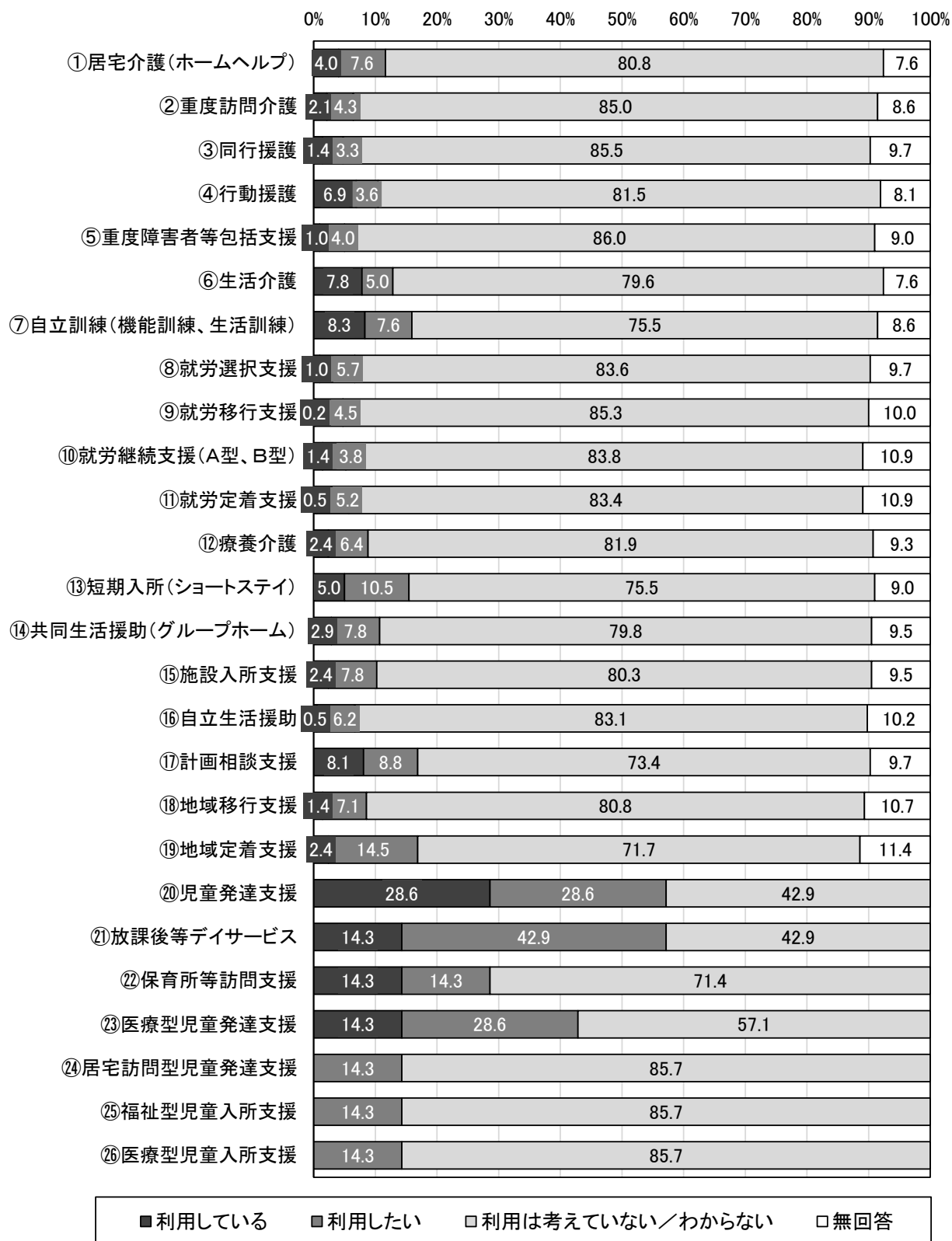


■利用している ■利用したい □利用は考えていない／わからない □無回答

(2) 身体障がい者 ※①～⑱ n=421 ⑳～㉔ n=7

身体障がい者のサービスの利用状況及び利用意向について、「利用している」をみると、『㉔児童発達支援』が 28.6%で最も高く、次いで『㉑放課後等デイサービス』『㉒保育所等訪問支援』『㉓医療型児童発達支援』と続きます。

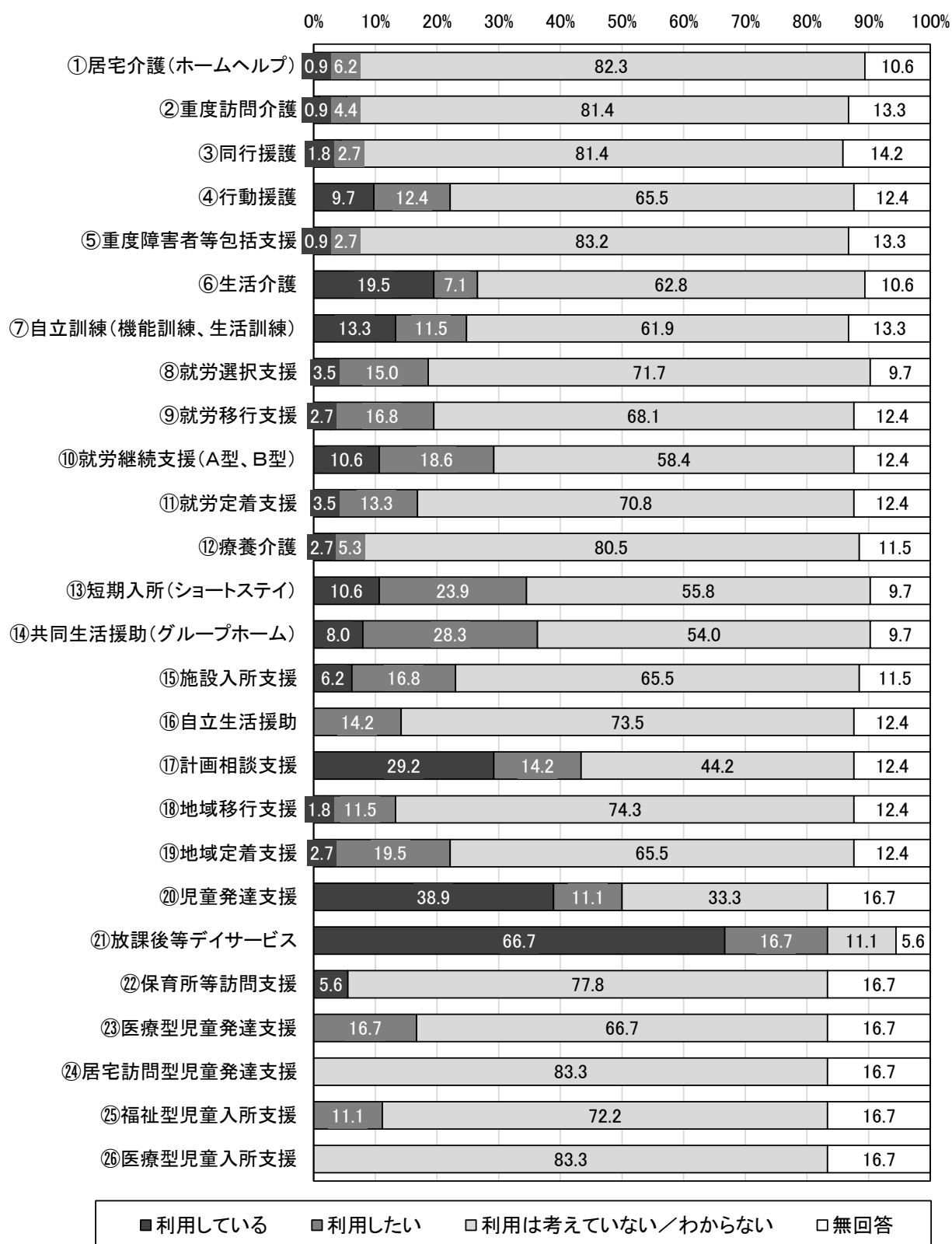
また、「利用したい」をみると、『㉑放課後等デイサービス』が 42.9%で最も高く、次いで『㉔児童発達支援』『㉓医療型児童発達支援』と続きます。



(3) 知的障がい者 ※①～⑱ n=113 ⑳～㉔ n=18

知的障がい者のサービスの利用状況及び利用意向について、「利用している」をみると、『㉑放課後等デイサービス』が66.7%で最も高く、次いで『㉒児童発達支援』『㉓計画相談支援』と続きます。

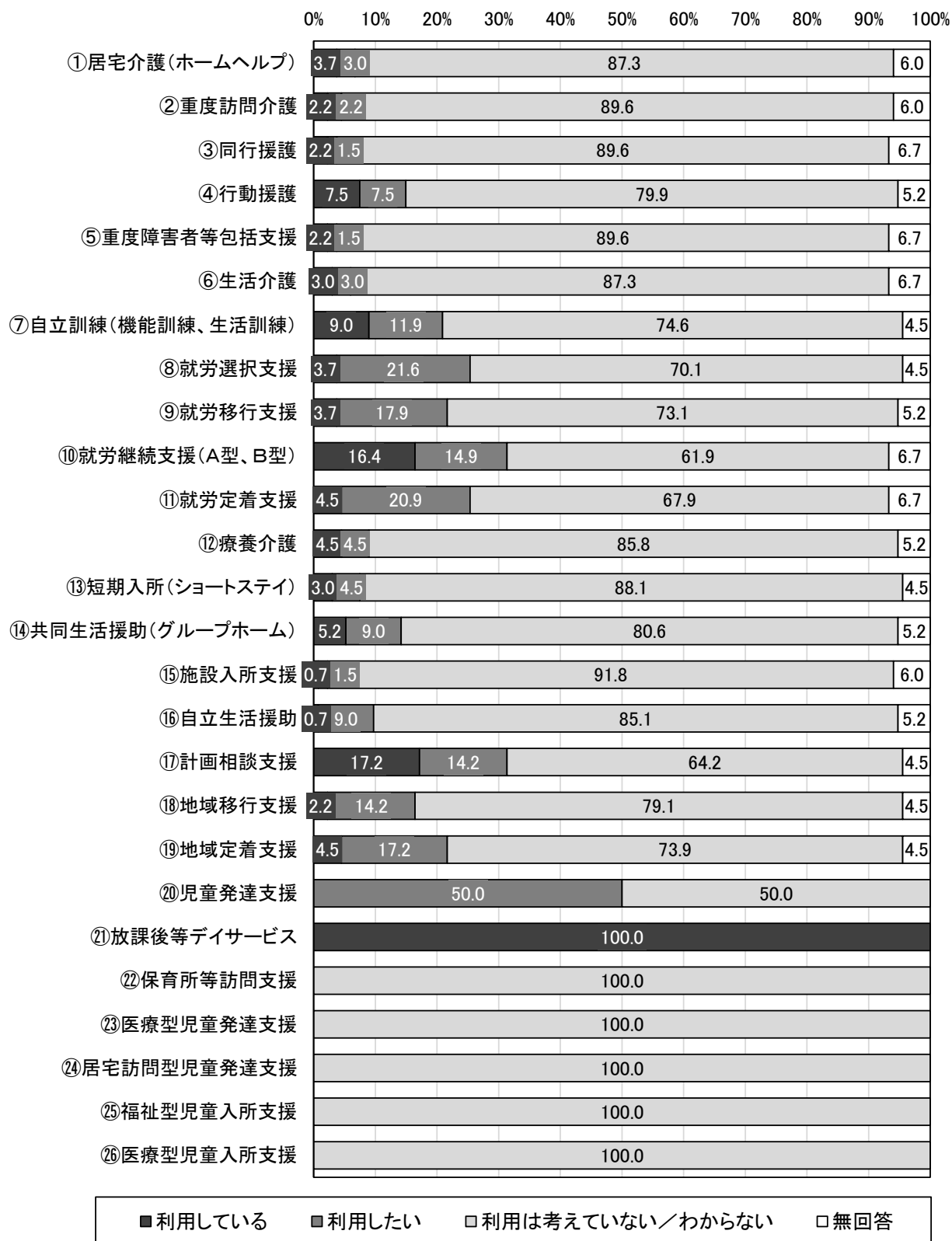
また、「利用したい」をみると、『㉔共同生活援助（グループホーム）』が28.3%で最も高く、次いで『㉑短期入所（ショートステイ）』『㉒地域定着支援』と続きます。



(4) 精神障がい者 ※①～⑱ n=134 ⑳～㉔ n=2

精神障がい者のサービスの利用状況及び利用意向について、「利用している」をみると、『㉑放課後等デイサービス』が100.0%で最も高く、次いで『⑰計画相談支援』『⑩就労継続支援（A型、B型）』と続きます。

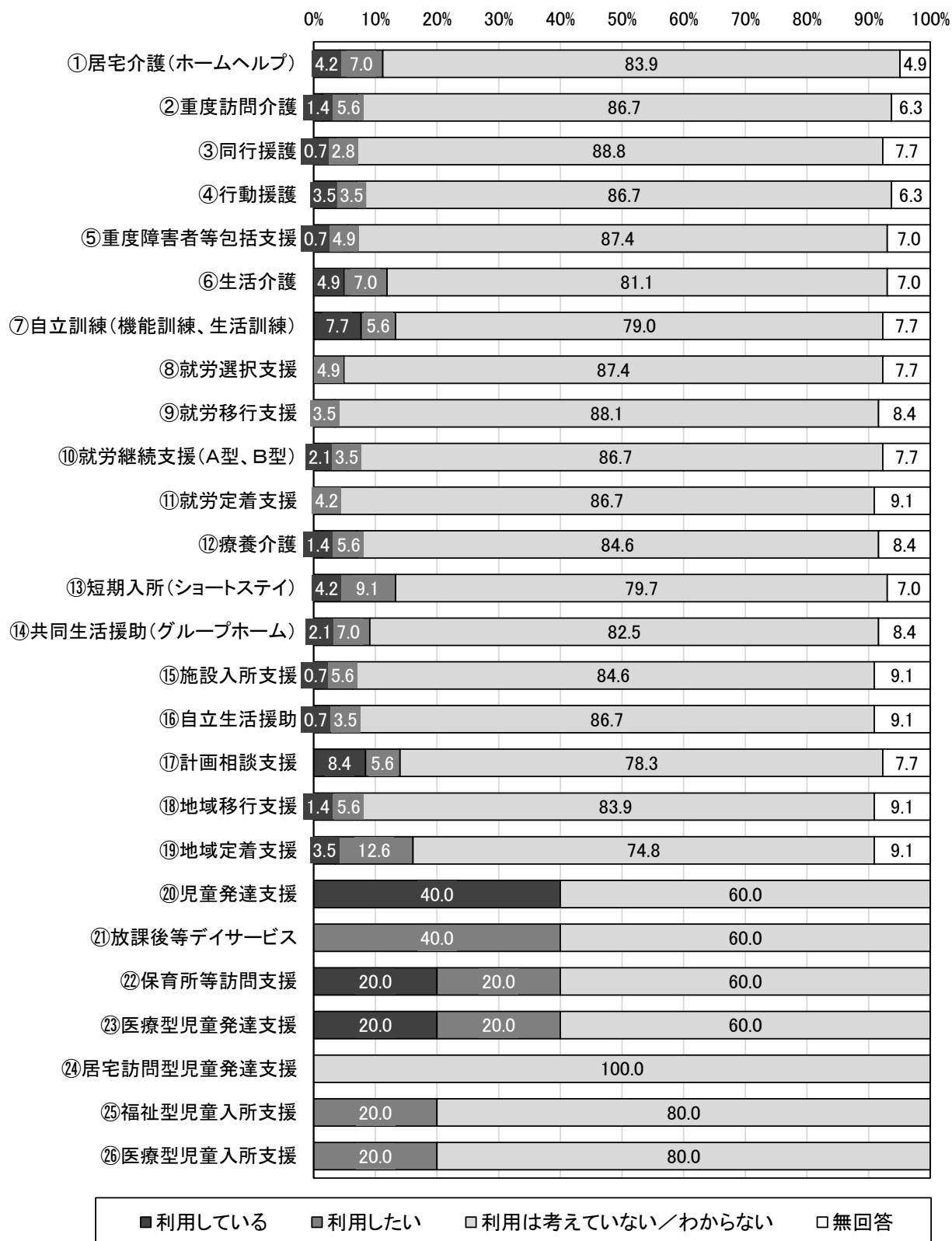
また、「利用したい」をみると、『㉒児童発達支援』が50.0%で最も高く、次いで『⑧就労選択支援』『⑪就労定着支援』と続きます。



(5) 難病患者 ※①～⑱ n=143 ⑳～㉔ n=5

難病患者のサービスの利用状況及び利用意向について、「利用している」をみると、『㉔児童発達支援』が40.0%で最も高く、次いで『㉔保育所等訪問支援』『㉔医療型児童発達支援』と続きます。

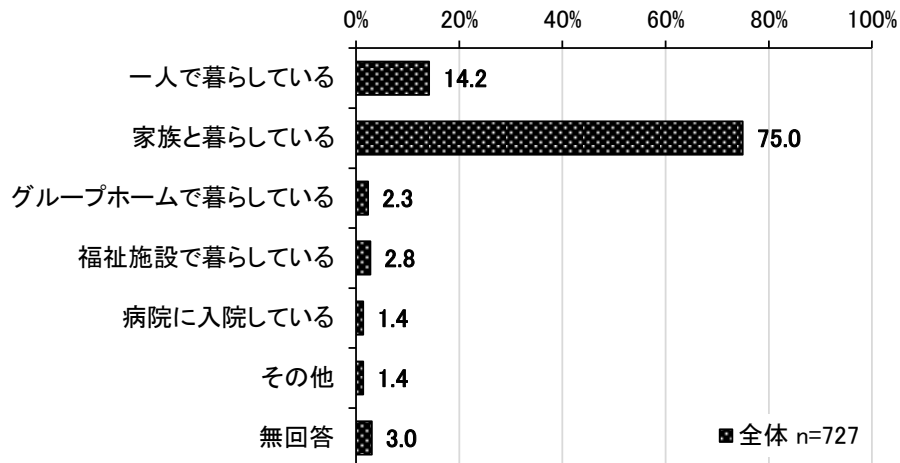
また、「利用したい」をみると、『㉔放課後等デイサービス』が40.0%で最も高く、次いで『㉔保育所等訪問支援』『㉔医療型児童発達支援』『㉔福祉型児童入所支援』『㉔医療型児童入所支援』と続きます。



4. 住まいや暮らしについて

問 18 あなたは現在、どのように暮らしていますか。（1つのみ）

暮らしの状況については、「家族と暮らしている」が75.0%で最も高く、次いで「一人で暮らしている」が14.2%、「福祉施設（障がい者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」が2.8%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「一人で暮らしている」は精神障がい者が22.4%で最も高くなっています。一方で、「家族と暮らしている」は難病患者が86.7%で最も高くなっています。なお、「グループホームで暮らしている」「福祉施設で暮らしている」は、知的障がい者の割合が他の障がい種別と比べて高くなっています。

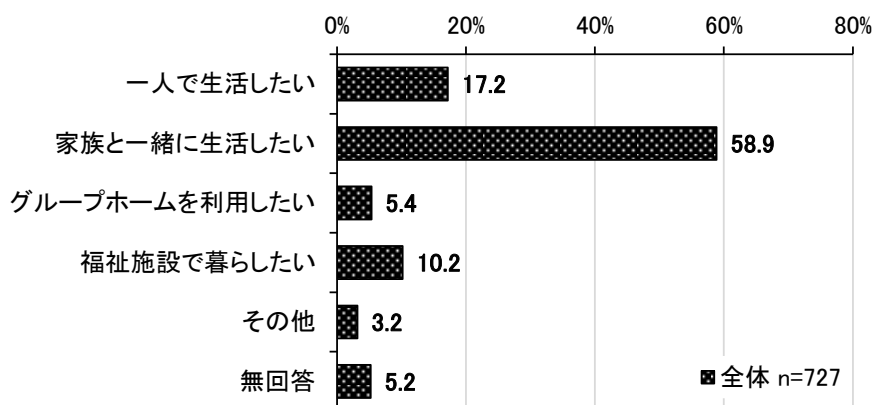
		一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	福祉施設で暮らしている	病院に入院している	その他	無回答
	全体 n=727	14.2%	75.0%	2.3%	2.8%	1.4%	1.4%	3.0%
障がい種別	身体障がい者 n=421	15.0%	72.7%	2.4%	3.3%	1.4%	1.7%	3.6%
	知的障がい者 n=113	4.4%	79.6%	6.2%	6.2%	0.9%	0.9%	1.8%
	精神障がい者 n=134	22.4%	66.4%	3.0%	1.5%	3.7%	0.7%	2.2%
	難病患者 n=143	8.4%	86.7%	1.4%	1.4%	0.0%	1.4%	0.7%

■ 経年比較

	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	福祉施設で暮らしている	病院に入院している	その他	無回答
R7_今回調査 n=727	14.2%	75.0%	2.3%	2.8%	1.4%	1.4%	3.0%
R4_前回調査 n=772	14.8%	74.5%	3.6%	2.5%	1.4%	0.9%	2.3%
R2_前々回調査 n=903	11.1%	76.3%	2.2%	4.4%	1.6%	1.3%	3.1%

問 19 あなたは将来、どのように生活したいと思いますか。（1つのみ）

今後の生活については、「家族と一緒に生活したい」が 58.9%で最も高く、次いで「一人で生活したい」が 17.2%、「福祉施設（障がい者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい」が 10.2%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「一人で生活したい」は精神障がい者が 32.1%で最も高くなっています。一方で、「家族と一緒に暮らしたい」は難病患者が 67.8%で最も高くなっています。なお、「グループホームを利用したい」「福祉施設で暮らしたい」は、知的障がい者の割合が他の障がい種別と比べて高くなっています。

		一人で生活したい	家族と一緒に生活したい	グループホームを利用したい	福祉施設で暮らしたい	その他	無回答
全体 n=727		17.2%	58.9%	5.4%	10.2%	3.2%	5.2%
障がい種別	身体障がい者 n=421	15.0%	62.9%	3.3%	10.2%	2.4%	6.2%
	知的障がい者 n=113	8.0%	48.7%	16.8%	16.8%	5.3%	4.4%
	精神障がい者 n=134	32.1%	46.3%	5.2%	6.0%	5.2%	5.2%
	難病患者 n=143	11.2%	67.8%	2.8%	10.5%	2.8%	4.9%

■ 経年比較

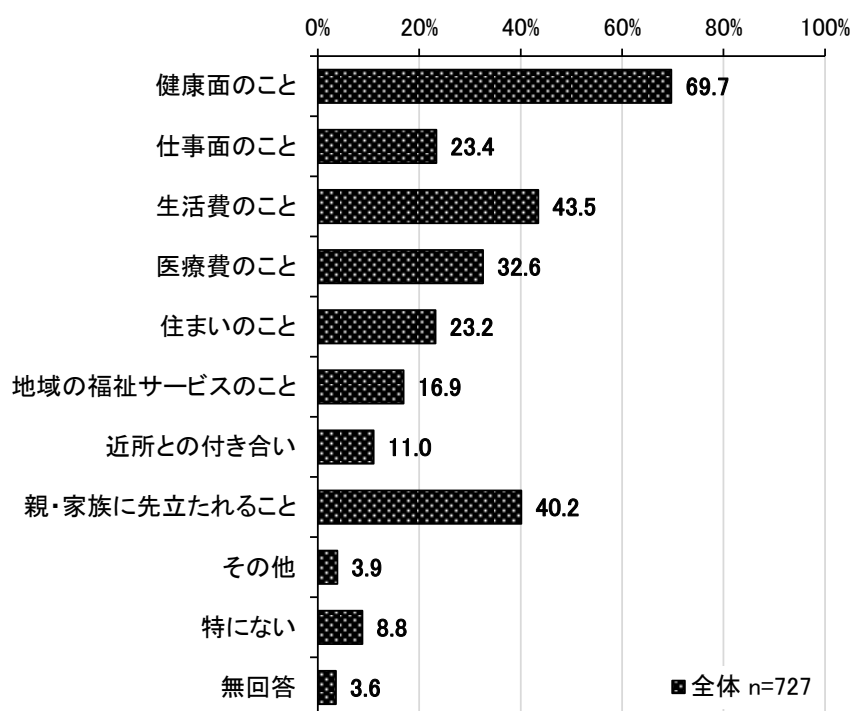
「一人で生活したい」は、前回調査と比べて 4.0 ポイント減少する一方で、「福祉施設で暮らしたい」は 2.7 ポイント増加しています。

	一人で生活したい	家族と一緒に生活したい	グループホームを利用したい	福祉施設で暮らしたい	その他	無回答
R7_今回調査 n=727	17.2%	58.9%	5.4%	10.2%	3.2%	5.2%
R4_前回調査 n=772	21.2%	56.3%	7.3%	7.5%	2.2%	5.4%
R2_前々回調査 n=903	16.8%	57.1%	6.3%	9.7%	4.2%	5.8%

問 20 あなたにとって将来の心配事は何ですか。(いくつでも)

将来の心配事については、「健康面のこと」が 69.7%で最も高く、次いで「生活費のこと」が 43.5%、「親・家族に先立たれること」が 40.2%となっています。

なお、「特にない」は 8.8%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、身体障がい者では、「健康面のこと」が71.5%で最も高く、次いで「生活費のこと」が36.3%、「親・家族に先立たれること」が33.3%となっています。

知的障がい者では、「親・家族に先立たれること」が73.5%で最も高く、次いで「健康面のこと」が52.2%、「生活費のこと」が49.6%となっています。

精神障がい者では、「生活費のこと」が72.4%で最も高く、次いで「健康面のこと」が71.6%、「医療費のこと」が50.7%となっています。

難病患者では、「健康面のこと」が76.9%で最も高く、次いで「医療費のこと」が42.7%、「生活費のこと」が38.5%となっています。

		健康面のこと	仕事面のこと	生活費のこと	医療費のこと	住まいのこと	地域の福祉サービスのこと	近所との付き合い	親・家族に先立たれること	その他	特にない
	全体 n=727	69.7%	23.4%	43.5%	32.6%	23.2%	16.9%	11.0%	40.2%	3.9%	8.8%
障がい種別	身体障がい者 n=421	71.5%	13.3%	36.3%	26.8%	15.9%	15.2%	8.3%	33.3%	3.8%	9.7%
	知的障がい者 n=113	52.2%	32.7%	49.6%	30.1%	31.9%	23.0%	15.0%	73.5%	3.5%	4.4%
	精神障がい者 n=134	71.6%	50.0%	72.4%	50.7%	41.8%	14.2%	20.9%	47.0%	5.2%	6.0%
	難病患者 n=143	76.9%	21.0%	38.5%	42.7%	18.2%	19.6%	7.7%	32.9%	3.5%	9.8%

		無回答
全体 n=727		3.6%
障がい種別	身体障がい者 n=421	4.3%
	知的障がい者 n=113	0.9%
	精神障がい者 n=134	2.2%
	難病患者 n=143	1.4%

■経年比較

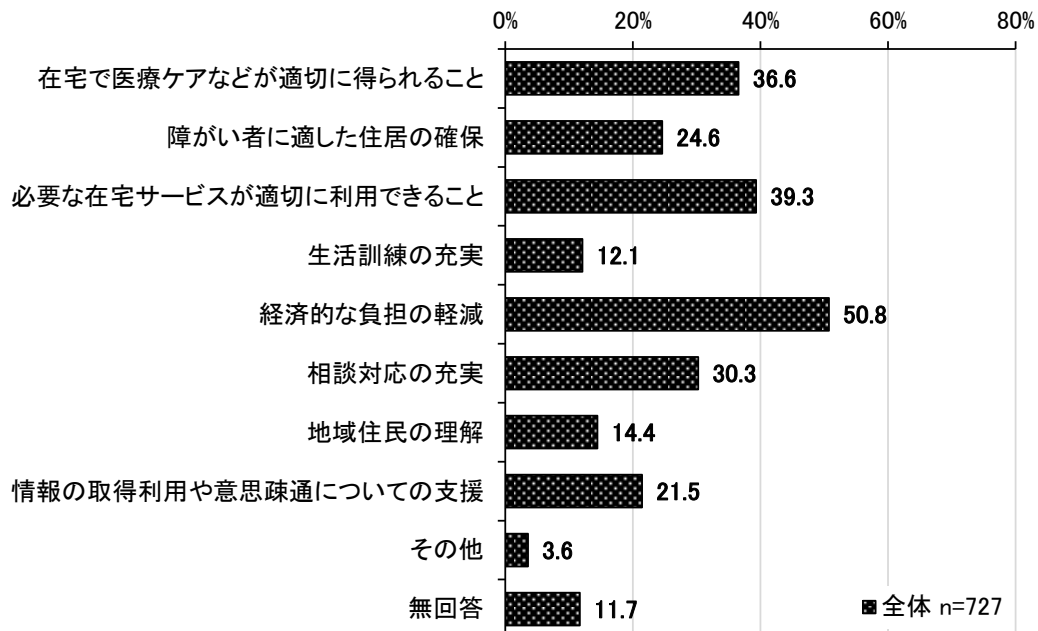
前回調査と比べて、「仕事面のこと」が8.5ポイント、「生活費のこと」が14.0ポイント減少しています。

	健康面のこと	仕事面のこと	生活費のこと	医療費のこと	住まいのこと	地域の福祉サービスのこと	近所との付き合い	親・家族に先立たれること	その他	特にない
R7_今回調査 n=727	69.7%	23.4%	43.5%	32.6%	23.2%	16.9%	11.0%	40.2%	3.9%	8.8%
R4_前回調査 n=772	68.8%	31.9%	57.5%	34.1%	30.6%	22.5%	14.0%	46.4%	3.0%	5.4%
R2_前々回調査 n=903	71.2%	27.1%	51.7%	34.2%	28.9%	24.5%	15.4%	45.2%	3.8%	6.8%

	無回答
R7_今回調査 n=727	3.6%
R4_前回調査 n=772	2.8%
R2_前々回調査 n=903	4.3%

問 21 地域で生活するために、どのような支援があればよいと思いますか。(いくつでも)

地域で生活するために必要な支援については、「経済的な負担の軽減」が 50.8%で最も高く、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が 39.3%、「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」が 36.6%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「経済的な負担の軽減」は、精神障がい者が 65.7%で最も高く、次いで難病患者が 64.3%、知的障がい者が 45.1%となっています。また、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」は、難病患者が 52.4%で最も高く、次いで知的障がい者が 41.6%、身体障がい者が 39.2%となっています。

	在宅で医療ケアなどが適切に得られること	障がい者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練の充実	経済的な負担の軽減	相談対応の充実	地域住民の理解	情報の取得利用や意思疎通についての支援	その他	無回答
全体 n=727	36.6%	24.6%	39.3%	12.1%	50.8%	30.3%	14.4%	21.5%	3.6%	11.7%
障がい種別										
身体障がい者 n=421	40.6%	19.2%	39.2%	6.7%	41.8%	24.7%	10.2%	17.1%	2.4%	15.2%
知的障がい者 n=113	15.9%	40.7%	41.6%	22.1%	45.1%	42.5%	30.1%	32.7%	4.4%	8.0%
精神障がい者 n=134	24.6%	41.0%	29.1%	20.9%	65.7%	41.8%	22.4%	25.4%	6.0%	7.5%
難病患者 n=143	50.3%	15.4%	52.4%	9.8%	64.3%	25.9%	10.5%	18.9%	2.8%	8.4%

■ 経年比較

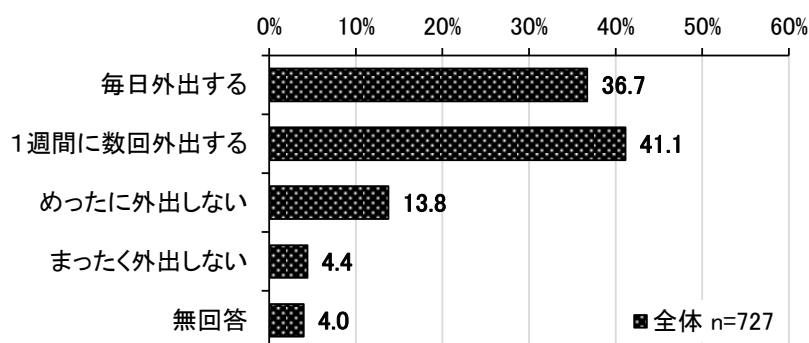
「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」は、前回調査と比べて 7.6 ポイント増加する一方で、「経済的な負担の軽減」は 8.3 ポイント減少しています。

	在宅で医療ケアなどが適切に得られること	障がい者に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練の充実	経済的な負担の軽減	相談対応の充実	地域住民の理解	情報の取得利用や意思疎通についての支援	その他	無回答
R7_今回調査 n=727	36.6%	24.6%	39.3%	12.1%	50.8%	30.3%	14.4%	21.5%	3.6%	11.7%
R4_前回調査 n=772	29.0%	28.4%	35.8%	19.2%	59.1%	36.3%	20.5%	21.1%	2.8%	11.9%
R2_前々回調査 n=903	31.7%	28.5%	37.3%	18.1%	56.6%	32.6%	23.4%	20.9%	3.8%	13.7%

5. 日中活動について

問 22 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。（1つのみ）

1週間の外出頻度については、「1週間に数回外出する」が41.1%で最も高く、次いで「毎日外出する」が36.7%、「めったに外出しない」が13.8%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「毎日外出する」は、知的障がい者が58.4%で最も高く、他の障がい種別では約3割となっています。

		毎日外出する	1週間に数回外出する	めったに外出しない	まったく外出しない	無回答
全体 n=727		36.7%	41.1%	13.8%	4.4%	4.0%
障がい種別	身体障がい者 n=421	31.4%	44.7%	14.5%	5.0%	4.5%
	知的障がい者 n=113	58.4%	25.7%	8.8%	5.3%	1.8%
	精神障がい者 n=134	32.8%	43.3%	16.4%	3.7%	3.7%
	難病患者 n=143	32.9%	46.9%	16.1%	2.1%	2.1%

■ 経年比較

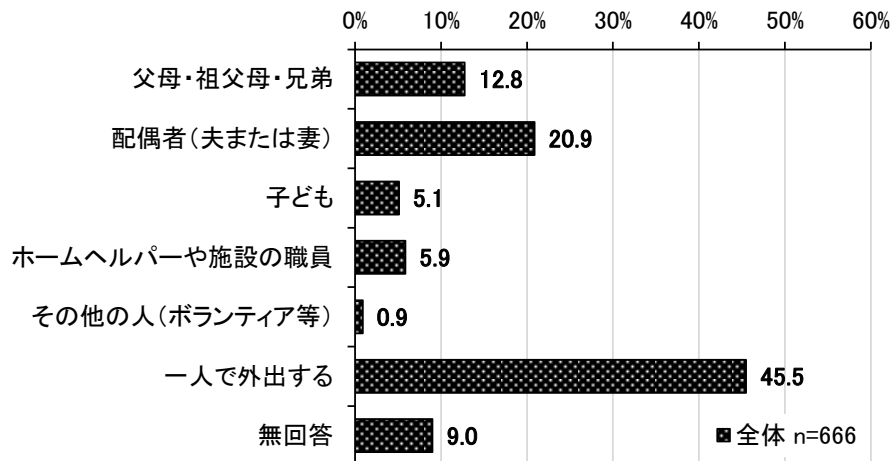
「毎日外出する」は、前回調査と比べて6.2ポイント減少しています。

	毎日外出する	1週間に数回外出する	めったに外出しない	まったく外出しない	無回答
R7_今回調査 n=727	36.7%	41.1%	13.8%	4.4%	4.0%
R4_前回調査 n=772	42.9%	40.0%	10.9%	3.4%	2.8%
R2_前々回調査 n=903	42.7%	37.3%	11.7%	3.8%	4.4%

【問 22 で「毎日外出する」「1週間に数回外出する」「めったに外出しない」と回答した方にお聞きします。】

問 23 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。（1つのみ）

外出する際の主な同伴者については、「一人で外出する」が 45.5%で最も高く、次いで「配偶者（夫または妻）」が 20.9%、「父母・祖父母・兄弟」が 12.8%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「父母・祖父母・兄弟」は知的障がい者が 35.2%で最も高くなっています。一方で、「一人で外出する」は精神障がい者が 48.4%で最も高くなっています。なお、「ホームヘルパーや施設の職員」は、知的障がい者の割合が他の障がい種別と比べて高くなっています。

		父母・祖父母・兄弟	配偶者(夫または妻)	子ども	ホームヘルパーや施設の職員	その他の人(ボランティア等)	一人で外出する	無回答
全体 n=666		12.8%	20.9%	5.1%	5.9%	0.9%	45.5%	9.0%
障がい種別	身体障がい者 n=381	7.1%	26.8%	6.6%	6.0%	1.6%	44.4%	7.6%
	知的障がい者 n=105	35.2%	1.9%	0.0%	11.4%	1.0%	32.4%	18.1%
	精神障がい者 n=124	21.8%	12.1%	2.4%	3.2%	0.0%	48.4%	12.1%
	難病患者 n=137	6.6%	29.2%	6.6%	4.4%	0.0%	44.5%	8.8%

■ 経年比較

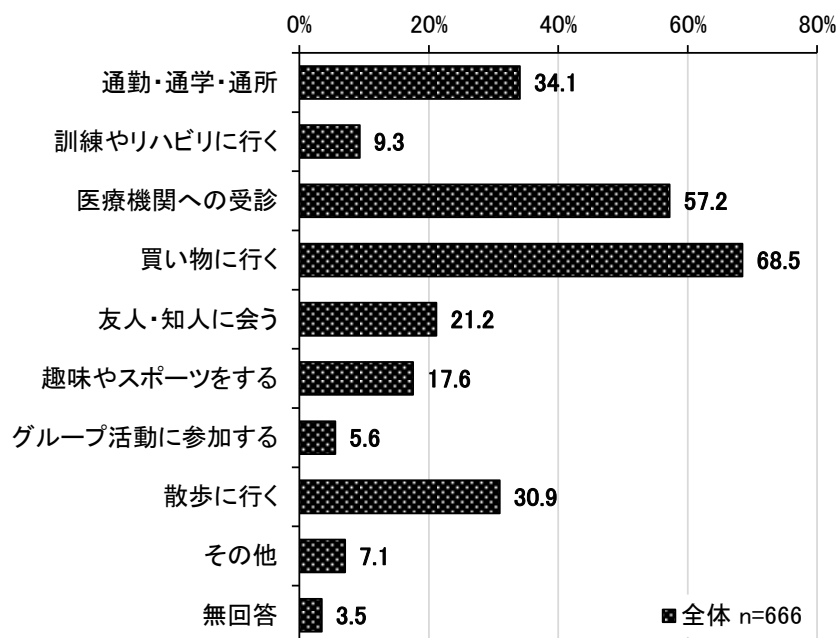
「父母・祖父母・兄弟」は、前回調査と比べて 6.1 ポイント減少する一方で、「配偶者（夫または妻）」は 5.2 ポイント増加しています。

	父母・祖父母・兄弟	配偶者(夫または妻)	子ども	ホームヘルパーや施設の職員	その他の人(ボランティア等)	一人で外出する	無回答
R7_今回調査 n=666	12.8%	20.9%	5.1%	5.9%	0.9%	45.5%	9.0%
R4_前回調査 n=724	18.9%	15.7%	2.9%	5.5%	0.8%	46.7%	9.4%
R2_前々回調査 n=829	18.8%	17.9%	2.9%	6.5%	1.1%	41.7%	11.1%

【問 22 で「毎日外出する」「1週間に数回外出する」「めったに外出しない」と回答した方にお聞きします。】

問 24 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(いくつでも)

外出の目的については、「買い物に行く」が 68.5%で最も高く、次いで「医療機関への受診」が 57.2%、「通勤・通学・通所」が 34.1%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「通勤・通学・通所」は、知的障がい者が 73.3%で最も高く、次いで精神障がい者が 33.1%、難病患者が 30.7%となっています。また、「医療機関への受診」は、難病患者が 62.0%で最も高く、次いで身体障がい者が 60.1%、精神障がい者が 58.1%となっています。

		通勤・通学・通所	訓練やリハビリに行く	医療機関への受診	買い物に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	グループ活動に参加する	散歩に行く	その他	無回答
全体 n=666		34.1%	9.3%	57.2%	68.5%	21.2%	17.6%	5.6%	30.9%	7.1%	3.5%
障がい種別	身体障がい者 n=381	23.9%	11.5%	60.1%	65.4%	18.6%	16.5%	6.6%	28.1%	6.8%	3.1%
	知的障がい者 n=105	73.3%	6.7%	41.9%	63.8%	21.0%	17.1%	4.8%	32.4%	9.5%	1.9%
	精神障がい者 n=124	33.1%	10.5%	58.1%	62.1%	23.4%	18.5%	3.2%	31.5%	8.1%	5.6%
	難病患者 n=137	30.7%	10.9%	62.0%	74.5%	23.4%	15.3%	3.6%	26.3%	6.6%	2.9%

■ 経年比較

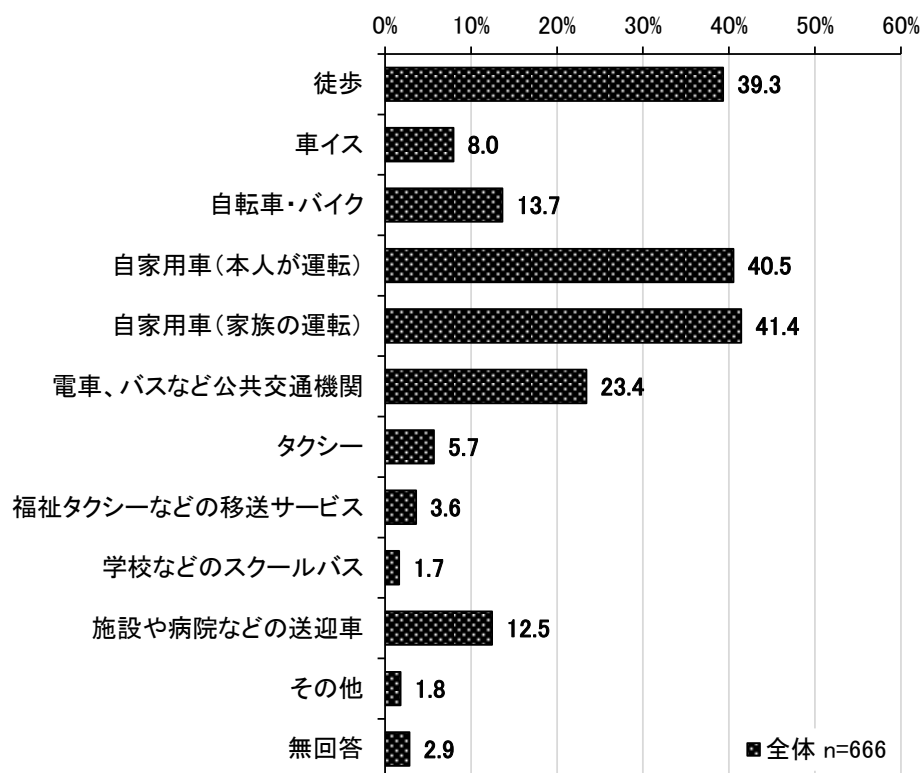
「通勤・通学・通所」は、前回調査と比べて 8.1 ポイント減少しています。

	通勤・通学・通所	訓練やリハビリに行く	医療機関への受診	買い物に行く	友人・知人に会う	趣味やスポーツをする	グループ活動に参加する	散歩に行く	その他	無回答
R7_今回調査 n=666	34.1%	9.3%	57.2%	68.5%	21.2%	17.6%	5.6%	30.9%	7.1%	3.5%
R4_前回調査 n=724	42.2%	10.2%	56.6%	70.7%	19.7%	16.6%	4.1%	29.9%	4.3%	1.7%
R2_前々回調査 n=829	41.1%	11.8%	61.3%	72.4%	27.1%	18.8%	5.5%	35.9%	5.4%	2.7%

【問 22 で「毎日外出する」「1週間に数回外出する」「めったに外出しない」と回答した方にお聞きします。】

問 25 外出する時によく利用する交通手段は何ですか。（いくつでも）

外出時に利用する交通手段については、「自家用車（家族の運転）」が 41.4%で最も高く、次いで「自家用車（本人が運転）」が 40.5%、「徒歩」が 39.3%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、身体障がい者では、「自家用車（本人が運転）」が 45.1%で最も高く、次いで「自家用車（家族の運転）」が 38.6%、「徒歩」が 33.6%となっています。

知的障がい者では、「自家用車（家族の運転）」が 54.3%で最も高く、次いで「徒歩」が 41.0%、「電車、バスなど公共交通機関」が 30.5%となっています。

精神障がい者では、「徒歩」が 47.6%で最も高く、次いで「自家用車（家族の運転）」が 41.1%、「電車、バスなど公共交通機関」が 33.9%となっています。

難病患者では、「自家用車（本人が運転）」が 50.4%で最も高く、次いで「自家用車（家族の運転）」が 44.5%、「徒歩」が 31.4%となっています。

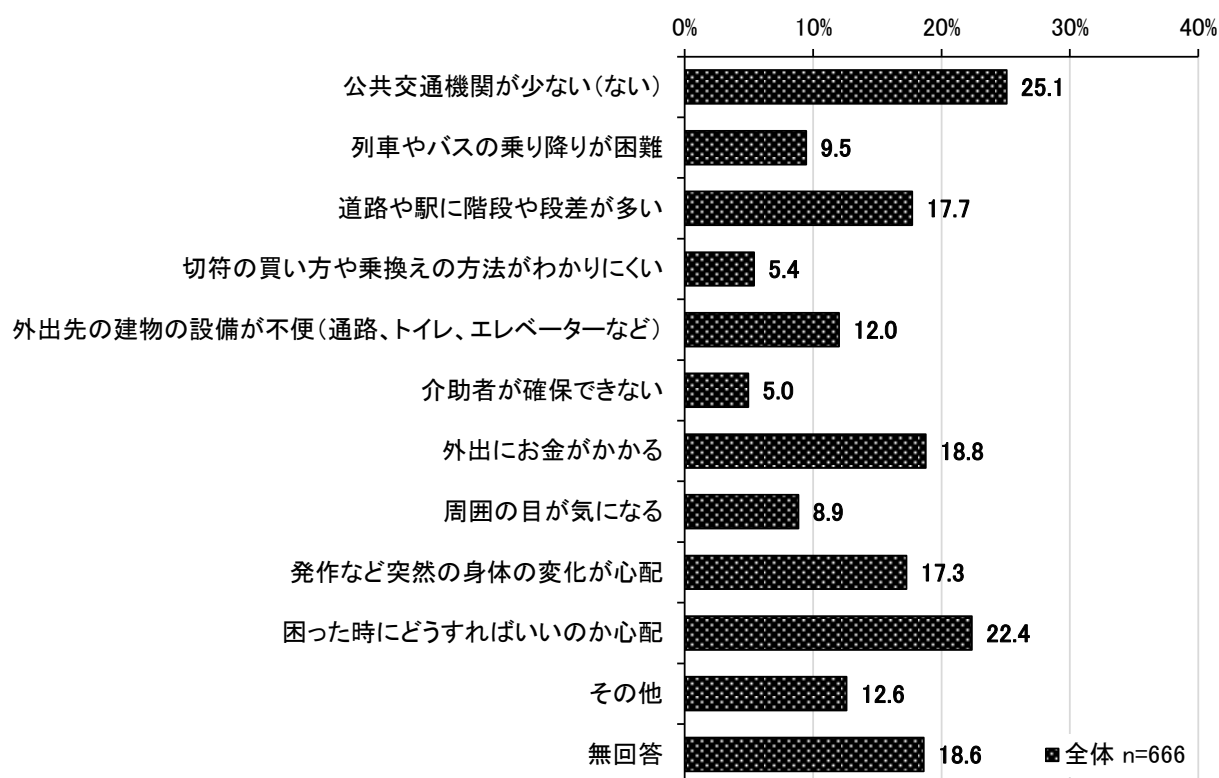
		徒歩	車イス	自転車・バイク	自家用車 (本人が運転)	自家用車 (家族の運転)	電車、バス など公共交通機関	タクシー	福祉タクシー などの移送サービス	学校などの スクールバス	施設や病院 などの送迎車
	全体 n=666	39.3%	8.0%	13.7%	40.5%	41.4%	23.4%	5.7%	3.6%	1.7%	12.5%
障がい種別	身体障がい者 n=381	33.6%	10.8%	9.2%	45.1%	38.6%	19.7%	6.6%	3.9%	0.5%	12.3%
	知的障がい者 n=105	41.0%	3.8%	26.7%	6.7%	54.3%	30.5%	3.8%	2.9%	9.5%	28.6%
	精神障がい者 n=124	47.6%	4.8%	20.2%	31.5%	41.1%	33.9%	7.3%	2.4%	0.0%	10.5%
	難病患者 n=137	31.4%	11.7%	10.2%	50.4%	44.5%	17.5%	2.9%	5.1%	1.5%	8.0%

		その他	無回答
	全体 n=666	1.8%	2.9%
障がい種別	身体障がい者 n=381	2.1%	2.9%
	知的障がい者 n=105	1.0%	3.8%
	精神障がい者 n=124	0.8%	4.8%
	難病患者 n=137	1.5%	2.9%

【問 22 で「毎日外出する」「1週間に数回外出する」「めったに外出しない」と回答した方にお聞きします。】

問 26 外出する時に困ることは何ですか。(いくつでも)

外出時の困りごとについては、「公共交通機関が少ない(ない)」が 25.1%で最も高く、次いで「困った時にどうすればいいのか心配」が 22.4%、「外出にお金がかかる」が 18.8%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、身体障がい者では、「公共交通機関が少ない（ない）」が 22.8%で最も高く、次いで「道路や駅に階段や段差が多い」が 21.8%、「発作など突然の身体の変化が心配」が 17.8%となっています。

知的障がい者では、「困った時にどうすればいいのか心配」が 37.1%で最も高く、次いで「公共交通機関が少ない（ない）」が 18.1%、「切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい」「外出にお金がかかる」「周囲の目が気になる」がともに 13.3%となっています。

精神障がい者では、「困った時にどうすればいいのか心配」が 35.5%で最も高く、次いで「外出にお金がかかる」が 32.3%、「公共交通機関が少ない（ない）」が 30.6%となっています。

難病患者では、「公共交通機関が少ない（ない）」が 28.5%で最も高く、次いで「道路や駅に階段や段差が多い」が 27.0%、「外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」が 20.4%となっています。

		公共交通機関が少ない（ない）	列車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）	介助者が確保できない	外出にお金がかかる	周囲の目が気になる	発作など突然の身体の変化が心配	困った時にどうすればいいのか心配
全体 n=666		25.1%	9.5%	17.7%	5.4%	12.0%	5.0%	18.8%	8.9%	17.3%	22.4%
障がい種別	身体障がい者 n=381	22.8%	12.1%	21.8%	4.2%	13.1%	5.5%	16.5%	4.5%	17.8%	17.6%
	知的障がい者 n=105	18.1%	8.6%	9.5%	13.3%	9.5%	7.6%	13.3%	13.3%	9.5%	37.1%
	精神障がい者 n=124	30.6%	6.5%	8.1%	8.1%	4.8%	3.2%	32.3%	25.0%	26.6%	35.5%
	難病患者 n=137	28.5%	12.4%	27.0%	2.2%	20.4%	4.4%	15.3%	3.6%	14.6%	13.9%

		その他	無回答
全体 n=666		12.6%	18.6%
障がい種別	身体障がい者 n=381	12.6%	21.3%
	知的障がい者 n=105	10.5%	18.1%
	精神障がい者 n=124	6.5%	13.7%
	難病患者 n=137	18.2%	18.2%

■経年比較

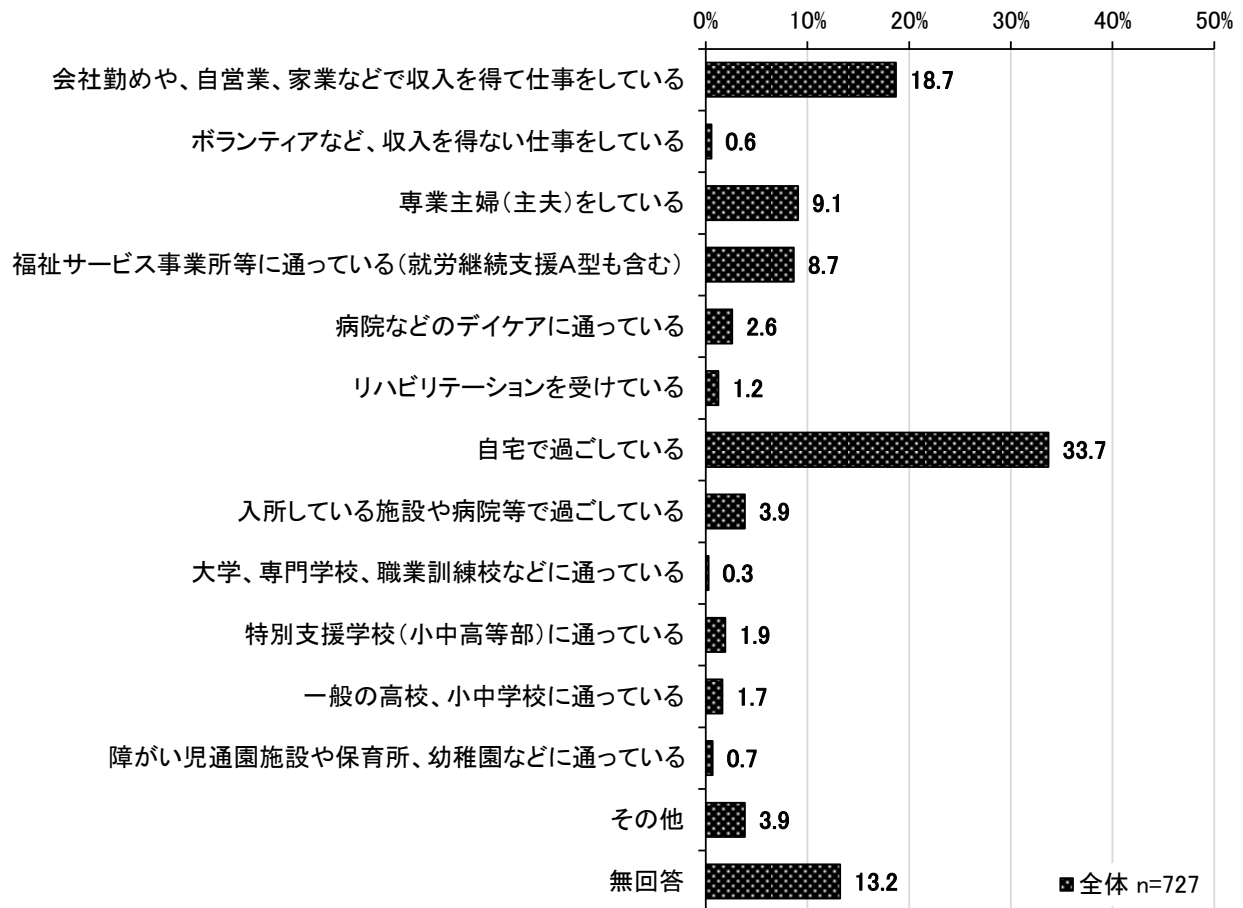
「公共交通機関が少ない（ない）」は、前回調査と比べて 2.7 ポイント増加しています。

		公共交通機関が少ない（ない）	列車やバスの乗り降りが困難	道路や駅に階段や段差が多い	切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい	外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）	介助者が確保できない	外出にお金がかかる	周囲の目が気になる	発作など突然の身体の変化が心配	困った時にどうすればいいのか心配
R7_今回調査 n=666		25.1%	9.5%	17.7%	5.4%	12.0%	5.0%	18.8%	8.9%	17.3%	22.4%
R4_前回調査 n=724		22.4%	8.9%	15.5%	8.7%	13.0%	5.2%	19.4%	10.4%	15.4%	22.4%
R2_前々回調査 n=829		22.4%	14.2%	22.7%	10.1%	18.6%	8.0%	22.2%	12.2%	15.4%	23.6%

		その他	無回答
R7_今回調査 n=666		12.6%	18.6%
R4_前回調査 n=724		9.1%	18.1%
R2_前々回調査 n=829		9.7%	18.3%

問 27 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。（1つのみ）

平日の日中の主な過ごし方については、「自宅で過ごしている」が 33.7%で最も高く、次いで「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が 18.7%、「専業主婦（主夫）をしている」が 9.1%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」は、難病患者が 24.5%で最も高く、次いで精神障がい者が 17.2%、知的障がい者が 16.8%となっています。一方で、「大学、専門学校、職業訓練校などに通っている」「特別支援学校（小中高等部）に通っている」「一般の高校、小中学校に通っている」「障がい児通園施設や保育所、幼稚園などに通っている」の合計値は、知的障がい者が 20.3%で最も高くなっています。

		会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている	ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	専業主婦（主夫）をしている	福祉サービス事業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている	入所している施設や病院等で過ごしている	大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	特別支援学校（小中高等部）に通っている
	全体 n=727	18.7%	0.6%	9.1%	8.7%	2.6%	1.2%	33.7%	3.9%	0.3%	1.9%
障がい種別	身体障がい者 n=421	16.4%	0.7%	10.0%	4.0%	3.3%	2.1%	39.9%	4.0%	0.0%	0.5%
	知的障がい者 n=113	16.8%	0.0%	0.0%	31.9%	0.9%	1.8%	8.8%	8.0%	1.8%	11.5%
	精神障がい者 n=134	17.2%	0.7%	5.2%	12.7%	1.5%	0.7%	38.1%	3.7%	0.7%	0.0%
	難病患者 n=143	24.5%	0.0%	15.4%	3.5%	2.8%	1.4%	30.1%	2.1%	0.0%	0.0%

		一般の高校、小中学校に通っている	障がい児通園施設や保育所、幼稚園などに通っている	その他	無回答
	全体 n=727	1.7%	0.7%	3.9%	13.2%
障がい種別	身体障がい者 n=421	0.7%	0.5%	3.8%	14.0%
	知的障がい者 n=113	3.5%	3.5%	5.3%	6.2%
	精神障がい者 n=134	0.7%	0.0%	5.2%	13.4%
	難病患者 n=143	2.1%	0.7%	1.4%	16.1%

■経年比較

「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」は、前回調査と比べて 4.7 ポイント減少しています。

		会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている	ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	専業主婦（主夫）をしている	福祉サービス事業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）	病院などのデイケアに通っている	リハビリテーションを受けている	自宅で過ごしている	入所している施設や病院等で過ごしている	大学、専門学校、職業訓練校などに通っている	特別支援学校（小中高等部）に通っている
	R7_今回調査 n=727	18.7%	0.6%	9.1%	8.7%	2.6%	1.2%	33.7%	3.9%	0.3%	1.9%
	R4_前回調査 n=772	23.4%	0.9%	8.3%	14.0%	2.8%	0.8%	31.6%	4.7%	0.3%	2.3%
	R2_前々回調査 n=903	20.9%	1.3%	7.9%	12.0%	2.1%	1.0%	30.0%	5.9%	0.6%	2.9%

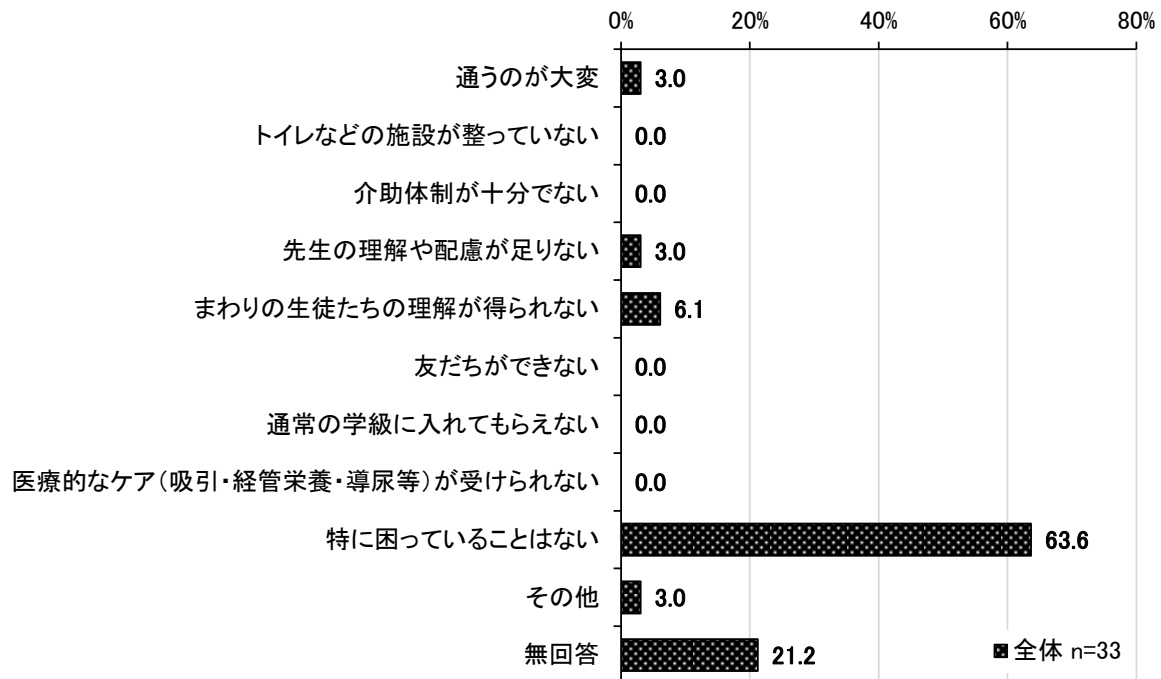
		一般の高校、小中学校に通っている	障がい児通園施設や保育所、幼稚園などに通っている	その他	無回答
	R7_今回調査 n=727	1.7%	0.7%	3.9%	13.2%
	R4_前回調査 n=772	2.2%	1.0%	1.3%	6.3%
	R2_前々回調査 n=903	1.9%	1.0%	2.0%	10.6%

【問 27 で「大学、専門学校、職業訓練校などに通っている」「特別支援学校（小中高等部）に通っている」「一般の高校、小中学校に通っている」「障がい児通園施設や保育所、幼稚園などに通っている」と回答した方にお聞きます。】

問 28 幼稚園・学校などに通っていて困ることはありますか。（1つのみ）

幼稚園・学校などでの困りごとについては、「まわりの生徒たちの理解が得られない」が 6.1%で最も高く、次いで「通うのが大変」「先生の理解や配慮が足りない」がともに 3.0%となっています。

なお、「特に困っていることはない」は 63.6%となっています。



■障がい種別

サンプル数が少数のため、参考値として示すにとどめています。

		通うのが大変	トイレなどの施設が整っていない	介助体制が十分でない	先生の理解や配慮が足りない	まわりの生徒たちの理解が得られない	友だちができない	通常の学級に入れてもらえない	医療的なケア(吸引・経管栄養・導尿等)が受けられない	特に困っていることはない	その他
	全体 n=33	3.0%	0.0%	0.0%	3.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	63.6%	3.0%
障がい種別	身体障がい者 n=7	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	57.1%	0.0%
	知的障がい者 n=23	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	73.9%	0.0%
	精神障がい者 n=2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	難病患者 n=4	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%

		無回答
	全体 n=33	21.2%
障がい種別	身体障がい者 n=7	28.6%
	知的障がい者 n=23	17.4%
	精神障がい者 n=2	100.0%
	難病患者 n=4	0.0%

■経年比較

サンプル数が少数のため、参考値として示すにとどめています。

		通うのが大変	トイレなどの施設が整っていない	介助体制が十分でない	先生の理解や配慮が足りない	まわりの生徒たちの理解が得られない	友だちができない	通常の学級に入れてもらえない	医療的なケア(吸引・経管栄養・導尿等)が受けられない	特に困っていることはない	その他
	R7_今回調査 n=33	3.0%	0.0%	0.0%	3.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	63.6%	3.0%
	R4_前回調査 n=45	13.3%	4.4%	0.0%	6.7%	0.0%	8.9%	0.0%	0.0%	55.6%	6.7%
	R2_前々回調査 n=57	17.5%	3.5%	0.0%	8.8%	1.8%	3.5%	1.8%	0.0%	50.9%	1.8%

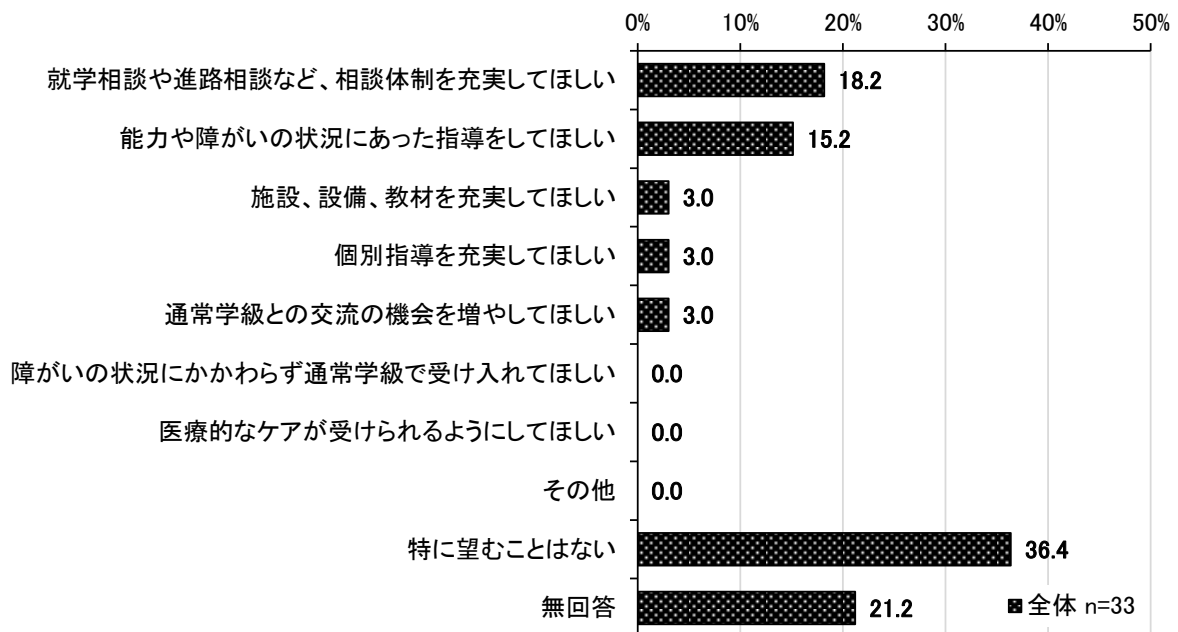
		無回答
	R7_今回調査 n=33	21.2%
	R4_前回調査 n=45	4.4%
	R2_前々回調査 n=57	10.5%

【問 27 で「大学、専門学校、職業訓練校などに通っている」「特別支援学校（小中高等部）に通っている」「一般の高校、小中学校に通っている」「障がい児通園施設や保育所、幼稚園などに通っている」と回答した方にお聞きます。】

問 29 幼稚園・学校などに望むことはどのようなことですか。（1つのみ）

幼稚園・学校などに望むことについては、「就学相談や進路相談など、相談体制を充実してほしい」が 18.2% で最も高く、次いで「能力や障がいの状況にあった指導をしてほしい」が 15.2% となっています。

なお、「特に望むことはない」は 36.4% となっています。



■障がい種別

サンプル数が少数のため、参考値として示すにとどめています。

	就学相談や 進路相談など、相談体 制を充実し てほしい	能力や障が いの状況に あった指導 をしてほしい	施設、設備、 教材を充実 してほしい	個別指導を 充実してほ しい	通常学級と の交流の機 会を増やし てほしい	障がいの状 況にかかわ らず通常学 級で受け入 れてほしい	医療的なケ アが受けら れるようにし てほしい	その他	特に望むこ とはない
全体 n=33	18.2%	15.2%	3.0%	3.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	36.4%
障がい種別									
身体障がい者 n=7	14.3%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%
知的障がい者 n=23	21.7%	13.0%	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	34.8%
精神障がい者 n=2	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
難病患者 n=4	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%

	無回答
全体 n=33	21.2%
障がい種別	
身体障がい者 n=7	28.6%
知的障がい者 n=23	26.1%
精神障がい者 n=2	50.0%
難病患者 n=4	25.0%

■経年比較

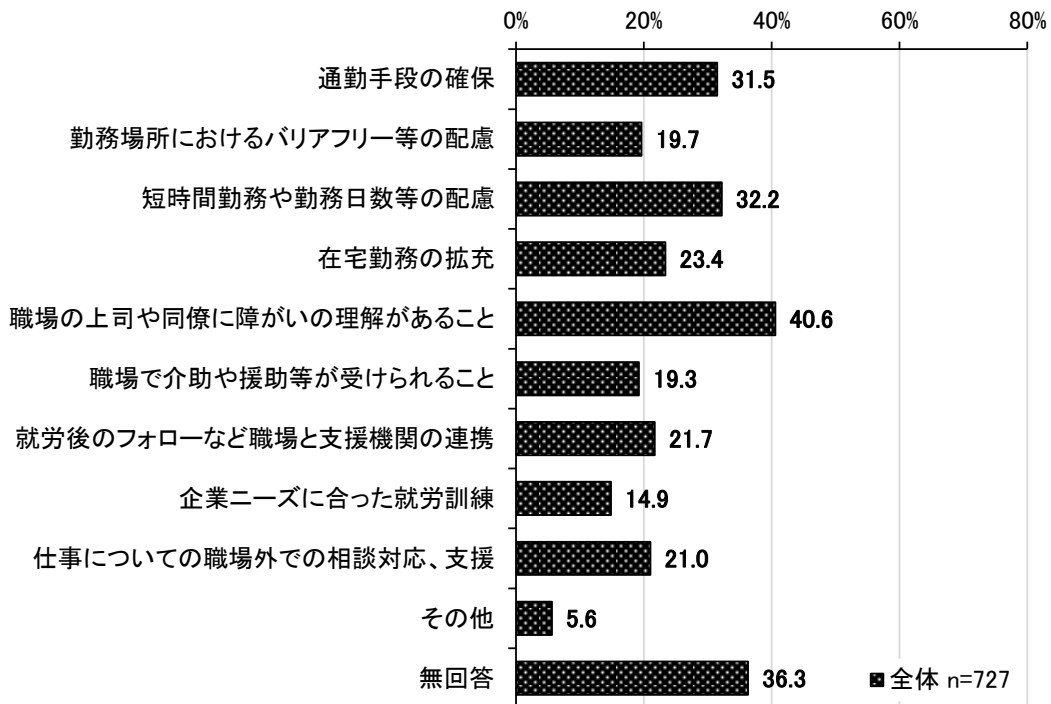
サンプル数が少数のため、参考値として示すにとどめています。

	就学相談や 進路相談など、相談体 制を充実し てほしい	能力や障が いの状況に あった指導 をしてほしい	施設、設備、 教材を充実 してほしい	個別指導を 充実してほ しい	通常学級と の交流の機 会を増やし てほしい	障がいの状 況にかかわ らず通常学 級で受け入 れてほしい	医療的なケ アが受けら れるようにし てほしい	その他	特に望むこ とはない
R7_今回調査 n=33	18.2%	15.2%	3.0%	3.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	36.4%
R4_前回調査 n=45	28.9%	20.0%	8.9%	6.7%	0.0%	2.2%	0.0%	4.4%	17.8%
R2_前々回調査 n=57	15.8%	19.3%	12.3%	8.8%	3.5%	3.5%	0.0%	21.1%	5.3%

	無回答
R7_今回調査 n=33	21.2%
R4_前回調査 n=45	11.1%
R2_前々回調査 n=57	10.5%

問 30 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

障がい者の就労支援として必要だと思うことについては、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が40.6%で最も高く、次いで「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が32.2%、「通勤手段の確保」が31.5%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」は、精神障がい者が53.7%で最も高く、次いで知的障がい者が48.7%、難病患者が44.8%となっています。

		通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場の上司や同僚に障がいの理解があること	職場で介助や援助等が受けられること	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他
全体 n=727		31.5%	19.7%	32.2%	23.4%	40.6%	19.3%	21.7%	14.9%	21.0%	5.6%
障がい種別	身体障がい者 n=421	25.4%	20.9%	27.6%	22.1%	30.6%	15.4%	14.0%	10.7%	14.3%	5.5%
	知的障がい者 n=113	29.2%	11.5%	27.4%	11.5%	48.7%	29.2%	34.5%	16.8%	27.4%	9.7%
	精神障がい者 n=134	41.0%	9.0%	43.3%	31.3%	53.7%	20.9%	34.3%	22.4%	33.6%	5.2%
	難病患者 n=143	38.5%	29.4%	36.4%	26.6%	44.8%	20.3%	19.6%	14.0%	21.0%	4.9%

		無回答
全体 n=727		36.3%
障がい種別	身体障がい者 n=421	44.7%
	知的障がい者 n=113	28.3%
	精神障がい者 n=134	23.1%
	難病患者 n=143	36.4%

■経年比較

「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」は、前回調査と比べて7.2ポイント減少しています。

	通勤手段の確保	勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	短時間勤務や勤務日数等の配慮	在宅勤務の拡充	職場の上司や同僚に障がいの理解があること	職場で介助や援助等が受けられること	就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	企業ニーズに合った就労訓練	仕事についての職場外での相談対応、支援	その他
R7_今回調査 n=727	31.5%	19.7%	32.2%	23.4%	40.6%	19.3%	21.7%	14.9%	21.0%	5.6%
R4_前回調査 n=772	33.4%	18.1%	33.3%	23.1%	47.8%	21.2%	26.9%	17.2%	23.1%	5.1%
R2_前々回調査 n=903	31.1%	21.9%	30.9%	21.7%	47.6%	22.0%	25.7%	18.4%	24.5%	6.5%

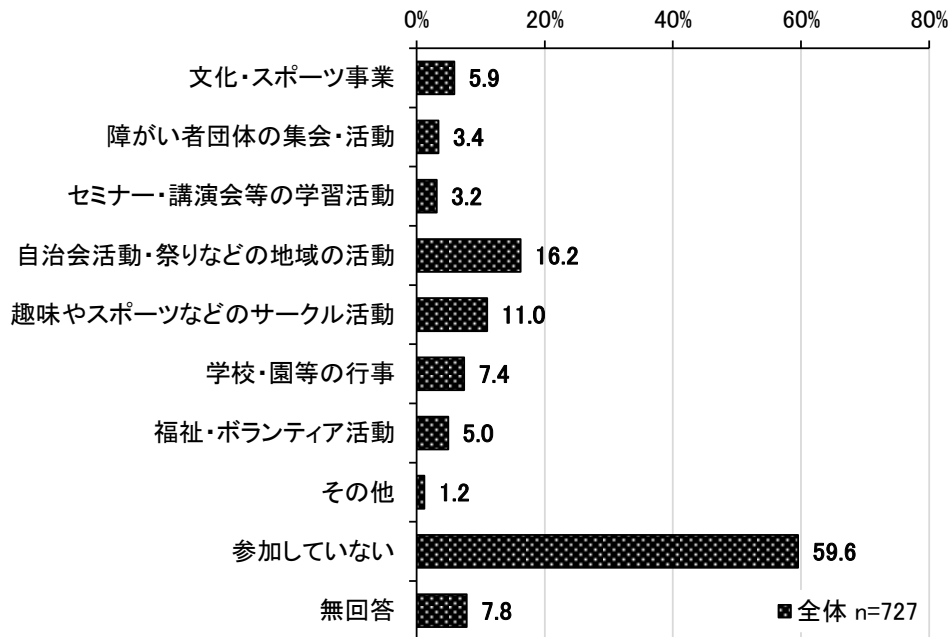
	無回答
R7_今回調査 n=727	36.3%
R4_前回調査 n=772	28.8%
R2_前々回調査 n=903	28.9%

6. 余暇活動について

問 31 最近1年間、あなたは、地域の行事や活動に参加しましたか。(いくつでも)

地域活動への参加状況については、「自治会活動・祭りなどの地域の活動」が16.2%で最も高く、次いで「趣味やスポーツなどのサークル活動」が11.0%、「学校・園等の行事」が7.4%となっています。

なお、「参加していない」は59.6%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、知的障がい者では、「障がい者団体の集会・活動」「自治会活動・祭りなどの地域の活動」「学校・園等の行事」の割合が他の障がい種別と比べて高くなっています。

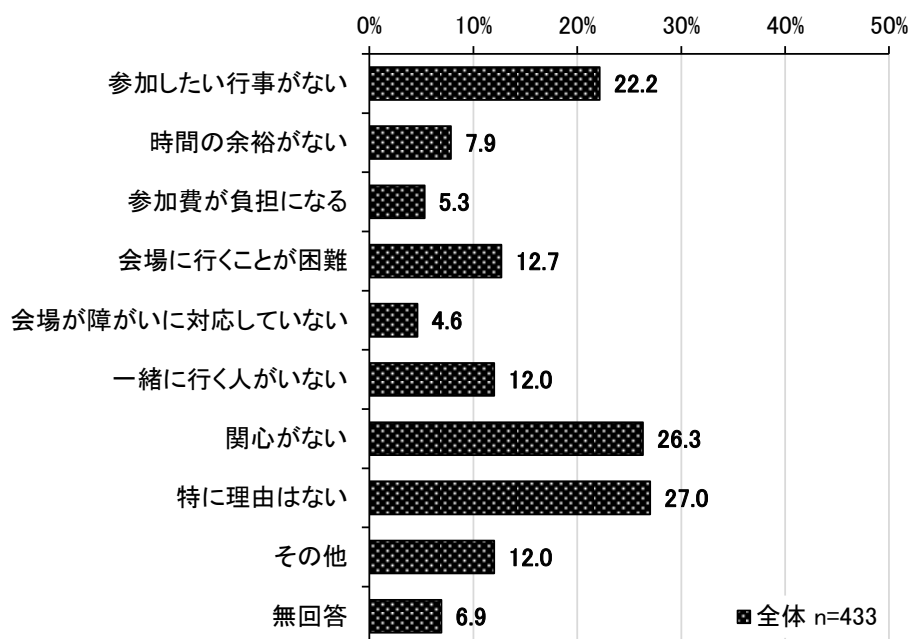
		文化・スポーツ事業	障がい者団体の集会・活動	セミナー・講演会等の学習活動	自治会活動・祭りなどの地域の活動	趣味やスポーツなどのサークル活動	学校・園等の行事	福祉・ボランティア活動	その他	参加していない	無回答
全体 n=727		5.9%	3.4%	3.2%	16.2%	11.0%	7.4%	5.0%	1.2%	59.6%	7.8%
障がい種別	身体障がい者 n=421	7.8%	2.1%	2.1%	16.2%	11.9%	5.7%	4.8%	1.7%	58.9%	9.0%
	知的障がい者 n=113	0.9%	11.5%	0.0%	20.4%	4.4%	15.9%	8.0%	0.9%	49.6%	8.8%
	精神障がい者 n=134	3.0%	3.7%	6.0%	11.9%	9.7%	5.2%	6.0%	0.7%	68.7%	6.0%
	難病患者 n=143	5.6%	0.7%	4.2%	18.2%	12.6%	9.1%	3.5%	1.4%	60.8%	7.0%

【問 31 で「参加していない」と回答した方にお聞きます。】

問 32 地域の行事や活動に参加していない理由は何ですか。(いくつでも)

地域活動へ参加していない理由については、「関心がない」が 26.3%で最も高く、次いで「参加したい行事がない」が 22.2%、「会場に行くことが困難」が 12.7%となっています。

なお、「特に理由はない」は 27.0%となっています。



■ 障がい種別

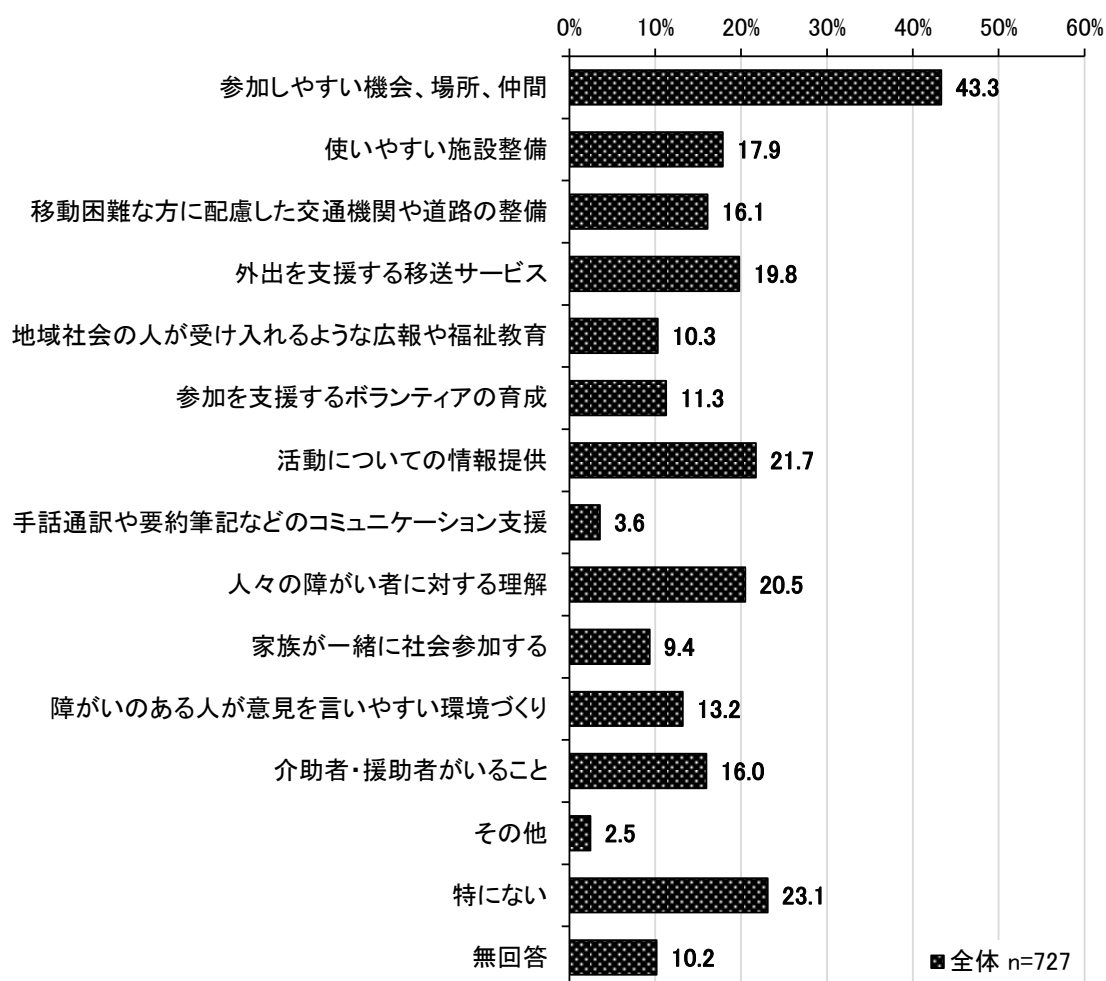
障がい種別でみると、「関心がない」は、精神障がい者が 38.0%で最も高く、次いで知的障がい者が 25.0%、身体障がい者が 22.2%となっています。

	参加したい 行事がない	時間の余裕 がない	参加費が負 担になる	会場に行くこ とが困難	会場が障が いに対応し ていない	一緒に行く 人がいない	関心がない	特に理由は ない	その他	無回答
全体 n=433	22.2%	7.9%	5.3%	12.7%	4.6%	12.0%	26.3%	27.0%	12.0%	6.9%
障がい種別										
身体障がい者 n=248	17.3%	5.6%	3.6%	14.5%	5.2%	10.1%	22.2%	30.6%	12.5%	6.9%
知的障がい者 n=56	23.2%	7.1%	0.0%	12.5%	3.6%	16.1%	25.0%	25.0%	8.9%	5.4%
精神障がい者 n=92	33.7%	6.5%	10.9%	13.0%	6.5%	15.2%	38.0%	16.3%	13.0%	6.5%
難病患者 n=87	20.7%	13.8%	4.6%	19.5%	2.3%	16.1%	17.2%	24.1%	14.9%	6.9%

**問 33 あなたが、地域や社会に積極的に参加できるようにするため、特に大切なことは何ですか。
(いくつでも)**

地域活動へ参加するために大切なことについては、「参加しやすい機会、場所、仲間」が43.3%で最も高く、次いで「活動についての情報提供」が21.7%、「人々の障がい者に対する理解」が20.5%となっています。

なお、「特にない」は23.1%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、「参加しやすい機会、場所、仲間」は、知的障がい者が49.6%で最も高く、次いで精神障がい者が47.0%、難病患者が42.7%となっています。また、「介助者・援助者がいること」は、知的障がい者の割合が他の障がい種別と比べて高くなっています。

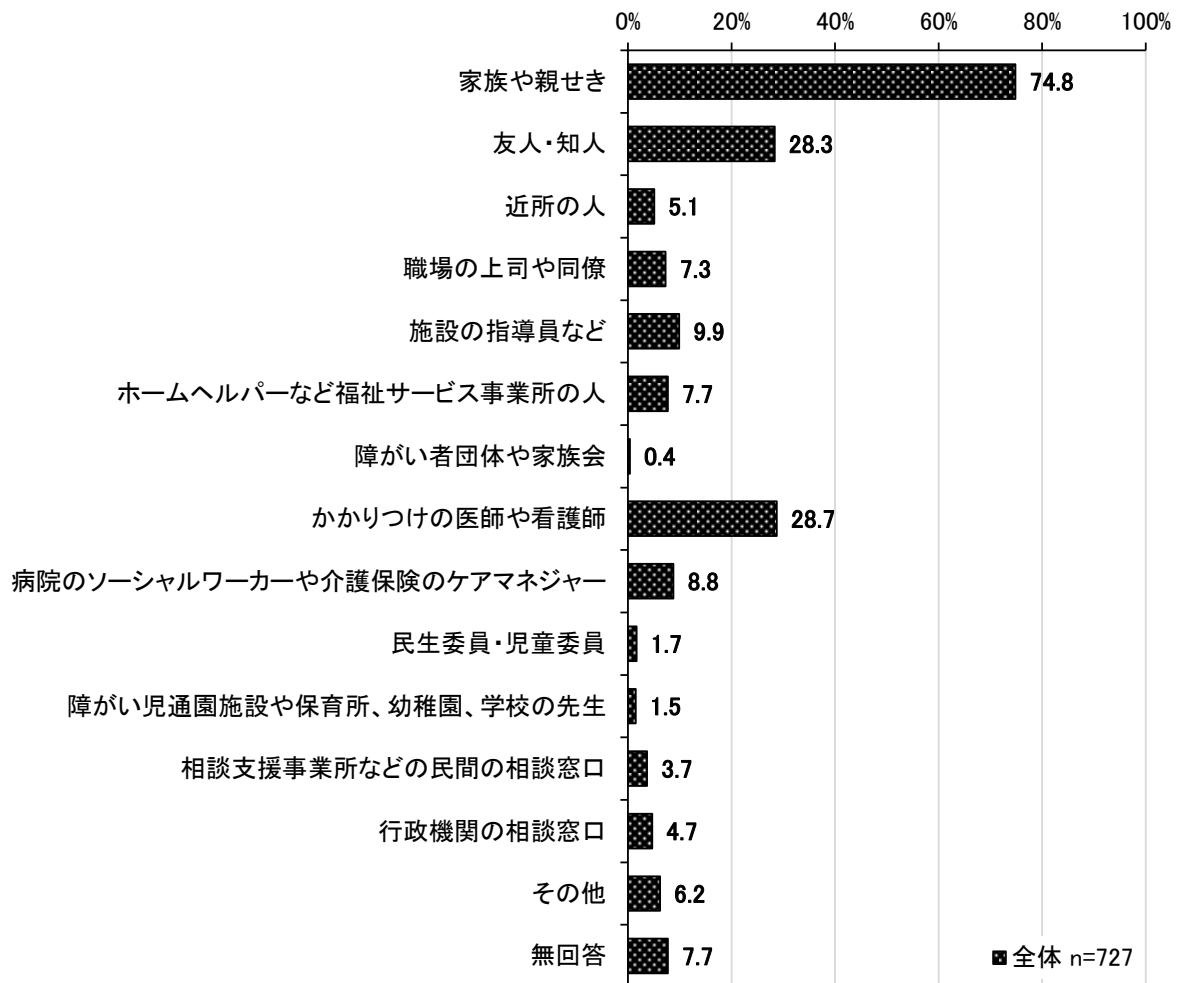
		参加しやすい機会、場所、仲間	使いやすい施設整備	移動困難な方に配慮した交通機関や道路の整備	外出を支援する移送サービス	地域社会の人が受け入れられるような広報や福祉教育	参加を支援するボランティアの育成	活動についての情報提供	手話通訳や要約筆記などのコミュニケーション支援	人々の障がい者に対する理解	家族が一緒に社会参加する
	全体 n=727	43.3%	17.9%	16.1%	19.8%	10.3%	11.3%	21.7%	3.6%	20.5%	9.4%
障がい種別	身体障がい者 n=421	40.4%	18.3%	17.6%	21.1%	8.1%	9.5%	19.5%	3.6%	15.9%	7.6%
	知的障がい者 n=113	49.6%	13.3%	8.8%	15.9%	14.2%	16.8%	19.5%	2.7%	33.6%	15.0%
	精神障がい者 n=134	47.0%	15.7%	18.7%	17.2%	11.9%	11.2%	23.1%	3.0%	35.1%	14.2%
	難病患者 n=143	42.7%	26.6%	20.3%	25.9%	11.9%	11.2%	22.4%	4.9%	16.8%	8.4%

		障がいのある人が意見を言いやすい環境づくり	介助者・援助者がいること	その他	特にない	無回答
	全体 n=727	13.2%	16.0%	2.5%	23.1%	10.2%
障がい種別	身体障がい者 n=421	10.5%	15.7%	1.9%	23.5%	11.2%
	知的障がい者 n=113	19.5%	29.2%	2.7%	19.5%	8.0%
	精神障がい者 n=134	23.9%	11.9%	6.7%	22.4%	9.0%
	難病患者 n=143	9.8%	12.6%	2.1%	21.0%	9.8%

7. 相談相手について

問 34 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(いくつでも)

悩みや困りごとの相談先については、「家族や親せき」が74.8%で最も高く、次いで「かかりつけの医師や看護師」が28.7%、「友人・知人」が28.3%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、「家族や親せき」は、難病患者が 77.6%で最も高く、次いで身体障がい者が 75.8%、知的障がい者が 74.3%となっています。また、「かかりつけの医師や看護師」は、精神障がい者が 41.0%で最も高く、次いで難病患者が 33.6%、身体障がい者が 25.2%となっています。

		家族や親せき	友人・知人	近所の人	職場の上司や同僚	施設の指導員など	ホームヘルパーなど福祉サービス事業所の人	障がい者団体や家族会	かかりつけの医師や看護師	病院のソーシャルワーカーや介護保険のケアマネジャー	民生委員・児童委員
	全体 n=727	74.8%	28.3%	5.1%	7.3%	9.9%	7.7%	0.4%	28.7%	8.8%	1.7%
障がい種別	身体障がい者 n=421	75.8%	28.7%	6.7%	3.6%	6.9%	7.6%	0.2%	25.2%	10.7%	2.4%
	知的障がい者 n=113	74.3%	15.9%	1.8%	9.7%	26.5%	11.5%	0.9%	19.5%	4.4%	0.0%
	精神障がい者 n=134	63.4%	29.1%	3.0%	13.4%	14.9%	8.2%	0.7%	41.0%	11.2%	0.7%
	難病患者 n=143	77.6%	33.6%	3.5%	7.7%	4.9%	7.0%	0.7%	33.6%	14.0%	0.7%

		障がい児通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	相談支援事業所などの民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	その他	無回答
	全体 n=727	1.5%	3.7%	4.7%	6.2%	7.7%
障がい種別	身体障がい者 n=421	1.0%	2.4%	4.3%	5.2%	9.3%
	知的障がい者 n=113	8.0%	11.5%	1.8%	12.4%	5.3%
	精神障がい者 n=134	0.0%	7.5%	7.5%	10.4%	6.7%
	難病患者 n=143	0.7%	1.4%	6.3%	5.6%	4.9%

■経年比較

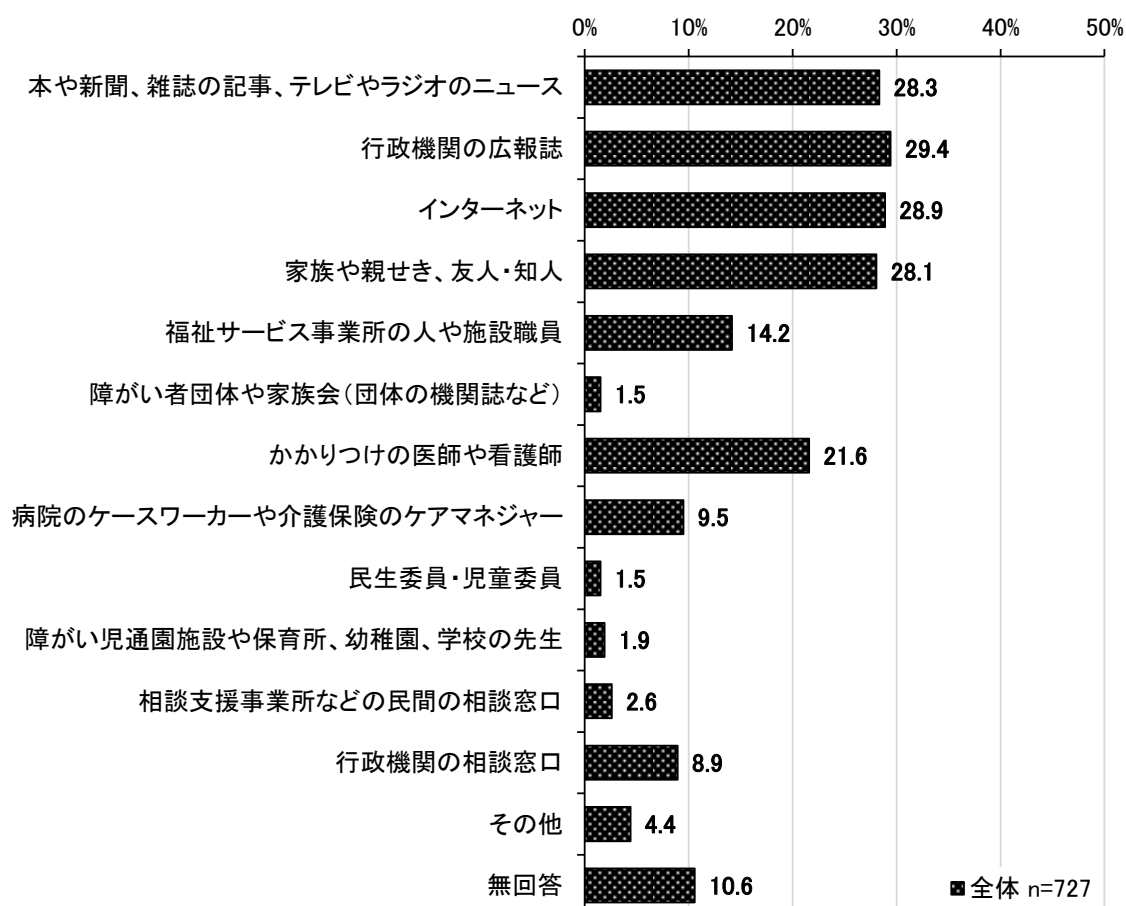
「家族や親せき」は、前回調査と比べて 4.5 ポイント増加しています。

		家族や親せき	友人・知人	近所の人	職場の上司や同僚	施設の指導員など	ホームヘルパーなど福祉サービス事業所の人	障がい者団体や家族会	かかりつけの医師や看護師	病院のソーシャルワーカーや介護保険のケアマネジャー	民生委員・児童委員
	R7_今回調査 n=727	74.8%	28.3%	5.1%	7.3%	9.9%	7.7%	0.4%	28.7%	8.8%	1.7%
	R4_前回調査 n=772	70.3%	29.3%	3.2%	8.0%	11.7%	7.8%	2.3%	28.1%	9.1%	1.0%
	R2_前々回調査 n=903	73.8%	29.0%	4.4%	9.1%	12.0%	7.1%	2.1%	25.9%	8.6%	1.3%

		障がい児通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生	相談支援事業所などの民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	その他	無回答
	R7_今回調査 n=727	1.5%	3.7%	4.7%	6.2%	7.7%
	R4_前回調査 n=772	3.0%	4.9%	6.5%	5.1%	8.7%
	R2_前々回調査 n=903	3.5%	5.0%	8.1%	6.1%	7.5%

**問 35 あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。
(いくつでも)**

障がいのことや福祉サービスの情報の入手先については、「行政機関の広報誌」が 29.4%で最も高く、次いで「インターネット」が 28.9%、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が 28.3%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、身体障がい者では、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が32.1%で最も高く、次いで「行政機関の広報誌」が31.6%、「家族や親せき、友人・知人」が27.6%となっています。

知的障がい者では、「家族や親せき、友人・知人」が34.5%で最も高く、次いで「福祉サービス事業所の人や施設職員」が31.0%、「インターネット」が24.8%となっています。

精神障がい者では、「インターネット」が47.0%で最も高く、次いで「家族や親せき、友人・知人」が26.9%、「かかりつけの医師や看護師」が23.9%となっています。

難病患者では、「行政機関の広報誌」が43.4%で最も高く、次いで「インターネット」が34.3%、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が30.8%となっています。

		本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	行政機関の広報誌	インターネット	家族や親せき、友人・知人	福祉サービス事業所の人や施設職員	障がい者団体や家族会（団体の機関誌など）	かかりつけの医師や看護師	病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	民生委員・児童委員	障がい児通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生
全体 n=727		28.3%	29.4%	28.9%	28.1%	14.2%	1.5%	21.6%	9.5%	1.5%	1.9%
障がい種別	身体障がい者 n=421	32.1%	31.6%	21.6%	27.6%	11.9%	1.4%	22.8%	11.9%	2.1%	1.2%
	知的障がい者 n=113	15.9%	14.2%	24.8%	34.5%	31.0%	2.7%	14.2%	2.7%	0.0%	8.8%
	精神障がい者 n=134	18.7%	20.9%	47.0%	26.9%	18.7%	2.2%	23.9%	8.2%	0.7%	0.7%
	難病患者 n=143	30.8%	43.4%	34.3%	21.7%	11.2%	0.7%	28.7%	13.3%	0.7%	0.7%

		相談支援事業所などの民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	その他	無回答
全体 n=727		2.6%	8.9%	4.4%	10.6%
障がい種別	身体障がい者 n=421	1.7%	7.4%	4.0%	11.6%
	知的障がい者 n=113	8.0%	6.2%	9.7%	10.6%
	精神障がい者 n=134	6.7%	15.7%	2.2%	7.5%
	難病患者 n=143	0.7%	9.8%	2.1%	8.4%

■経年比較

「行政機関の広報誌」は、前回調査と比べて2.6ポイント減少しています。

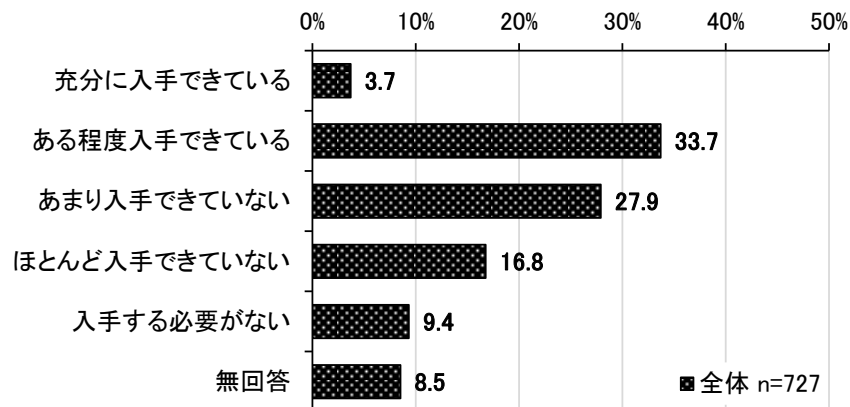
		本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	行政機関の広報誌	インターネット	家族や親せき、友人・知人	福祉サービス事業所の人や施設職員	障がい者団体や家族会（団体の機関誌など）	かかりつけの医師や看護師	病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー	民生委員・児童委員	障がい児通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生
R7_今回調査 n=727		28.3%	29.4%	28.9%	28.1%	14.2%	1.5%	21.6%	9.5%	1.5%	1.9%
R4_前回調査 n=772		29.4%	32.0%	32.3%	28.9%	17.6%	3.2%	21.9%	9.2%	1.0%	3.6%
R2_前々回調査 n=903		34.1%	32.6%	26.9%	31.9%	18.1%	4.0%	20.5%	10.2%	1.4%	3.0%

		相談支援事業所などの民間の相談窓口	行政機関の相談窓口	その他	無回答
R7_今回調査 n=727		2.6%	8.9%	4.4%	10.6%
R4_前回調査 n=772		4.3%	10.2%	4.3%	10.4%
R2_前々回調査 n=903		5.0%	11.6%	4.0%	8.1%

問 36 あなたは障がいのことや福祉サービス等に関する情報を、どの程度入手できていると感じていますか。（1つのみ）

情報の入手状況については、「充分に入手できている」と「ある程度入手できている」の合計値《入手できている》が 37.4%、「あまり入手できていない」と「ほとんど入手できていない」の合計値《入手できていない》が 44.7%と、《入手できていない》が 7.3 ポイント上回っています。

なお、「入手する必要がある」は 9.4%となっています。



■ 障がい種別

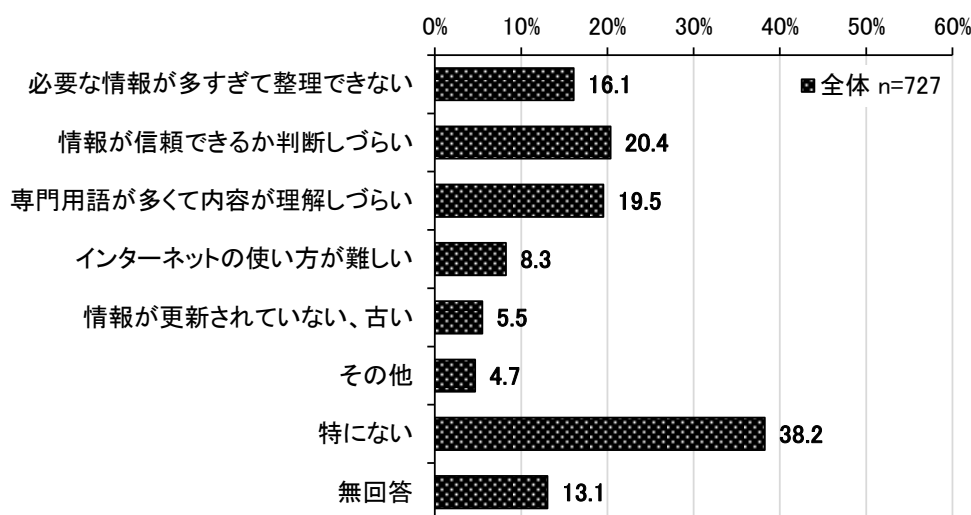
障がい種別でみると、《入手できていない》は、知的障がい者が 46.9%で最も高く、次いで身体障がい者が 45.1%、精神障がい者が 44.8%となっています。

		充分に入手できている	ある程度入手できている	あまり入手できていない	ほとんど入手できていない	入手する必要がある	無回答
全体 n=727		3.7%	33.7%	27.9%	16.8%	9.4%	8.5%
障がい種別	身体障がい者 n=421	4.0%	33.7%	27.8%	17.3%	8.8%	8.3%
	知的障がい者 n=113	1.8%	31.0%	29.2%	17.7%	12.4%	8.0%
	精神障がい者 n=134	4.5%	40.3%	29.9%	14.9%	6.0%	4.5%
	難病患者 n=143	4.9%	37.8%	25.9%	15.4%	9.1%	7.0%

問 37 障がいのことや福祉サービス等に関する情報を集める際に、困っていることは何ですか。 (いくつでも)

情報を集める際の困りごとについては、「情報が信頼できるか判断しづらい」が 20.4%で最も高く、次いで「専門用語が多くて内容が理解しづらい」が 19.5%、「必要な情報が多すぎて整理できない」が 16.1%となっています。

なお、「特にない」は 38.2%となっています。



■ 障がい種別

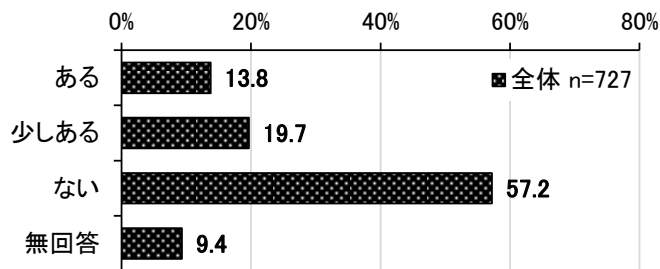
障がい種別でみると、「情報が信頼できるか判断しづらい」は、精神障がい者が 29.1%で最も高く、次いで知的障がい者が 24.8%、難病患者が 19.6%となっています。また、「必要な情報が多すぎて整理できない」は、精神障がい者の割合が他の障がい種別と比べて高くなっています。

		必要な情報が多すぎて整理できない	情報が信頼できるか判断しづらい	専門用語が多くて内容が理解しづらい	インターネットの使い方が難しい	情報が更新されていない、古い	その他	特にない	無回答
全体 n=727		16.1%	20.4%	19.5%	8.3%	5.5%	4.7%	38.2%	13.1%
障がい種別	身体障がい者 n=421	11.4%	16.4%	18.5%	9.3%	5.5%	4.3%	41.8%	14.7%
	知的障がい者 n=113	14.2%	24.8%	20.4%	7.1%	5.3%	7.1%	37.2%	10.6%
	精神障がい者 n=134	33.6%	29.1%	20.9%	9.0%	9.0%	5.2%	32.8%	4.5%
	難病患者 n=143	15.4%	19.6%	23.1%	7.0%	5.6%	2.1%	36.4%	14.7%

8. 権利擁護について

問 38 あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。 （1つのみ）

障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがあるかについては、「ない」が57.2%で最も高く、次いで「少しある」が19.7%、「ある」が13.8%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「ある」は、知的障がい者が26.5%で最も高く、次いで精神障がい者が26.1%、難病患者が10.5%となっています。

		ある	少しある	ない	無回答
全体 n=727		13.8%	19.7%	57.2%	9.4%
障がい種別	身体障がい者 n=421	10.0%	17.8%	63.4%	8.8%
	知的障がい者 n=113	26.5%	28.3%	33.6%	11.5%
	精神障がい者 n=134	26.1%	29.9%	39.6%	4.5%
	難病患者 n=143	10.5%	10.5%	69.2%	9.8%

■ 経年比較

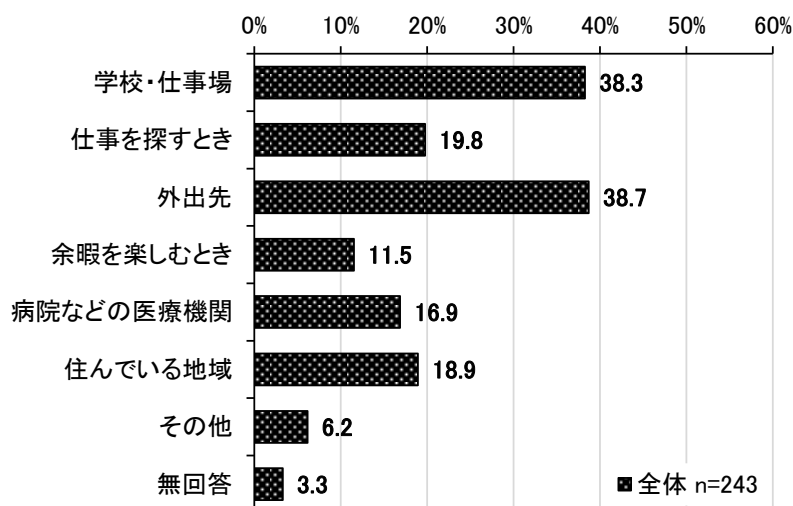
「ある」は、前回調査と比べて7.3ポイント減少しています。

	ある	少しある	ない	無回答
R7_今回調査 n=727	13.8%	19.7%	57.2%	9.4%
R4_前回調査 n=772	21.1%	24.1%	44.9%	9.8%
R2_前々回調査 n=903	23.5%	24.3%	45.7%	6.5%

【問 38 で「ある」「少しある」と回答した方にお聞きします。】

問 39 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。(いくつでも)

差別や嫌な思いをした場所については、「外出先」が 38.7%で最も高く、次いで「学校・仕事場」が 38.3%、「仕事を探すとき」が 19.8%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「外出先」は、知的障がい者が 43.5%で最も高く、次いで身体障がい者が 42.7%、難病患者が 36.7%となっています。

		学校・仕事場	仕事を探すとき	外出先	余暇を楽しむとき	病院などの医療機関	住んでいる地域	その他	無回答
全体 n=243		38.3%	19.8%	38.7%	11.5%	16.9%	18.9%	6.2%	3.3%
障がい種別	身体障がい者 n=117	24.8%	13.7%	42.7%	11.1%	23.9%	18.8%	6.8%	3.4%
	知的障がい者 n=62	46.8%	1.6%	43.5%	9.7%	9.7%	24.2%	4.8%	4.8%
	精神障がい者 n=75	48.0%	37.3%	32.0%	13.3%	14.7%	20.0%	5.3%	4.0%
	難病患者 n=30	36.7%	20.0%	36.7%	13.3%	16.7%	10.0%	3.3%	10.0%

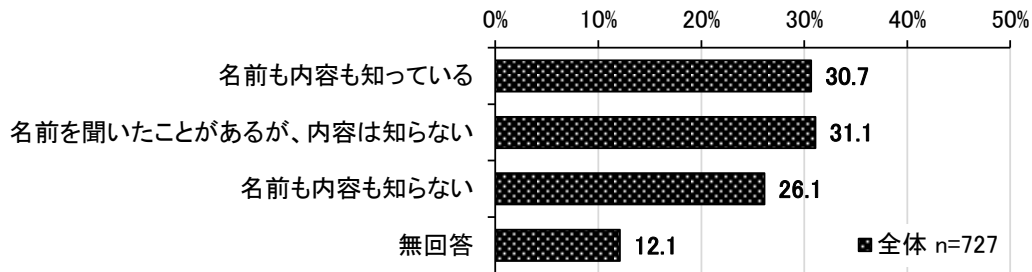
■ 経年比較

「外出先」は、前回調査と比べて 8.6 ポイント減少しています。

	学校・仕事場	仕事を探すとき	外出先	余暇を楽しむとき	病院などの医療機関	住んでいる地域	その他	無回答
R7_今回調査 n=243	38.3%	19.8%	38.7%	11.5%	16.9%	18.9%	6.2%	3.3%
R4_前回調査 n=349	41.8%	21.2%	47.3%	16.3%	18.3%	20.1%	9.2%	1.4%
R2_前々回調査 n=431	38.1%	22.5%	50.1%	17.9%	20.6%	21.3%	8.8%	1.4%

問 40 成年後見制度についてご存じですか。（1つのみ）

成年後見制度の認知度については、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が31.1%で最も高く、次いで「名前も内容も知っている」が30.7%、「名前も内容も知らない」が26.1%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「名前も内容も知らない」は、精神障がい者が38.1%で最も高く、次いで知的障がい者が37.2%、身体障がい者が23.0%となっています。

		名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体 n=727		30.7%	31.1%	26.1%	12.1%
障がい種別	身体障がい者 n=421	31.6%	31.1%	23.0%	14.3%
	知的障がい者 n=113	23.9%	31.9%	37.2%	7.1%
	精神障がい者 n=134	26.1%	27.6%	38.1%	8.2%
	難病患者 n=143	38.5%	28.7%	21.0%	11.9%

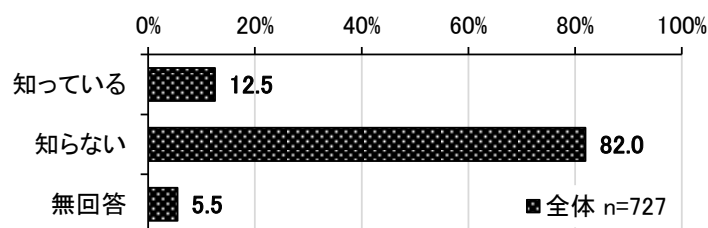
■ 経年比較

「名前も内容も知らない」は、前回調査と比べて7.1ポイント減少しています。

	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
R7_今回調査 n=727	30.7%	31.1%	26.1%	12.1%
R4_前回調査 n=772	31.5%	26.4%	33.2%	8.9%
R2_前々回調査 n=903	33.9%	29.0%	30.9%	6.2%

問 41 あなたは、「障害者差別解消法」をご存じですか。（1つのみ）

障害者差別解消法の認知度については、「知っている」が12.5%、「知らない」が82.0%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「知らない」は、難病患者が83.9%で最も高く、次いで身体障がい者が83.4%、精神障がい者が80.6%となっています。

		知っている	知らない	無回答
全体 n=727		12.5%	82.0%	5.5%
障がい種別	身体障がい者 n=421	10.7%	83.4%	5.9%
	知的障がい者 n=113	14.2%	78.8%	7.1%
	精神障がい者 n=134	14.2%	80.6%	5.2%
	難病患者 n=143	11.2%	83.9%	4.9%

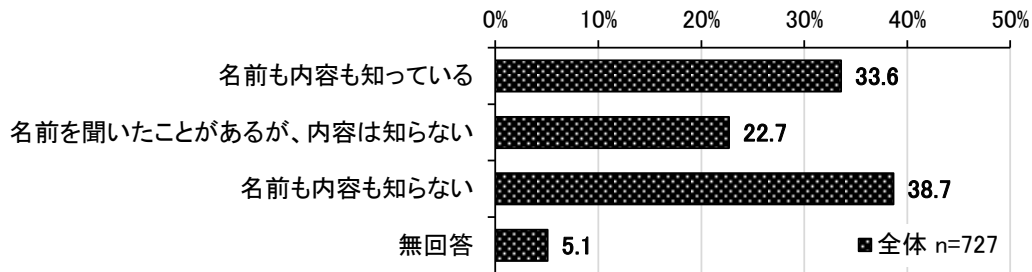
■ 経年比較

「知らない」は、前回調査と比べて8.7ポイント増加しています。

	知っている	知らない	無回答
R7_今回調査 n=727	12.5%	82.0%	5.5%
R4_前回調査 n=772	17.4%	73.3%	9.3%
R2_前々回調査 n=903	18.5%	76.0%	5.5%

問 42 あなたは、「ヘルプマーク」をご存じですか。（1つのみ）

ヘルプマークの認知度については、「名前も内容も知らない」が38.7%で最も高く、次いで「名前も内容も知っている」が33.6%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が22.7%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「名前も内容も知らない」は、身体障がい者が43.7%で最も高く、次いで知的障がい者が38.9%、難病患者が33.6%となっています。

		名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体 n=727		33.6%	22.7%	38.7%	5.1%
障がい種別	身体障がい者 n=421	27.6%	23.3%	43.7%	5.5%
	知的障がい者 n=113	38.9%	17.7%	38.9%	4.4%
	精神障がい者 n=134	44.8%	18.7%	31.3%	5.2%
	難病患者 n=143	38.5%	23.8%	33.6%	4.2%

■ 経年比較

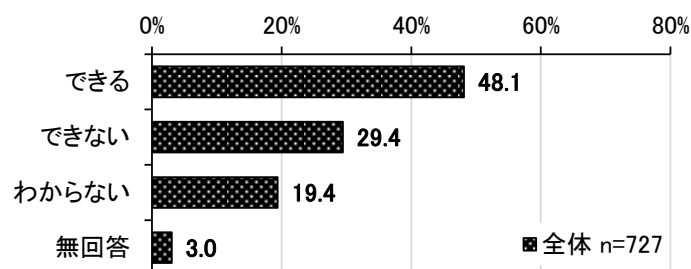
「名前も内容も知らない」は、前回調査と比べて3.7ポイント増加しています。

	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
R7_今回調査 n=727	33.6%	22.7%	38.7%	5.1%
R4_前回調査 n=772	33.5%	22.2%	35.0%	9.3%
R2_前々回調査 n=903	25.9%	20.4%	48.9%	4.8%

9. 災害時の避難等について

問 43 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。（1つのみ）

災害時の一人での避難については、「できる」が48.1%で最も高く、次いで「できない」が29.4%、「わからない」が19.4%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「できない」は、知的障がい者が50.4%で最も高く、次いで身体障がい者が34.2%、難病患者が26.6%となっています。

		できる	できない	わからない	無回答
全体 n=727		48.1%	29.4%	19.4%	3.0%
障がい種別	身体障がい者 n=421	45.6%	34.2%	17.1%	3.1%
	知的障がい者 n=113	26.5%	50.4%	20.4%	2.7%
	精神障がい者 n=134	48.5%	14.9%	32.8%	3.7%
	難病患者 n=143	51.7%	26.6%	20.3%	1.4%

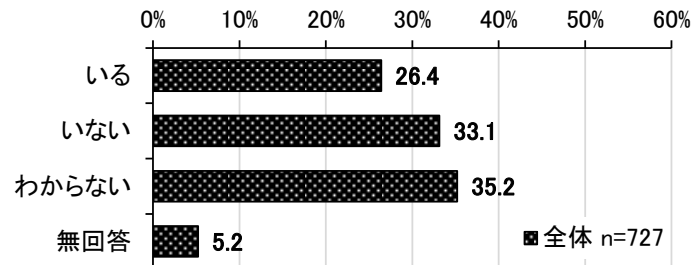
■ 経年比較

「できない」は、前回調査と比べて3.8ポイント増加しています。

	できる	できない	わからない	無回答
R7_今回調査 n=727	48.1%	29.4%	19.4%	3.0%
R4_前回調査 n=772	46.9%	25.6%	20.6%	6.9%
R2_前々回調査 n=903	44.4%	29.8%	22.5%	3.3%

**問 44 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなただけを助けてくれる人はいますか。
(1つのみ)**

近所で助けてくれる人がいるかについては、「わからない」が 35.2%で最も高く、次いで「いない」が 33.1%、「いる」が 26.4%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「いない」は、精神障がい者が 45.5%で最も高く、次いで知的障がい者が 35.4%、身体障がい者が 29.0%となっています。

		いる	いない	わからない	無回答
全体 n=727		26.4%	33.1%	35.2%	5.2%
障がい種別	身体障がい者 n=421	27.8%	29.0%	37.3%	5.9%
	知的障がい者 n=113	24.8%	35.4%	32.7%	7.1%
	精神障がい者 n=134	20.9%	45.5%	28.4%	5.2%
	難病患者 n=143	31.5%	28.7%	37.1%	2.8%

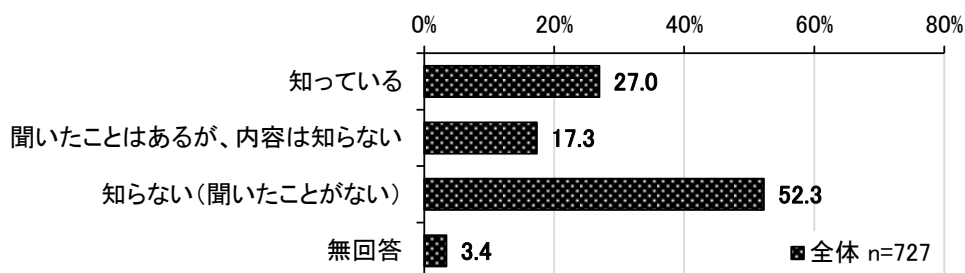
■ 経年比較

「いる」は、前回調査と比べて 5.3 ポイント増加しています。

	いる	いない	わからない	無回答
R7_今回調査 n=727	26.4%	33.1%	35.2%	5.2%
R4_前回調査 n=772	21.1%	34.5%	37.4%	7.0%
R2_前々回調査 n=903	25.8%	32.4%	37.0%	4.8%

問 45 市では、災害などの発生時に自力で避難することが困難な人を支援する「災害時避難行動要支援者避難支援プラン」という制度を設けていますがご存知ですか。（1つのみ）

「災害時避難行動要支援者避難支援プラン」の認知度については、「知らない（聞いたことがない）」が 52.3%で最も高く、次いで「知っている」が 27.0%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」が 17.3%となっています。



■ 障がい種別

障がい種別でみると、「知らない（聞いたことがない）」は、精神障がい者が 73.9%で最も高く、次いで難病患者が 58.0%、知的障がい者が 52.2%となっています。

		知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない(聞いたことがない)	無回答
全体 n=727		27.0%	17.3%	52.3%	3.4%
障がい種別	身体障がい者 n=421	33.3%	21.1%	42.0%	3.6%
	知的障がい者 n=113	36.3%	8.8%	52.2%	2.7%
	精神障がい者 n=134	11.9%	10.4%	73.9%	3.7%
	難病患者 n=143	21.0%	18.9%	58.0%	2.1%

■ 経年比較

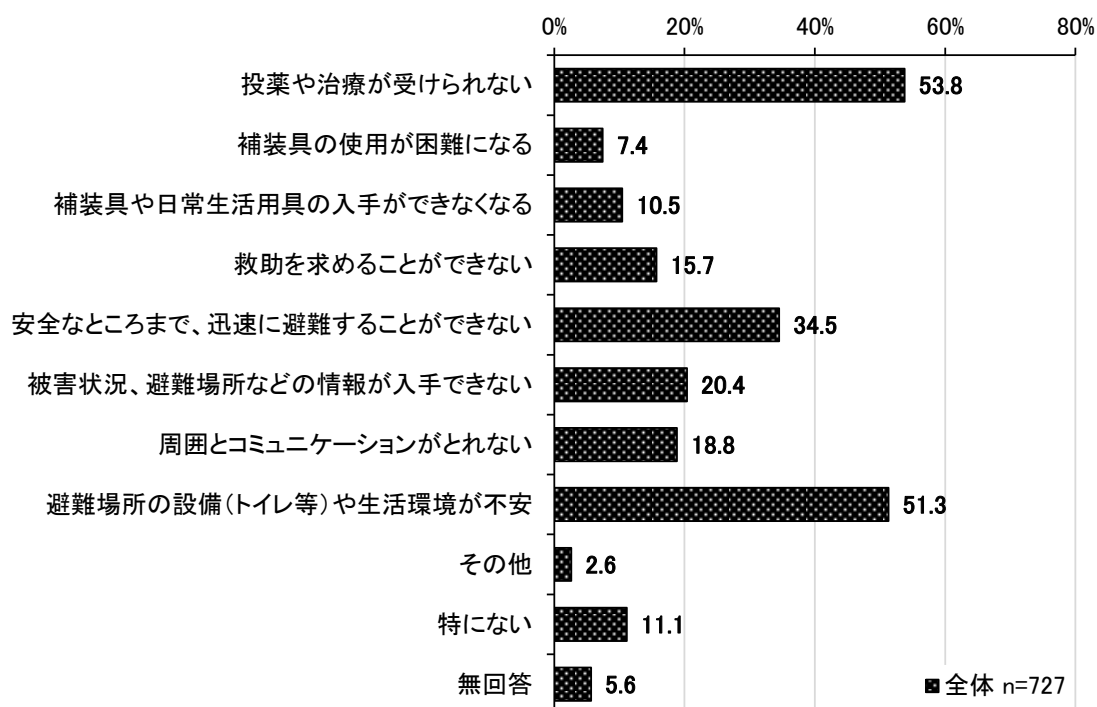
「知らない（聞いたことがない）」は、前回調査と比べて 2.9 ポイント増加しています。

	知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない(聞いたことがない)	無回答
R7_今回調査 n=727	27.0%	17.3%	52.3%	3.4%
R4_前回調査 n=772	27.2%	16.3%	49.4%	7.1%
R2_前々回調査 n=903	27.2%	16.1%	52.5%	4.2%

問 46 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。(いくつでも)

災害時の困りごとについては、「投薬や治療が受けられない」が 53.8%で最も高く、次いで「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が 51.3%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が 34.5%となっています。

なお、「特にない」は 11.1%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、「投薬や治療が受けられない」は、難病患者が70.6%で最も高く、次いで精神障がい者が62.7%、身体障がい者が54.2%となっています。また、「救助を求めることができない」「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」「周囲とコミュニケーションがとれない」は、知的障がい者の割合が他の障がい種別と比べて高くなっています。

		投薬や治療が受けられない	補装具の使用が困難になる	補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	救助を求めることができない	安全なところまで、迅速に避難することができない	被害状況、避難場所などの情報が入手できない	周囲とコミュニケーションがとれない	避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安	その他	特になし
全体 n=727		53.8%	7.4%	10.5%	15.7%	34.5%	20.4%	18.8%	51.3%	2.6%	11.1%
障がい種別	身体障がい者 n=421	54.2%	10.2%	12.8%	14.5%	38.0%	18.8%	14.3%	49.6%	2.4%	10.2%
	知的障がい者 n=113	29.2%	5.3%	8.8%	34.5%	42.5%	31.0%	43.4%	49.6%	3.5%	8.8%
	精神障がい者 n=134	62.7%	4.5%	8.2%	14.9%	27.6%	21.6%	29.9%	51.5%	6.0%	11.9%
	難病患者 n=143	70.6%	7.7%	11.9%	11.9%	39.2%	18.2%	11.9%	64.3%	0.7%	9.8%

		無回答	
全体 n=727		5.6%	
障がい種別	身体障がい者 n=421	6.2%	
	知的障がい者 n=113	5.3%	
	精神障がい者 n=134	3.0%	
	難病患者 n=143	3.5%	

■経年比較

「周囲とコミュニケーションがとれない」は、前回調査と比べて8.8ポイント減少しています。

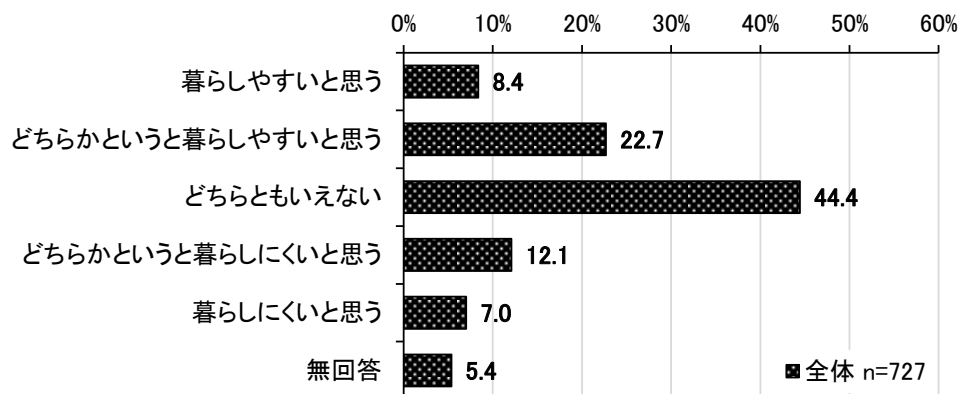
		投薬や治療が受けられない	補装具の使用が困難になる	補装具や日常生活用具の入手ができなくなる	救助を求めることができない	安全なところまで、迅速に避難することができない	被害状況、避難場所などの情報が入手できない	周囲とコミュニケーションがとれない	避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安	その他	特になし
R7_今回調査 n=727		53.8%	7.4%	10.5%	15.7%	34.5%	20.4%	18.8%	51.3%	2.6%	11.1%
R4_前回調査 n=772		51.4%	8.9%	12.3%	19.6%	33.3%	20.3%	27.6%	51.7%	3.4%	11.0%
R2_前々回調査 n=903		56.6%	9.0%	12.1%	22.5%	39.8%	24.5%	25.8%	55.0%	3.7%	7.9%

		無回答	
R7_今回調査 n=727		5.6%	
R4_前回調査 n=772		3.8%	
R2_前々回調査 n=903		5.4%	

10. 龍ケ崎市の福祉施策について

問 47 あなたは、龍ケ崎市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。
(1つのみ)

龍ケ崎市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思うかについては、「暮らしやすいと思う」と「どちらかという暮らしやすいと思う」の合計値《暮らしやすい》が31.1%、「どちらかという暮らしにくいと思う」と「暮らしにくいと思う」の合計値《暮らしにくい》が19.1%と、《暮らしやすい》が12.0ポイント上回っています。



■ 障がい種別

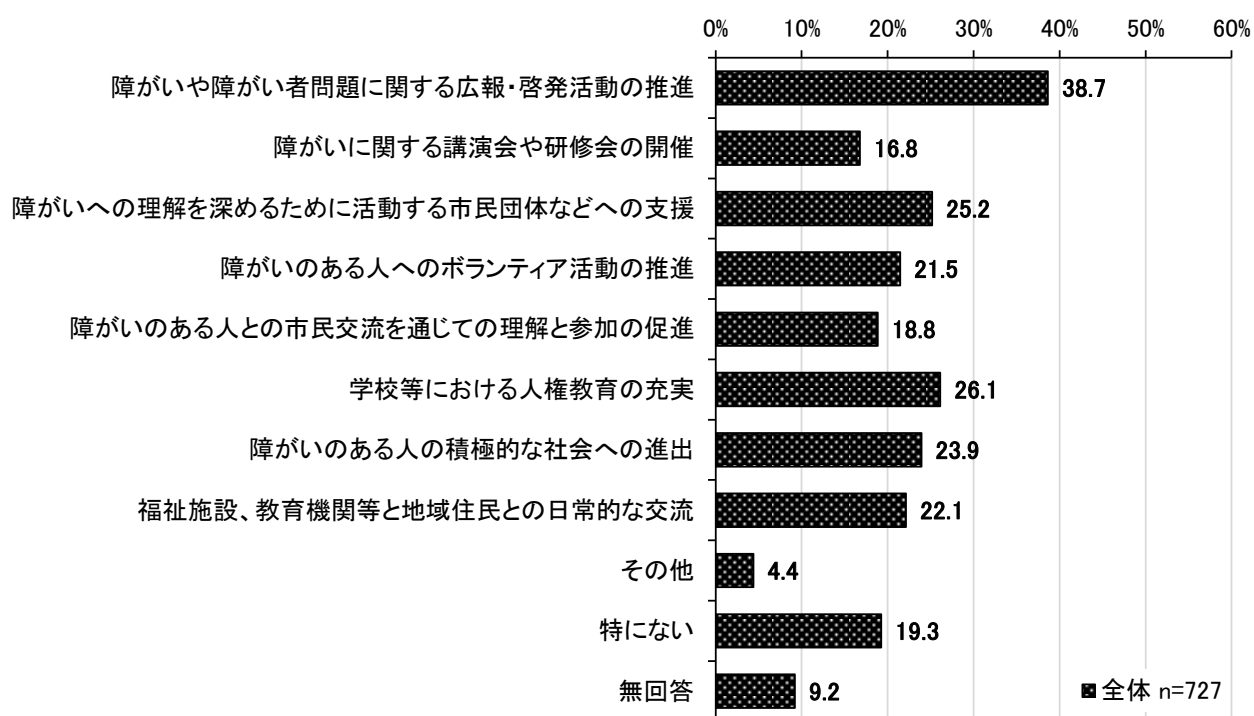
障がい種別でみると、《暮らしやすい》は、身体障がい者が34.2%で最も高く、次いで精神障がい者が32.1%、知的障がい者が31.0%となっています。

		暮らしやすいと思う	どちらかという暮らしやすいと思う	どちらともいえない	どちらかという暮らしにくいと思う	暮らしにくいと思う	無回答
全体 n=727		8.4%	22.7%	44.4%	12.1%	7.0%	5.4%
障がい種別	身体障がい者 n=421	8.1%	26.1%	43.9%	10.7%	5.2%	5.9%
	知的障がい者 n=113	7.1%	23.9%	39.8%	15.9%	8.0%	5.3%
	精神障がい者 n=134	13.4%	18.7%	38.1%	12.7%	12.7%	4.5%
	難病患者 n=143	4.2%	24.5%	43.4%	14.7%	7.0%	6.3%

**問 48 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。
(いくつでも)**

障がいのある人への市民の理解を深めるために必要だと思うことについては、「障がいや障がい者問題に関する広報・啓発活動の推進」が 38.7%で最も高く、次いで「学校等における人権教育の充実」が 26.1%、「障がいへの理解を深めるために活動する市民団体などへの支援」が 25.2%となっています。

なお、「特にない」は 19.3%となっています。



■障がい種別

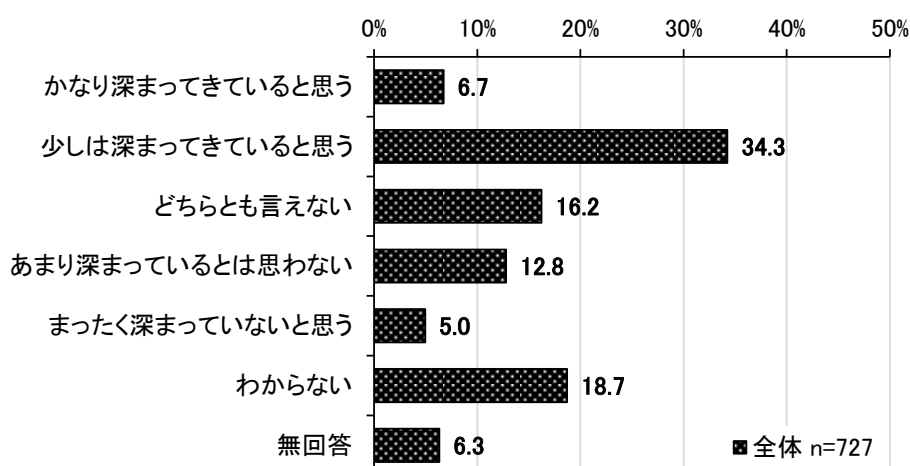
障がい種別でみると、「障がいや障がい者問題に関する広報・啓発活動の推進」は、精神障がい者が41.8%で最も高く、次いで難病患者が41.3%、身体障がい者が40.4%となっています。なお、「福祉施設、教育機関等と地域住民との日常的な交流」は、知的障がい者の割合が他の障がい種別と比べて高くなっています。

		障がいや障がい者問題に関する広報・啓発活動の推進	障がいに関する講演会や研修会の開催	障がいへの理解を深めるために活動する市民団体などへの支援	障がいのある人へのボランティア活動の推進	障がいのある人との市民交流を通じての理解と参加の促進	学校等における人権教育の充実	障がいのある人の積極的な社会への進出	福祉施設、教育機関等と地域住民との日常的な交流	その他	特になし
全体 n=727		38.7%	16.8%	25.2%	21.5%	18.8%	26.1%	23.9%	22.1%	4.4%	19.3%
障がい種別	身体障がい者 n=421	40.4%	14.3%	25.2%	22.3%	17.8%	22.8%	18.3%	20.0%	4.0%	20.2%
	知的障がい者 n=113	34.5%	18.6%	30.1%	19.5%	19.5%	31.9%	30.1%	34.5%	6.2%	15.0%
	精神障がい者 n=134	41.8%	26.1%	28.4%	20.1%	15.7%	29.1%	32.8%	20.9%	6.7%	21.6%
	難病患者 n=143	41.3%	14.7%	22.4%	21.7%	21.7%	30.1%	23.1%	21.7%	1.4%	12.6%

		無回答
全体 n=727		9.2%
障がい種別	身体障がい者 n=421	10.5%
	知的障がい者 n=113	11.5%
	精神障がい者 n=134	6.7%
	難病患者 n=143	9.1%

問 49 あなたはここ数年で、社会全体で障がいのある人への理解が深まってきていると思いますか。 (1つのみ)

ここ数年、社会全体で障がいのある人への理解が深まってきていると思うかについては、「かなり深まってきていると思う」と「少しは深まってきていると思う」の合計値《深まってきている》が41.0%、「あまり深まっているとは思わない」と「まったく深まっていないと思う」の合計値《深まっていない》が17.8%と、《深まってきている》が23.2ポイント上回っています。



■ 障がい種別

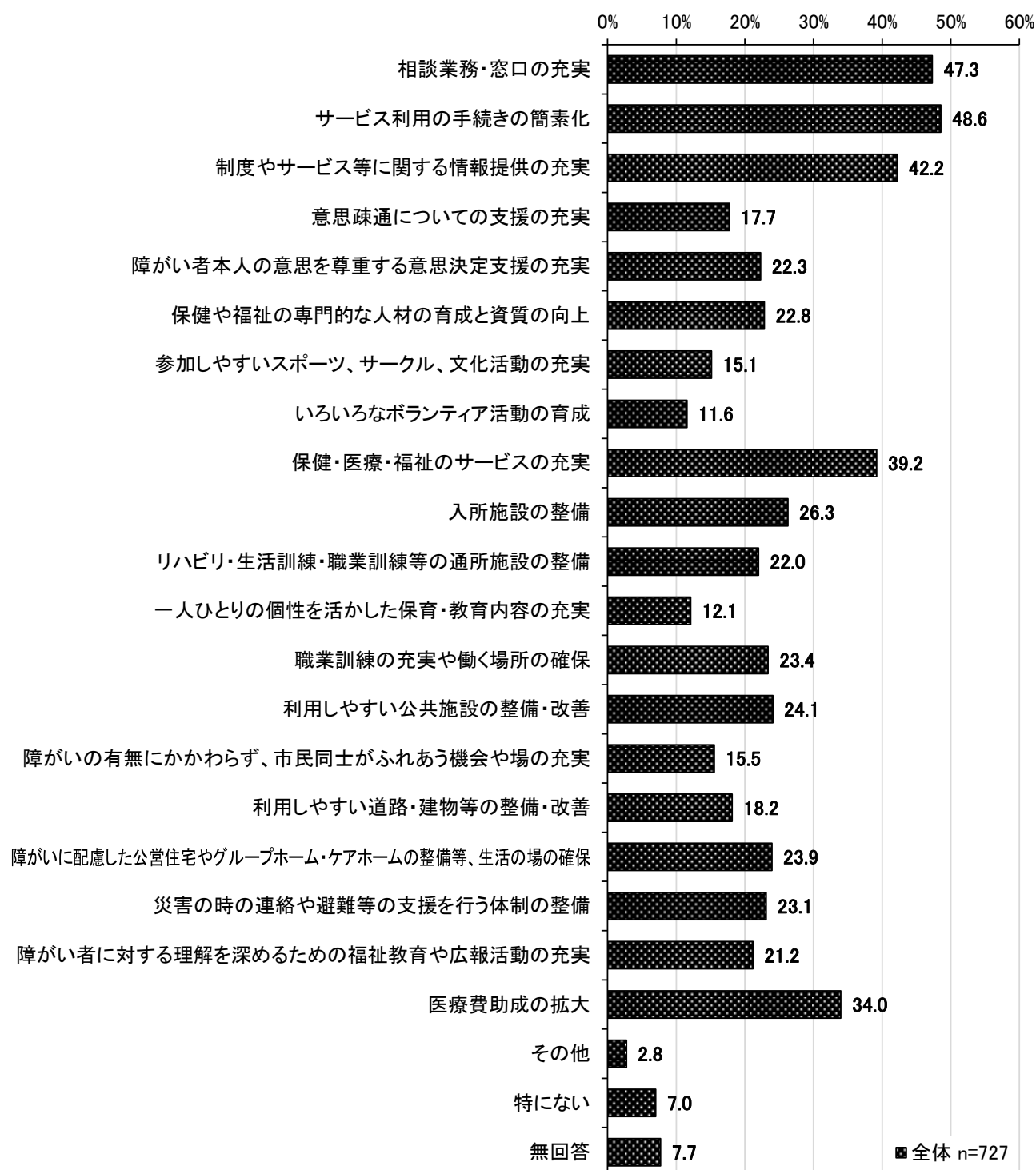
障がい種別でみると、《深まってきている》は、難病患者が46.2%で最も高く、次いで精神障がい者が40.3%、身体障がい者が39.6%となっています。

		かなり深ま ってきてい 思う	少しは深 まってきて いると思う	どちらとも 言えない	あまり深ま っているとは 思わない	まったく深 まっていな いと思う	わからない	無回答
全体 n=727		6.7%	34.3%	16.2%	12.8%	5.0%	18.7%	6.3%
障 が い 種 別	身体障がい者 n=421	5.9%	33.7%	18.5%	13.3%	4.3%	17.1%	7.1%
	知的障がい者 n=113	8.0%	28.3%	20.4%	12.4%	7.1%	16.8%	7.1%
	精神障がい者 n=134	6.7%	33.6%	9.7%	17.2%	6.7%	21.6%	4.5%
	難病患者 n=143	7.0%	39.2%	18.9%	9.8%	2.8%	16.1%	6.3%

問 50 障がいのある人が自立した生活を送るために何が必要だと思いますか。(いくつでも)

障がいのある人が自立した生活を送るために必要だと思うことについては、「サービス利用の手続きの簡素化」が48.6%で最も高く、次いで「相談業務・窓口の充実」が47.3%、「制度やサービス等に関する情報提供の充実」が42.2%となっています。

なお、「特にない」は7.0%となっています。



■障がい種別

障がい種別でみると、身体障がい者では、「相談業務・窓口の充実」が47.0%で最も高く、次いで「サービス利用の手続きの簡素化」が46.1%、「制度やサービス等に関する情報提供の充実」が41.3%となっています。

知的障がい者では、「相談業務・窓口の充実」が45.1%で最も高く、次いで「サービス利用の手続きの簡素化」が42.5%、「入所施設の整備」が38.1%となっています。

精神障がい者では、「相談業務・窓口の充実」が59.0%で最も高く、次いで「サービス利用の手続きの簡素化」が52.2%、「保健・医療・福祉のサービスの充実」が50.0%となっています。

難病患者では、「サービス利用の手続きの簡素化」が58.7%で最も高く、次いで「医療費助成の拡大」が49.0%、「制度やサービス等に関する情報提供の充実」が46.9%となっています。

		相談業務・ 窓口の充実	サービス利 用の手続き の簡素化	制度やサー ビス等に関 する情報提 供の充実	意思疎通に ついての支 援の充実	障がい者本 人の意思を 尊重する意 思決定支援 の充実	保健や福祉 の専門的な 人材の育成 と資質の向 上	参加しやす いスポーツ、 サークル、 文化活動の 充実	いろいろな ボランティア 活動の育成	保健・医療・ 福祉のサー ビスの充実	入所施設の 整備
	全体 n=727	47.3%	48.6%	42.2%	17.7%	22.3%	22.8%	15.1%	11.6%	39.2%	26.3%
障 が い 種 別	身体障がい者 n=421	47.0%	46.1%	41.3%	16.2%	19.2%	20.2%	13.3%	10.2%	37.1%	24.0%
	知的障がい者 n=113	45.1%	42.5%	37.2%	24.8%	29.2%	34.5%	17.7%	12.4%	35.4%	38.1%
	精神障がい者 n=134	59.0%	52.2%	49.3%	26.9%	29.9%	25.4%	18.7%	13.4%	50.0%	23.1%
	難病患者 n=143	45.5%	58.7%	46.9%	18.2%	23.1%	28.0%	13.3%	11.9%	45.5%	32.2%

		リハビリ・生 活訓練・職 業訓練等の 通所施設の 整備	一人ひと りの個性を活 かした保育・ 教育内容の 充実	職業訓練 の充実や働く 場所の確保	利用しやす い公共施設 の整備・改 善	障がい者の有 無にかかわ らず、市民 同士がふれ あう機会や 場の充実	利用しやす い道路・建 物等の整 備・改善	障がい者に配 慮した公営 住宅やグ ループホ ーム・ケア ホームの整 備等、生活 の場の確保	災害の時の 連絡や避難 等の支援を 行う体制の 整備	障がい者に 対する理解 を深めるた めの福祉教 育や広報活 動の充実	医療費助成 の拡大
	全体 n=727	22.0%	12.1%	23.4%	24.1%	15.5%	18.2%	23.9%	23.1%	21.2%	34.0%
障 が い 種 別	身体障がい者 n=421	19.5%	10.0%	15.7%	25.4%	12.6%	19.2%	20.0%	23.0%	18.5%	29.7%
	知的障がい者 n=113	24.8%	16.8%	24.8%	19.5%	19.5%	15.0%	32.7%	19.5%	27.4%	31.0%
	精神障がい者 n=134	24.6%	16.4%	37.3%	25.4%	20.1%	14.2%	26.1%	27.6%	26.9%	42.5%
	難病患者 n=143	25.9%	13.3%	26.6%	36.4%	18.2%	26.6%	27.3%	29.4%	23.1%	49.0%

		その他	特にない	無回答
	全体 n=727	2.8%	7.0%	7.7%
障 が い 種 別	身体障がい者 n=421	2.6%	7.4%	8.6%
	知的障がい者 n=113	3.5%	10.6%	5.3%
	精神障がい者 n=134	5.2%	5.2%	4.5%
	難病患者 n=143	1.4%	3.5%	7.0%

問 51 最後に、障害福祉サービスや行政の取組について、その他普段の生活で困っていること、不安なこと、また、共生社会の実現のために必要と考えていることなど、何でも結構ですので、自由にご記入ください。

自由に記述していただく設問では、196 件の意見が寄せられました。主な意見の内容に分類し、多い順に示した結果は下表のとおりです。

順位	項目	件数
1	生活全般について	32 件
2	行政への意見について	30 件
3	移動手段について	24 件
4	経済的負担の軽減について	22 件
5	福祉サービス・施設について	20 件
6	親亡き後の生活について	15 件
6	障がいの理解について	15 件
8	情報提供について	13 件
9	就労について	12 件
10	本調査について	9 件
11	障がい児（保護者含む）の意見について	4 件

以下に主な意見を抜粋し、掲載しています。

（１）生活全般について

- ・いつも市役所の方やサポートしていただいている相談員の方には感謝しています。1人暮らしをしたいです。1人で生きていける自分になりたいです。がんばります。（18～29 歳／男性）
- ・これからもずっと龍ヶ崎市で暮らしていきたいです。充実した毎日を過ごすために、私の事をよく理解してくれる知り合いやお友達をもっとたくさん作りたいと思っています。もっといろいろな人と交流できる機会があればうれしいです。（18～29 歳／女性）
- ・今は主人がいるので生活できていますが、主人がいなくなった場合、どのようにして生活するかが不安です。子どももいるので私だけでは生活が成り立たなくなると思います。そういった場合にどんな支援を受けられるか相談ができるとありがたいです。主人も今、そううつ病で療養中ですので、今後仕事を見つけられるかが心配です。主人が無理なく働ける場所をハローワーク等で紹介して頂けるとありがたいです。（40～49 歳／女性）
- ・今はいいけど、1人になった時に買い物に行くのが不安です。（60～64 歳／女性）
- ・「災害時避難行動要支援者避難支援プラン」は毎年郵送されてきますが、地域住民との交流がないのでどなたに連絡をするのかも分からず、いざ災害となった時はどうなることやらとあきらめている状況です。（65 歳以上／男性）

- ・喉の病気で会話ができないため、緊急時の対応等ができない（例えば救急車を呼ぶ時など）。
（65 歳以上／男性）
- ・災害が起きた時、一人で家に居る時に避難の援助をしてくれる方がいるかどうか不安である。近所の方々も高齢、一人暮らしの方が多く、これから助け合っのシステム（自治会の活動）の必要性を感じます。（65 歳以上／男性）
- ・今は生活全体をお世話になっています。ありがとうございます。この生活がどこまで続けて行けるのかが自分の不安な事です。経済的にも健康的にも。持病が悪くならないように毎日自分なりにですが頑張っています。外見はなんともないですが、頭と言うか体に異変を**起こしたく**ないです。入院もしたくないです。今でも左耳に異変というか耳鳴りに近いものを感じます。今でもテレビ、ラジオをかける事で自分でははっきり感じ取れないが、今こうして書いている時、部屋は無音だから感じ取れます。（65 歳以上／女性）
- ・障がいは数十年抱えていく事が多いと思います。自分も甘えすぎず、しっかりとした気持ちで生活しなければと思っています。行政が、このようなアンケートをとって下さることは大変心強くありがたいと思います。私が何とか家の中でも杖を使い行動していますが、数年前主人が脳梗塞を患い、日増しに自分自身の日常が大変になっている姿を見て、不安になっている状況です。何とかトイレに行っていますが、シャワーもやっとのようで一昨日が不安です。（65 歳以上／女性）
- ・全く足が動かなくなる日が来ると感じています。その際の支援や補助があるか、それを求める時の方法などが不安です。必要になった場合にすぐ動いてもらえるととてもありがたいのだが、それは可能だろうか日々考えています。（65 歳以上／女性）
- ・令和 5 年 6 月に障害者手帳を交付していただきました。私の母は 88 歳で他界したので、私も母の年までは生きていたいと願ってまいりましたので、その母よりもすでに 5 年も長く生きております。なんとか自分で歩いています。今は 60 歳を過ぎて独身の息子と二人で暮らしています。娘がいますが、今はアメリカのロサンゼルス付近におり、1 年に 1、2 回は帰ってきてくれるので、二人でその時には各地の温泉に行っております。今年 10 歳になるミニ柴犬と毎日北竜台公園あたりを散歩しています。今、龍ヶ崎も大好きな町になりました。100 歳を目指してこれからの日々も犬と共に元気で過ごしたいと思っています。手が震えてまともな字が書けなくなりました。乱文をお許しくださいます。（65 歳以上／女性）

（2）行政への意見について

- ・行政の窓口対応が相談しにくい雰囲気の為、改善を希望します。（18～29 歳／男性）
- ・ヘルプマークはいろんなところに付けたいから、（複数のバッグ）一人一枚じゃなくてどんどん配ってほしい。あと窓口でミスジェンダリングしないで。マイナンバーで女ってわかっているのに、ずっと男だと思われていて夫婦で気まずくなりました。公的な証書を出している時はちゃんと確認して下さい。障がい福祉課にはいつもお世話になっているけど、ジェンダーに関する研修会とかした方がいいと思います。（30～39 歳／女性）
- ・障がい者だからこそいろんな制度を利用したいのに、その手続きをするのに役所に行ったり必要書類を集めたりするのが大変なので、郵送やネットで完結できるようにするか代行サービスをしてほしい。（30～39 歳／女性）

- ・精神障がいのフリをした人が多くなってきているからか、申請等が通りにくく、本当にサービスが必要な人々の所にサービスが行き届かなくなる気がして不安。現に、障害年金の申請をしており、かなりひどい状況でもかなりシビアに判断されるとの事で、申請に必要な診断書も合計3万円ほどかかっているが、通らなくても返ってこないためとても怖い。精神2級でも通るかわからないと言われていて、3級の人達でもかなりつらいと思うのに、**どのような人**が申請を通してもらえるレベルなのかと毎日不安に思っています。そのあたりの改善をしていただけると自殺をする人も減るのではないかなと思います。(30～39 歳／女性)
- ・全てにおいて手続きに時間がかかりすぎ。障害者手帳に2か月かかるし、それからの障害年金の手続き。病気になってから半年経つが、まだ結果すらわからない。遅すぎて生活が追い込まれる。お金がなくて困っている。(40～49 歳／男性)
- ・僕は精神障がい2級です。市役所の手続きは自分で行けます。社会福祉部にもたまに行きます。窓口で担当の方が対応してくれます。僕はコミュニケーションが苦手な形で形式的なやり取りになっています。障がい福祉課の方は長く変わらずにいる方が多いようです。もっと顔見知りになり、顔を覚え、打ち解けて、安心を得たいと思っています。色々話しかけて下さい。お願いします。(50～59 歳／男性)
- ・市役所に行かなければ手続きできない事が多い。一人で行けないものは予定が立たない。送迎があればいいと思う。(50～59 歳／女性)
- ・サービスや制度がわかりやすく、手続きが簡素化され、スピードアップすればいいと思います。(60～64 歳／男性)
- ・私は東京都、千葉県、山梨県、埼玉県、茨城県と引越しをしてきましたが、今までの中で茨城県が一番福祉や障がいに対しての対応、サービス等々が遅れていると感じました。龍ヶ崎市役所の職員の方々の向上をこれから期待しております。今後も宜しくお願い致します。(60～64 歳／女性)
- ・行政の障害者手帳発行の手続きに、2か月程度かかるとあり、さらに窓口で確認したうえで書類を提出したにもかかわらず、2か月を超えてから発行されました。そのため、不都合が生じました。この様な事が無いようなプロセスを作って欲しい。(65 歳以上／男性)
- ・老人ホームに入所しているのですが、マイナンバーカードの期限が切れた場合のマイナンバーカード作成の際、市役所のサポートをお願いしたいです。スマホではなくガラケーなので写真が心配です。市役所のサポートをお願いします。(65 歳以上／女性)

(3) 移動手段について

- ・自宅から近いバスが全然通っていない(本数が少ない)。就労移行のスクールに公共機関を利用しているので、本数が少ないと行ける時間が限られる。または遠いバス停まで行く必要があり、不便です。(18～29 歳／女性)
- ・コミュニティバスをJR龍ヶ崎市駅まで延ばして欲しいです。ひまわり園の近くの道路に信号機をつけて欲しいです。(30～39 歳／男性)
- ・外出はできるが、あまり歩けなくて困っています。車イスがあれば使いますが、車イスは自分のものがありません。(40～49 歳／女性)
- ・バスがなくなると、出かけられなくなるので困ります。(50～59 歳／女性)
- ・まちづくりを充実させ、安心して歩けるように整備、管理していただきたい。段差や歩道など。(65 歳以上／男性)

- ・通院、外出時にコミュニティバス及び龍タクを利用しているが、コミバスの本数が少ないこと。目的地近くに内回り外回りでバス停が離れていること等。龍タクの利用時間が少ないこと等。タクシー利用が不便。(65 歳以上／男性)
- ・車椅子なので移動に自家用車、介護タクシーを利用します。バスは利用したことはありません。他の乗客の方に迷惑になる。本数も少なくなっているからです。障がい者用駐車場、トイレにはできるだけ健常者の方は利用を控えてもらいたい。私達はそこでしかできないのです。一度車いすや杖で市内を歩いてください。(65 歳以上／女性)
- ・他市を含む近隣の大型総合病院への通院方法の拡充（ルート、バス、介護タクシー等）。(65 歳以上／女性)
- ・道路（歩道）の整備を早急にすべき。車椅子も杖歩行も困難な道が多い。歩道にベンチを増やしてほしい。(65 歳以上／女性)

（４）経済的負担の軽減について

- ・３級ではお金がかかる事が多いが、自立支援の医療費は一万円までとなっている。もう少し手当を充実してほしい。(30～39 歳／男性)
- ・父親である自分が身体障がいにより、子どもの進学制限（金銭面）がどうしてもかかる。特に大学や通学定期など、障害年金と透析など勤務日数や時間の制限により 200 万円程度まで減収した給与では難しいと思う。また、働き口の確保（市役所等）雇用の紹介があると将来を前向きに検討する事が出来る。(30～39 歳／男性)
- ・障がい者への経済的支援とか、龍ヶ崎市内の店で使えるクーポン券の発行など支援を強化させてほしい。(40～49 歳／男性)
- ・難病の方でも病院までのバス、電車などの交通費の負担をもう少し改善してほしいです。往復でもかなりの出費となります。(40～49 歳／女性)
- ・放デイの収入による階層分けで、負担金が大きく通えないという事例を耳にします。我が家は 4,700 円で学童とほぼ同額のため支給日数上限まで利用しても問題ないですが、上の階層の 37,200 円だったらと考えると支出が大きく通所を減らさざるをえなくなると思います。(40～49 歳／女性)
- ・障がい者とその家族の経済負担を軽減する施策を考えてほしい。(65 歳以上／男性)
- ・毎日生きていくのに、まわりの方々の理解はとても大事ですが、もっと大事なのはお金だと思います。色々な等級があるが、もっと線引きをゆるく広くやってほしい。毎月、特定の人だけでなく、広くカバーしてほしい。(65 歳以上／男性)
- ・通院等の費用の軽減（交通費、薬代等）。(65 歳以上／女性)

（５）福祉サービス・施設について

- ・障がいに関わる人材が足りない。通所、入所施設が少なく、重度の人間は断られることもある。家族（親）なき後でも安心して暮らせる人、場所、制度を確立してほしい。他の市町村の人と話を見ると、龍ヶ崎市は障がいについてはかなり遅れているし、手薄い。子育て日本一を目指すなら、そこに障がいのある子も入れてほしいです。(18 歳未満／男性)
- ・放課後デイサービスの数が少ない。利用料の金銭的負担が多い。市町村によって受けられるサービスの差がある。デイサービス支援内容にも格差がある。特に龍ヶ崎の放課後デイサービスの療育の質は良くないと思う。(18 歳未満／男性)

- ・ショートステイのできる場所が少ない。(18～29 歳／男性)
- ・20 代後半でA型事業所に通所しています。通所先の利用者の方の数が多く、イスに座れない、発作が出たときに休みたくても静かに休めないという悩みが前々からあります。市内にも事業所の数が少ないことや、別の環境に移るのが不安という気持ちもあります。障がいのある人が自立できる取組を少しでも増やしてほしいと思います。(18～29 歳／女性)
- ・入所施設を増やして欲しい。(30～39 歳／男性)
- ・精神障がい者に対するサービスが少ない。(60～64 歳／男性)
- ・ケアマネジャーとか専門員の人員不足。(65 歳以上／男性)
- ・老老介護でひとりが病気になった場合、家族は共働きが多い。子ども達には頼れないし、困った時に市のサービスや介護施設に預けられる施設があると助かりますし、すぐ相談にのってくれる方がいると良いと思われれます。(65 歳以上／女性)

(6) 親亡き後の生活について

- ・現在、子ども本人は一人っ子で兄弟がいないため、将来、親が亡くなった後のことについて不安が大きく、子どものためにどのくらいお金を用意しておくべきか、成年後見人制度のことなど、親向けのセミナーなどを開催してもらえると嬉しいです。親がいなくなっても、本人を理解してくれる存在がいてくれるか不安です。障害福祉サービス（補装具の補助金など）が、県内でも自治体によって差があるのをなくしてもらえると良いです。(18 歳未満／男性)
- ・現在、生活全般でサポートが必要です。親に先立たれた後の生活が最大の不安事です。
(18～29 歳／女性)
- ・不安なことは、親が年を取り、障がいを持つ子どもをどこまで、いつまで見ていられるかということ。幸い入所施設に入ることができていますが、その先が心配です。(30～39 歳／男性)
- ・親亡き後の本人の生活（居場所）、安心・安全に生活できるGH等の充実を求めます。普通に過ごせる場所、楽しめる時間を持てる場所→TVを見たり、おやつを食べたり、毎日お風呂に入れたり、そんな普通の生活のできる場所を求めます。(30～39 歳／女性)
- ・現在は両親とも元気なので、通所、ショートステイも楽しく過ごしているが、父 81 歳、母 79 歳と高齢なので親亡き後が心配。生活を介護してくれる施設の拡大をお願いしたいと思います。
(50～59 歳／女性)
- ・親亡き後の社会全体での支援サービスの充実。(65 歳以上／男性)

(7) 障がいの理解について

- ・ギッテルマン症候群は、18 歳までの医療補助です。内服は一生続くので、薬のお金が心配です。分かりにくいですが、疲れやすく気分不快になることも多いです。見た目が普通な分、分かりにくいので理解されるまでに時間がかかります。(18 歳未満／男性)
- ・放デイや就労支援施設も増えているが、質が悪いという意見もある。健常者の障がい者への理解が一番だと思うが、こちら側がいくら啓蒙しようと、福祉教育を手厚くしても一番届いてほしい層には届かないし、「他人事」でしかないだろう。自分や自分の身内が障がい者にならない限り。共生なんて理想論で、障がい者が健常者の世界に混ざろうとすると苦しい。本人も、家族も。共生ではなく、障がい者は障がい者として生きられるシステム・受け皿が最低限あればいいです。うわべだけきれいな障がい者支援、やらないでほしいです。(18 歳未満／女性)

- ・生活保護を受けているけれど、ケースワーカーが障がい者に対して理解がなさすぎる。
(40～49 歳／男性)
- ・外見では分からない障がい者がいる事を知ってほしいが、ヘルプマークをつけるのは抵抗がある人もいます。しかし他に方法がない事も分かります。(65 歳以上／男性)
- ・手話の普及活動。特に行政職員への研修等への導入など、住民対応の向上。(65 歳以上／男性)
- ・障がい者が一人で買い物をするのは大変な事と思っています。そのところをお店で働くレジの方や店長さんなど理解して欲しいと思います。またこんな店もあります。スーパーの店員さんはすごくやさしいです。親切です。この会社はよく指導していると思いました。指導してはじめて分かるんだと思います。(65 歳以上／男性)
- ・精神障がい者、身体障がい者への理解を求めても、今の社会が余裕がないので難しいのは分かりますが、せめて市役所の方、市議会議員の方、福祉関係者、医療関係者などの方には寄り添った接し方をしてほしいです。(65 歳以上／男性)

(8) 情報提供について

- ・色々な方に相談したり、多少はできていると思います。正直、市役所の方々は、こちらから聞かないと「こういうサービスがありますよ」と教えてくれず、子どもがまだ小さい頃に何度かありました。友だちからこういうサービスがあるよと聞き、窓口で聞く感じ。あとは将来、子どもがどう生活して生きていくのか不安。就労 A、B とかってなに。親の私達もよく理解できていない。「自立」を願うが、手助けが必要なので今の段階では難しいと思う。親の私の方が先に旅立つと思うし。広報で障がい福祉のことを詳しく特集してほしいです。(18 歳未満／男性)
- ・精神障がい者の手帳を取得したが、どんなサービスが受けられるかわからない。その障がい者に合致したサービスを案内するための機会を設けて欲しい。一般的に、障がい者向けのパンフレットを見るときに、字が細かかったり長文であることが多い。娘は集中力がなく、長文を読むことがあまりできない。そのため、パンフレット等を作成する機会があれば、大見出し、サービスの概要、対象者、連絡先を 1 ページごとに作って欲しい。同じページに各種サービスが記載されていると、本人がそのサービスの対象になるのか分かりづらい。また、できれば障がいごとにパンフレットを準備してもらえるとありがたい。(18～29 歳／女性)
- ・市の窓口で、本人の状態に合わせたサービスを提案して頂ければ有難い。(30～39 歳／男性)
- ・障害福祉サービス等の利用について、何が利用できるかがわからなかった。自ら情報を得るための行動をしなかったこともあるが。(40～49 歳／男性)
- ・どういう援助があるのかほとんど知りません。自分から出かけて自治体に聞くというもの。何か情報がわかるものがあればと思います。(60～64 歳／女性)
- ・行政から積極的にどんなサービスを受けられるのか教えてほしい。分かりにくい。
(65 歳以上／男性)
- ・障害福祉サービスがあること自体、知らない。サービスがあるなら知らせて欲しい。なかなか市役所にも行けないし、介助者も勤めているので情報が入りにくい。(65 歳以上／女性)

(9) 就労について

- ・障がい者の雇用をアルバイトではなく正社員で受け入れてくれる所が増えると良いと思います。週5で1日6～8時間働いても、1人で生活するお金はもらえないです。自立できるように。

(18～29 歳／男性)

- ・障がいのある方が安心して、不快な思いをなるべくしないような職場とマッチングができる制度があれば良いなと思います。私が現在、職場で同部署の方とうまく連携が取れていないのが悩みです。会社も私の身体の事情は分かっていますが、入る前と後でモヤモヤすることが多々あります。このような思いをする方を少しでも減らしていくことが何より大切だと思います。また、私のような人はどこに相談をすればいいのかも知りたいです。(18～29 歳／女性)
- ・仕方がないことだと理解しているが、社会復帰に当たって、経験があっても法的ではなく単純に障がい者だから断られることがある。障がい者が少しでも社会復帰を望むなら、就職機会が増えるよう職種選択の拡充を望む。(30～39 歳／男性)
- ・今A型事業所を検討しているのですが、週5が基本など、自分としてはハードルが高く感じるので、もう少し柔軟な事業所があると良いなと思います。(30～39 歳／女性)
- ・数年前にA型事業所で働いていた時、市外から来ている人たちには通勤手当があったのに、龍ヶ崎に住んでいる私たちにはなかったので、通勤（龍ヶ崎線）のお金が負担になっていました。現在はどうか分かりませんが、障がい者の通勤手当を出していただけたらうれしいです。

(30～39 歳／女性)

- ・私は精神障がい者手帳3級で、うつ病ですが、現在は症状が落ち着いています。しかし、薬は必要で、悪化する時は動けなくなるため、今後がとても不安です。障がい者雇用で入社しても、体調の波があり、安定して働くことも難しかったりします。生活、就労へのサポートをしていただけると助かります。(40～49 歳／女性)
- ・現在の年齢での就活が全く進みません。ハローワークへ行ってもA型・B型等、年齢制限があるようで推していただけません。前職の退社から2年（会社都合）、限界に来ています。今は車を所有していますが、来年春の車検は払えそうにありません。車がないと就活の幅はますます狭くなると考えると、働きたいのに働けなくて心が病みそうです。家族とも折り合いが悪く、1人で抱えているのも辛いです。(60～64 歳／女性)

(10) 本調査について

- ・コミュニケーションが困難な為、このようなアンケートの場合、本人の意向を知るのが難しく、どうしても介助者（親）の意向になってしまいます。福祉の店が無くなったそうで残念です。障がいがある人達が、事業所や施設等以外でもっと参加できる場所があると良いと思います。

(40～49 歳／男性)

- ・アンケートを送って頂きましたが、潰瘍性大腸炎で特定の認定は受けていますが、日常生活には支障なく生活できています。答えていく中で、私、障がい者なのかなと思いながら答えていました。問11ですが、その後の展開もなく、もう少し問いを考えた方がいいかと思いました。認定は受けていますが、生活に支障はないんです。私の他にも同じようにモヤモヤした方もいらっしゃるのではと思います。(40～49 歳／女性)

- ・ 80 歳の夫の気持ちになって書きましたが、障がい者の枠が大きすぎて答えるのが難しいです。
(65 歳以上／男性)
- ・ 自分は、このようなアンケートは D X、Q R にしてほしい。(65 歳以上／男性)
- ・ 障がい者ではないのに、なぜアンケートが届くのか分からない。該当するアンケート内容ではありません。(65 歳以上／女性)

(11) 障がい児（保護者含む）の意見について

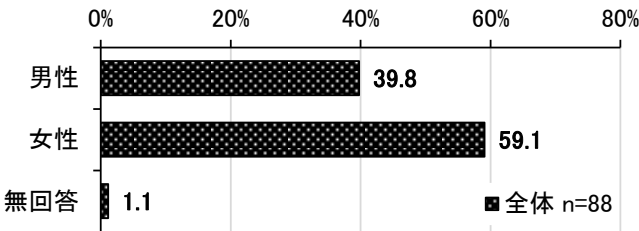
- ・ きょうだい達が通った幼稚園へ通わせようと思ったところ、幼稚園から、看護師がいないので何かあった時どうしたらよいか不安との話がありました。どこの幼稚園でも、健康な子と同じように選べる（幼稚園を）権利がほしいです。つぼみ園に通わせてもらっていますが、なかなか予約がいっぱいで通えないので、新たな施設をつくるなど通える頻度を増やしてほしいです。障がい児だけでなく、障がいの **ある** きょうだいがいる **きょうだい** にもフォーカスしていただきたいです。
(18 歳未満／男性)
- ・ グレーゾーン、軽度の発達障がい児が交流する場があると良いと思います。学校などでは自分を出せずにいる子ども達が、自分を出せる場所があると安心して過ごせると思います。
(18 歳未満／男性)
- ・ 小中の先生が（支援クラスの先生）が、放課後等デイサービスについて知らない。知ろうとする、見学するなどの意欲も感じない。小学校までは支援クラスで個別の宿題など各生徒に適した勉強方法を考えてくれたが、中学に入ると全くされない。保護者が中一の四月から何度も要望しても、長期休み以外は全く自宅での勉強を提案してくれなかった。両極端すぎて困る。小中一貫の教育を目指しているならば、小、中学校の支援の先生方ともしっかり連携をとってほしい。
(18 歳未満／男性)
- ・ 障がいの **ある** 子どもの親の横のつながりが欲しいが、会う機会などがなく、そういう話し合いができるイベントを小学校などで年 1 回ぐらいあるとつながりができてうれしいと思いました。市全体よりも小学校内、または近くの小学校ぐらいの規模の方が今後も関わりやすいと思います。どのような子育ての工夫、先生に伝えている事など共有できる機会があるとうれしいです。
(18 歳未満／男性)

第Ⅲ部 市民アンケート【調査結果】

1. あなたご自身のことについて

問1 あなたの性別を教えてください。(1つのみ)

性別については、「男性」が39.8%、「女性」が59.1%となっています。



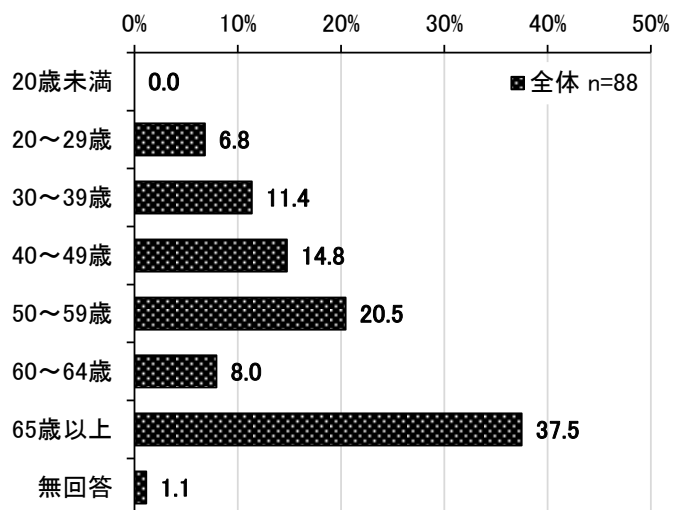
■経年比較

「女性」は、前回調査と比べて5.7ポイント増加しています。

	男性	女性	無回答
R7_今回調査 n=88	39.8%	59.1%	1.1%
R4_前回調査 n=88	46.6%	53.4%	0.0%
R2_前々回調査 n=116	41.4%	56.9%	1.7%

問2 あなたの年齢は何歳ですか。（1つのみ）

年齢については、「65歳以上」が37.5%で最も高く、次いで「50～59歳」が20.5%、「40～49歳」が14.8%となっています。

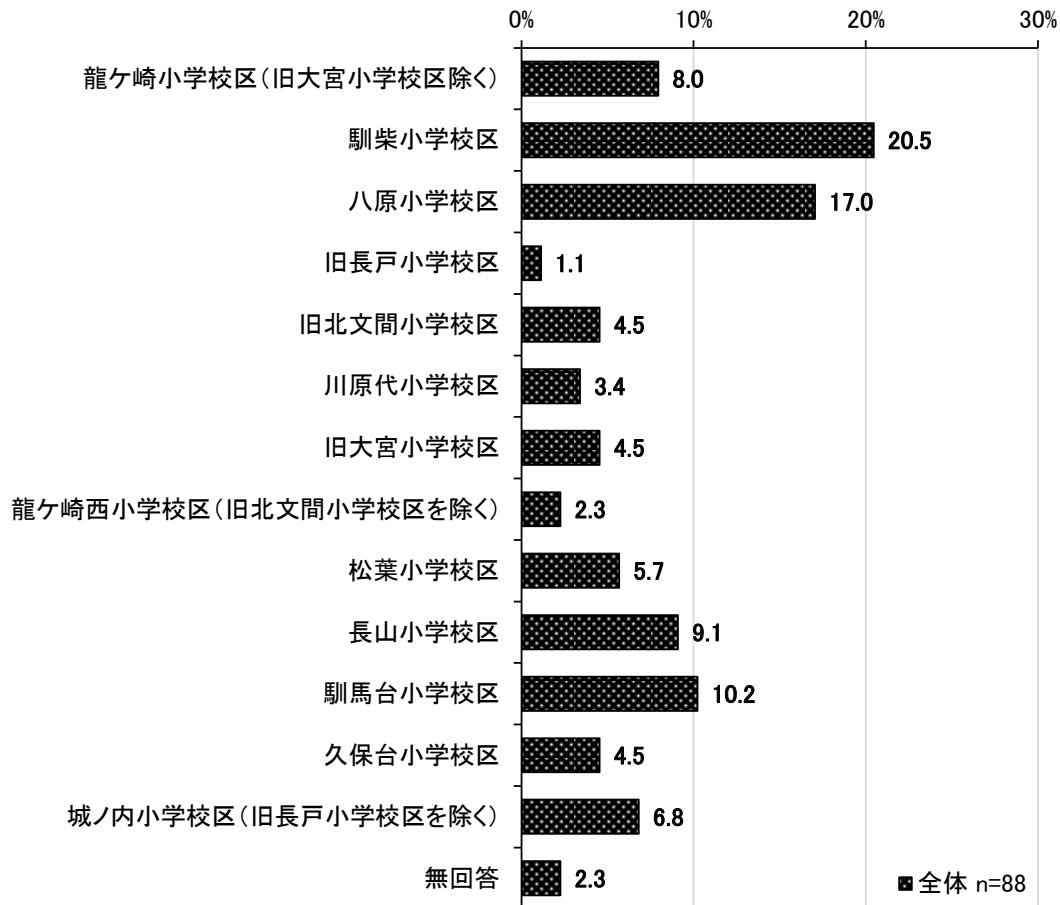


■経年比較

	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65歳以上	無回答
R7_今回調査 n=88	0.0%	6.8%	11.4%	14.8%	20.5%	8.0%	37.5%	1.1%
R4_前回調査 n=88	0.0%	5.7%	11.4%	17.0%	17.0%	11.4%	36.4%	1.1%
R2_前々回調査 n=116	0.9%	8.6%	13.8%	13.8%	19.8%	11.2%	30.2%	1.7%

問3 現在の、あなたのお住まいの小学校区は、どちらですか。（1つのみ）

居住地区については、「馴柴小学校区」が20.5%で最も高く、次いで「八原小学校区」が17.0%、「馴馬台小学校区」が10.2%となっています。



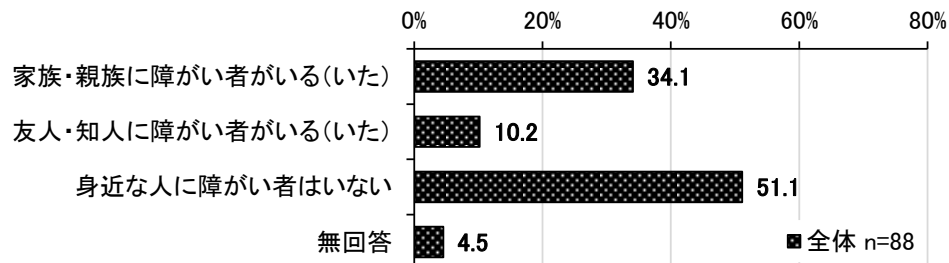
■ 経年比較

	龍ヶ崎小学校区 (旧大宮小学校区除く)	馴柴小学校区	八原小学校区	旧長戸小学校区	旧北文間小学校区	川原代小学校区	旧大宮小学校区	龍ヶ崎西小学校区 (旧北文間小学校区を除く)	松葉小学校区	長山小学校区
R7_今回調査 n=88	8.0%	20.5%	17.0%	1.1%	4.5%	3.4%	4.5%	2.3%	5.7%	9.1%
R4_前回調査 n=88	5.7%	22.7%	12.5%	0.0%	2.3%	1.1%	5.7%	3.4%	3.4%	10.2%
R2_前々回調査 n=116	6.9%	12.1%	19.0%	0.9%	2.6%	3.4%	6.0%	6.9%	11.2%	9.5%

	馴馬台小学校区	久保台小学校区	城ノ内小学校区 (旧長戸小学校区を除く)	無回答
R7_今回調査 n=88	10.2%	4.5%	6.8%	2.3%
R4_前回調査 n=88	6.8%	5.7%	6.8%	13.6%
R2_前々回調査 n=116	7.8%	7.8%	4.3%	1.7%

問4 あなたの家族や友人などに、障がい者がいますか。(1つのみ)

家族・友人などに障がい者がいるかについては、「身近な人に障がい者はいない」が51.1%で最も高く、次いで「家族・親族に障がい者がいる(いた)」が34.1%、「友人・知人に障がい者がいる(いた)」が10.2%となっています。



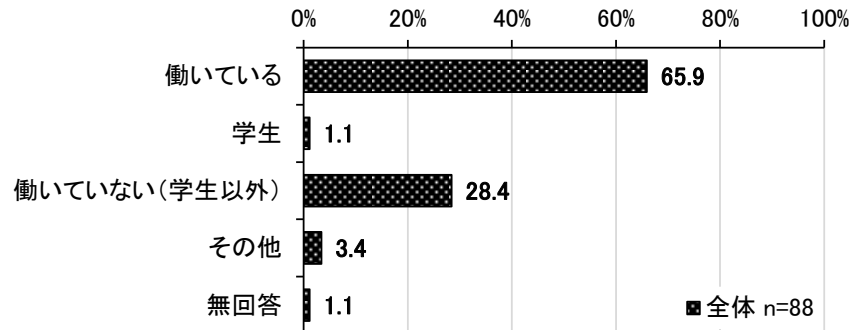
■経年比較

「家族・親族に障がい者がいる(いた)」は、前回調査と比べて8.0ポイント増加しています。

	家族・親族に障がい者がいる(いた)	友人・知人に障がい者がいる(いた)	身近な人に障がい者はいない	無回答
R7_今回調査 n=88	34.1%	10.2%	51.1%	4.5%
R4_前回調査 n=88	26.1%	15.9%	56.8%	1.1%
R2_前々回調査 n=116	37.1%	17.2%	43.1%	2.6%

問5 あなたは働いていますか。(1つのみ)

就労状況については、「働いている」が 65.9%で最も高く、次いで「働いていない(学生以外)」が 28.4%、「学生」が 1.1%となっています。



■ 経年比較

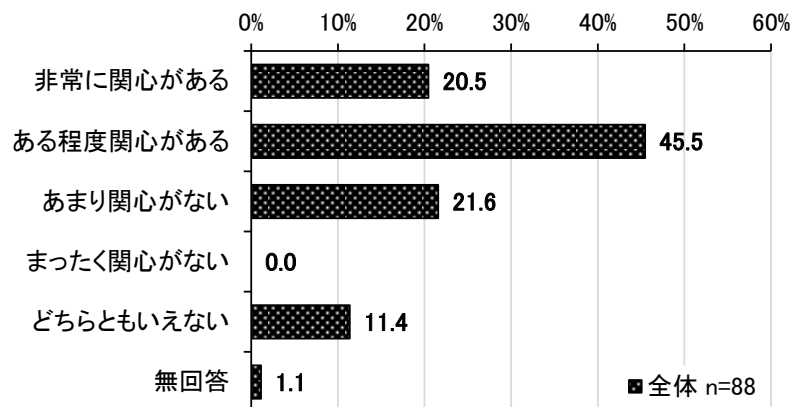
「働いている」は、前回調査と比べて 5.7 ポイント減少しています。

	働いている	学生	働いていない(学生以外)	その他	無回答
R7_今回調査 n=88	65.9%	1.1%	28.4%	3.4%	1.1%
R4_前回調査 n=88	71.6%	0.0%	23.9%	4.5%	0.0%
R2_前々回調査 n=116	66.4%	2.6%	26.7%	2.6%	1.7%

2. 障がい者福祉への関心について

問6 あなたは、障がい者の福祉について関心をお持ちですか。（1つのみ）

障がい者の福祉への関心については、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」の合計値《関心がある》が66.0%、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」の合計値《関心がない》が21.6%と、《関心がある》が44.4ポイント上回っています。



■ 経年比較

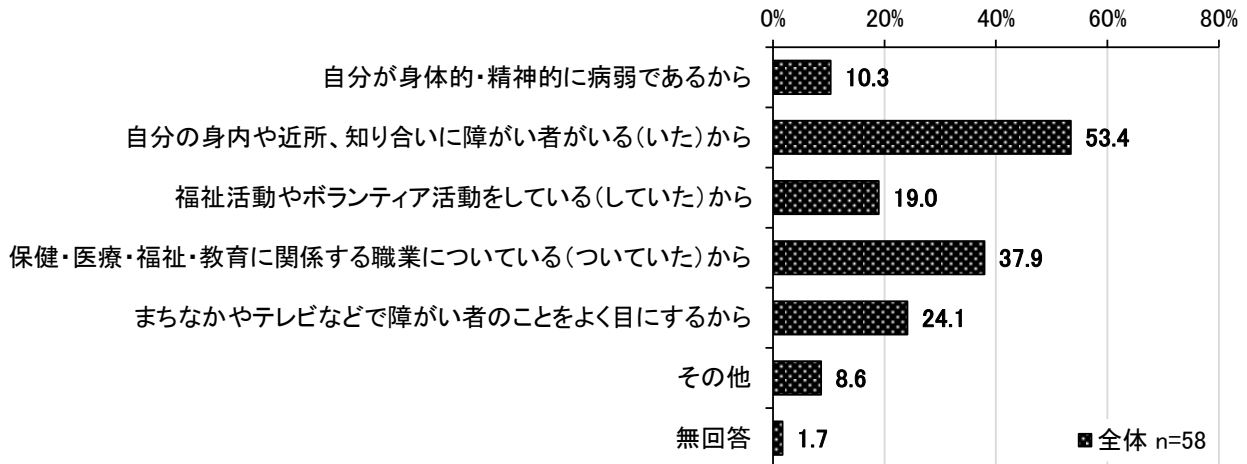
《関心がない》は、前回調査と比べて6.9ポイント増加しています。

	非常に関心 がある	ある程度関 心がある	あまり関心 がない	まったく関心 がない	どちらともい えない	無回答
R7_今回調査 n=88	20.5%	45.5%	21.6%	0.0%	11.4%	1.1%
R4_前回調査 n=88	15.9%	53.4%	13.6%	1.1%	13.6%	2.3%
R2_前々回調査 n=116	13.8%	56.9%	11.2%	0.9%	14.7%	2.6%

【問6で「非常に関心がある」「ある程度関心がある」と回答した方にお聞きします。】

問7 どのような理由から、関心をお持ちですか。(いくつでも)

関心を持った理由については、「自分の身内や近所、知り合いに障がい者がいる(いた)から」が53.4%で最も高く、次いで「保健・医療・福祉・教育に関係する職業についている(ついていた)から」が37.9%、「まちなかやテレビなどで障がい者のことをよく目にするから」が24.1%となっています。



■ 経年比較

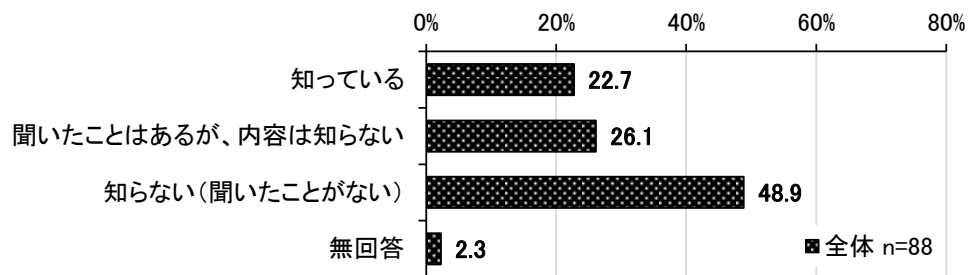
前回調査と比べて、「福祉活動やボランティア活動をしている(していた)から」が15.7ポイント、「保健・医療・福祉・教育に関係する職業についている(ついていた)から」が8.4ポイント増加しています。

	自分が身体的・精神的に病弱であるから	自分の身内や近所、知り合いに障がい者がいる(いた)から	福祉活動やボランティア活動をしている(していた)から	保健・医療・福祉・教育に関係する職業についている(ついていた)から	まちなかやテレビなどで障がい者のことをよく目にするから	その他	無回答
R7_今回調査 n=58	10.3%	53.4%	19.0%	37.9%	24.1%	8.6%	1.7%
R4_前回調査 n=61	8.2%	54.1%	3.3%	29.5%	26.2%	8.2%	1.6%
R2_前々回調査 n=82	2.4%	56.1%	11.0%	23.2%	35.4%	6.1%	1.2%

3. 障がい者に対する理解について

問8 あなたは、「障害者差別解消法」をご存知ですか。（1つのみ）

「障害者差別解消法」の認知度については、「知らない（聞いたことがない）」が48.9%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が26.1%、「知っている」が22.7%となっています。



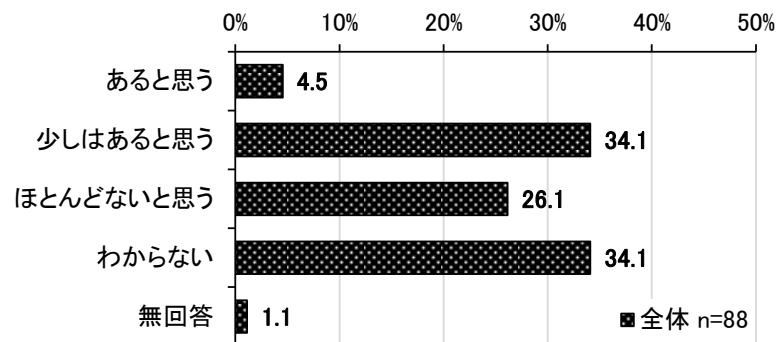
■経年比較

「知らない（聞いたことがない）」は、前回調査と比べて7.9ポイント減少しています。

	知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない(聞いたことがない)	無回答
R7_今回調査 n=88	22.7%	26.1%	48.9%	2.3%
R4_前回調査 n=88	9.1%	30.7%	59.8%	3.4%
R2_前々回調査 n=116	13.8%	28.4%	54.3%	3.4%

問9 あなたは、あなたが住む地域社会には障がい者に対し、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。（1つのみ）

地域社会での障がいを理由とする差別や偏見の有無については、「少しはあると思う」「わからない」がともに34.1%で最も高く、次いで「ほとんどないと思う」が26.1%となっています。



■ 経年比較

「ほとんどないと思う」は、前回調査と比べて3.4ポイント増加しています。

	あると思う	少しはあると思う	ほとんどないと思う	わからない	無回答
R7_今回調査 n=88	4.5%	34.1%	26.1%	34.1%	1.1%
R4_前回調査 n=88	14.8%	15.9%	22.7%	45.5%	1.1%
R2_前々回調査 n=116	10.3%	23.3%	25.9%	38.8%	1.7%

【問9で「あると思う」「少しはあると思う」と回答した方にお聞きます。】

問10 あなたはどのようなときに障がい者に対する差別や偏見を感じますか。

差別や偏見について自由に記述していただく設問では、27件の意見が寄せられました。

- ・邪魔にしている。(男性／20～29歳)
- ・あからさまに避けたり、関わりを持たないようにしている様子。雰囲気がある。(女性／20～29歳)
- ・街中やお店、電車などで障がいがある方がいて、声を大きく出してしまうたりする方が居た場合、特に周りに居る人達はその障がいがある方を見てヒソヒソと何かを話したり、変な目つきで見ていたりする場面を何度か見た事があります。私も11月からヘルプマークを使用していますが、やはり街中や電車内でジロジロ見られたり、私の場合は見た目がふつうな内部障がいなので、なおさら時々変な目で見られていると感じる時があります。(女性／30～39歳)
- ・福祉支援が少ないと感じる。(女性／30～39歳)
- ・大声等。(男性／40～49歳)
- ・JRの駅前に支援事業所があり、人通りが多い所のため目につくし、健常者が余計なことを言うてくる人達に何か言われそう。(女性／40～49歳)
- ・情緒が不安定な時に、どうしても大きな声を出してしまうため、周りから「うるさい」と言われたり、嫌な目で見られること。(女性／40～49歳)
- ・職場で同じ話を何度もすると無視されるなど、街中で目を合わせない人など。(女性／40～49歳)
- ・危なくないかなと差別してしまう時、できるかなと差別してしまう時。(男性／50～59歳)
- ・障がい者の目線に立った配慮がされていない施設をみた時など。(男性／50～59歳)
- ・漠然と。(男性／50～59歳)
- ・例えば、大きな声を出していると、注意しても無駄だから特別な目でみる。知的な障がいをもつ人だと、わからないからなどと少しバカにするような感じになる等。(男性／50～59歳)
- ・見た目等に障がい者とわからない場合もあるので、知らず知らずのうちに嫌な思いをさせている場合があるかもしれないということ。一般の方が、障がい者に対してどういうことが差別や偏見にあたるのかということを詳しく知っていないと思うから。(女性／50～59歳)
- ・自分の子どもが、小学校に通っていたころ、生徒に障がいのあるお子さんがいて、子どもからそのような子が偏見の目で見られていることを聞いた。また、防災士の講習を受けた時に、実際に避難所で生活している時に障がいのある人への理解が少ないことを聞かされました。(女性／50～59歳)
- ・障がい者本人と一緒にいる時にまわりの目が気になります。(女性／50～59歳)
- ・店への入店拒否、乗車拒否をされるというニュースなどを聞いた時。(女性／50～59歳)
- ・トラブルに会わないように避けている。(男性／60～69歳)
- ・企業の入社制限等(特に新卒採用で)。(男性／65歳以上)
- ・仕事(就職など)。(男性／65歳以上)
- ・少しの人は見て見ぬふりをしているのではないか。(男性／65歳以上)
- ・障がい者に対して乱暴な話し方をする時。(男性／65歳以上)
- ・障がい者の就労者をみかけることがない。(男性／65歳以上)
- ・希望の職業に就くことが難しい。将来1人で生きていけないと感じている。ATMなどで時間がかかっている時など、いら立っている人を感じる。(女性／65歳以上)

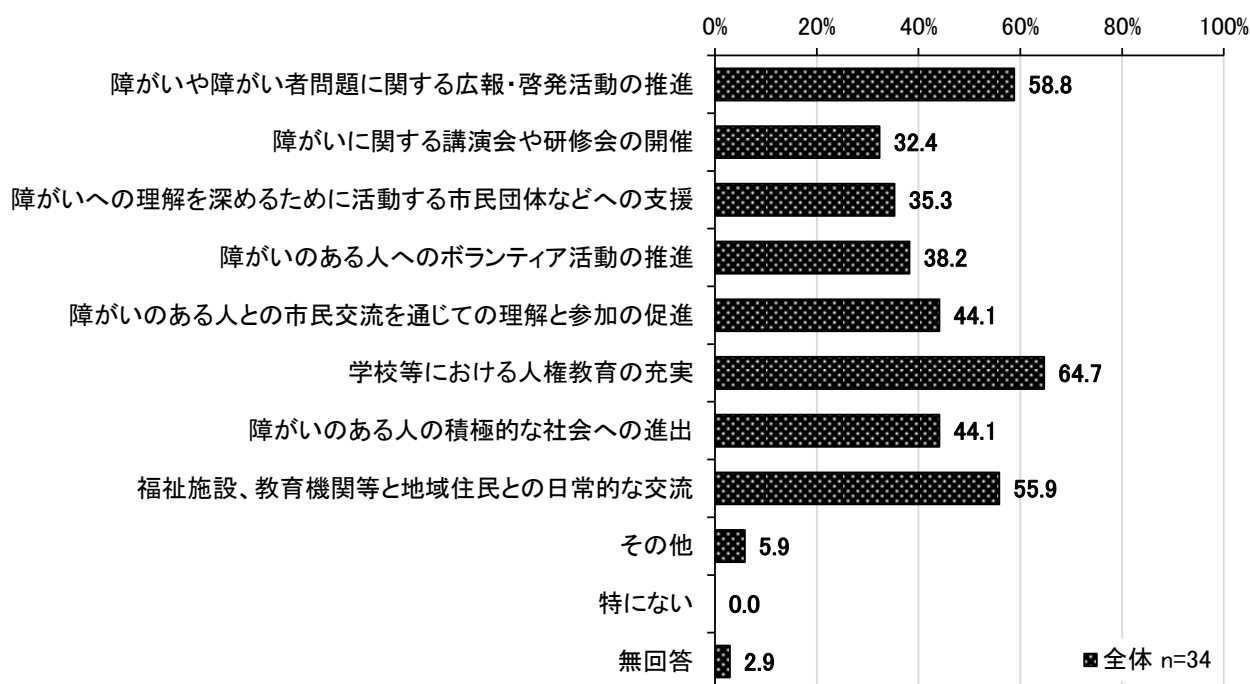
- ・自分自身で障がい者の方が困っている時に手を貸したりすることが出来ない。まわりの人も助けてあげることが出来ない。勇気を出したい。(女性／65 歳以上)
- ・障がい者ということだけで自分よりも程度の低い者として見ている会話を耳にする時があります。(女性／65 歳以上)
- ・障がい者に対しての接し方がわからず、避けてしまう。(女性／65 歳以上)
- ・障がい者の個々の度合いがわかっていない。身体なのか知的障がいなのか、ただ「あの人・あの子は生まれつきだから」「親族にそういった人がいるから仕方がない」など、ばかにしながら接している。その子へのかかわり方がわからない様子。(女性／65 歳以上)

【問9で「あると思う」「少しはあると思う」と回答した方にお聞きます。】

**問 11 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。
(いくつでも)**

障がい者への理解を深めるために必要なことについては、「学校等における人権教育の充実」が64.7%で最も高く、次いで「障がいや障がい者問題に関する広報・啓発活動の推進」が58.8%、「福祉施設、教育機関等と地域住民との日常的な交流」が55.9%となっています。

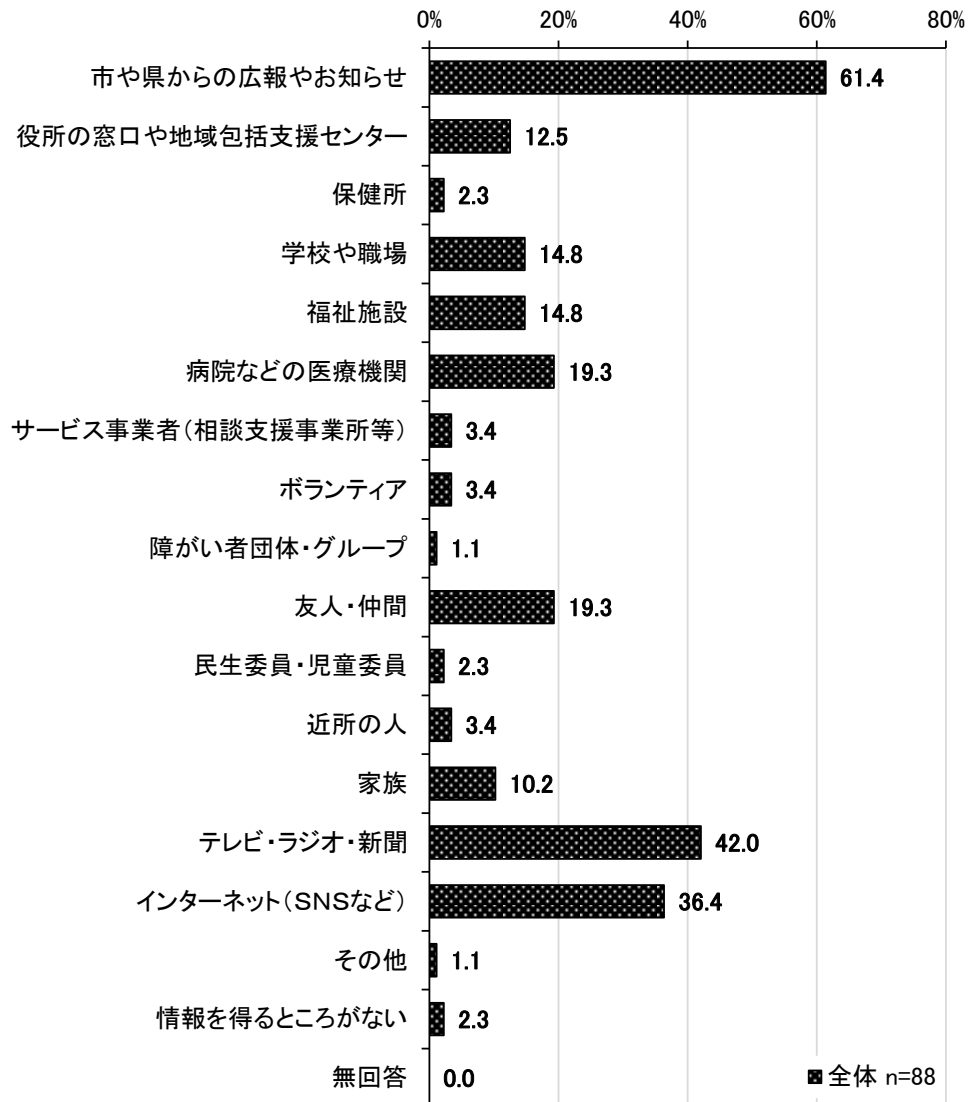
なお、「特にない」は0.0%となっています。



問 12 あなたは、福祉に関する情報をどこから入手していますか。(いくつでも)

福祉の情報の入手先については、「市や県からの広報やお知らせ」が61.4%で最も高く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞」が42.0%、「インターネット（SNSなど）」が36.4%となっています。

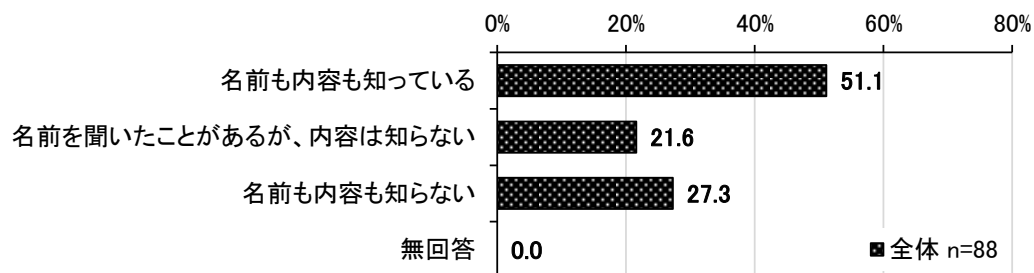
なお、「情報を得るところがない」は2.3%となっています。



4. 障がい者への支援・ボランティアについて

問 13 あなたは、「ヘルプマーク」をご存じですか。（1つのみ）

「ヘルプマーク」の認知度については、「名前も内容も知っている」が51.1%で最も高く、次いで「名前も内容も知らない」が27.3%、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が21.6%となっています。



■ 経年比較

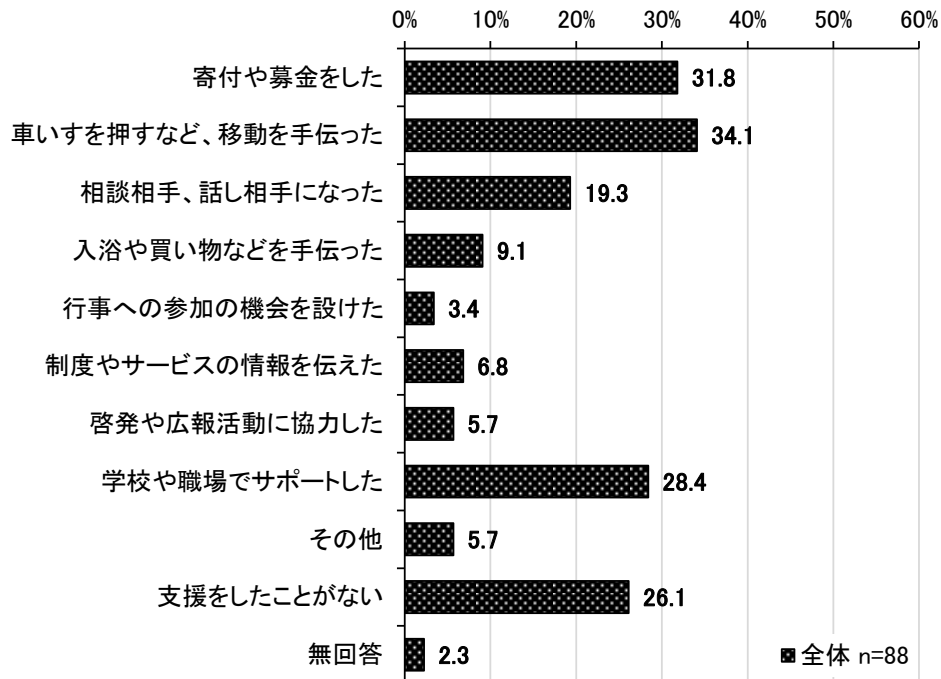
「名前も内容も知っている」は、前回調査と比べて13.6ポイント増加しています。

	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
R7_今回調査 n=88	51.1%	21.6%	27.3%	0.0%
R4_前回調査 n=88	37.5%	27.3%	34.1%	1.1%
R2_前々回調査 n=116	28.4%	30.2%	38.8%	2.6%

問 14 あなたは、今まで障がい者へ、どのような支援を行ったことがありますか。(いくつでも)

障がい者に対して、行ったことがある支援については、「車いすを押すなど、移動を手伝った」が34.1%で最も高く、次いで「寄付や募金をした」が31.8%、「学校や職場でサポートした」が28.4%となっています。

なお、「支援をしたことがない」は26.1%となっています。



■ 経年比較

「寄付や募金をした」は、前回調査と比べて7.9ポイント増加しています。なお、「支援をしたことがない」は10.3ポイント減少しています。

	寄付や募金をした	車いすを押すなど、移動を手伝った	相談相手、話し相手になった	入浴や買い物などを手伝った	行事への参加の機会を設けた	制度やサービスの情報を伝えた	啓発や広報活動に協力した	学校や職場でサポートした	その他	支援をしたことがない
R7_今回調査 n=88	31.8%	34.1%	19.3%	9.1%	3.4%	6.8%	5.7%	28.4%	5.7%	26.1%
R4_前回調査 n=88	23.9%	36.4%	22.7%	17.0%	5.7%				5.7%	36.4%
R2_前々回調査 n=116	23.3%	31.9%	19.0%	6.0%	6.0%				6.0%	41.4%

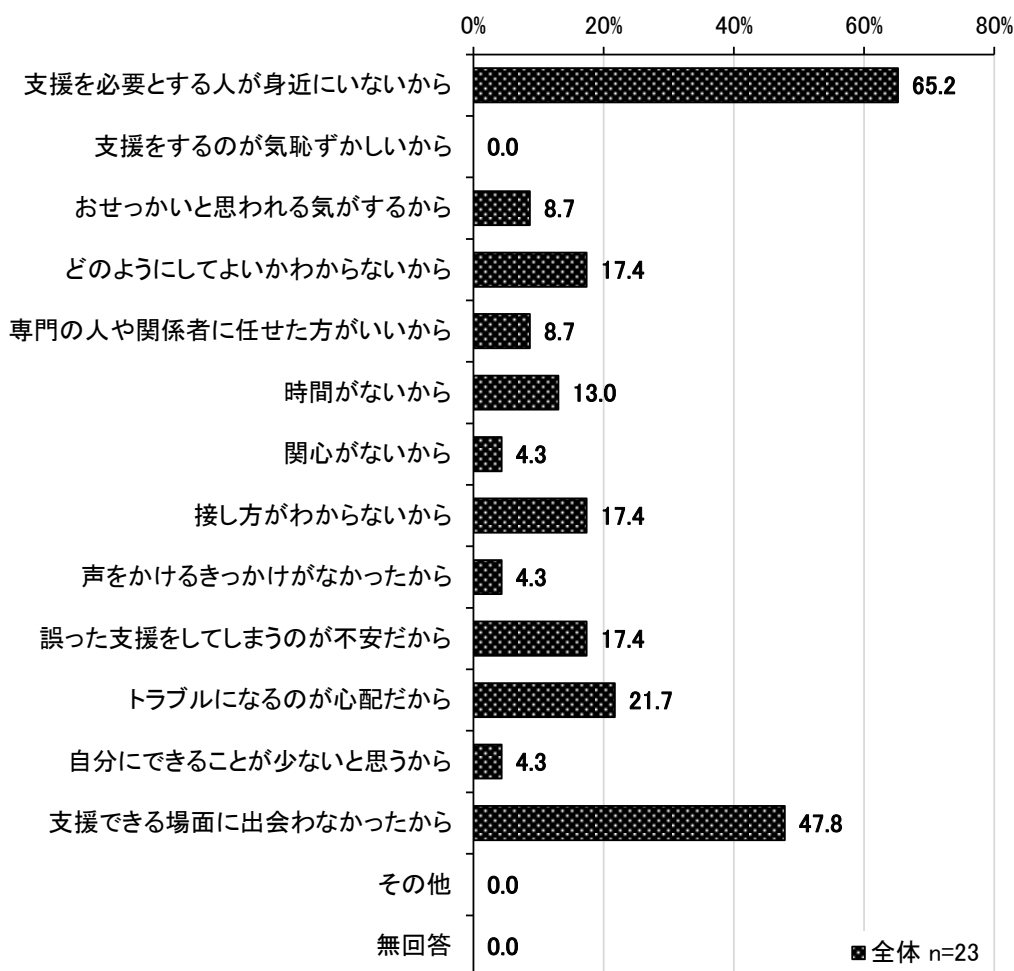
	無回答
R7_今回調査 n=88	2.3%
R4_前回調査 n=88	0.0%
R2_前々回調査 n=116	2.6%

※今回調査より、選択肢として「制度やサービスの情報を伝えた」「啓発や広報活動に協力した」「学校や職場でサポートした」を追加しています。

【問 14 で「支援をしたことがない」と回答した方にお聞きします。】

問 15 特に支援をしたことがない理由はなんですか。(いくつでも)

支援したことがない理由については、「支援を必要とする人が身近にいないから」が 65.2%で最も高く、次いで「支援できる場面に出会わなかったから」が 47.8%、「トラブルになるのが心配だから」が 21.7%となっています。



■ 経年比較

サンプル数が少数のため、参考値として示すにとどめています。

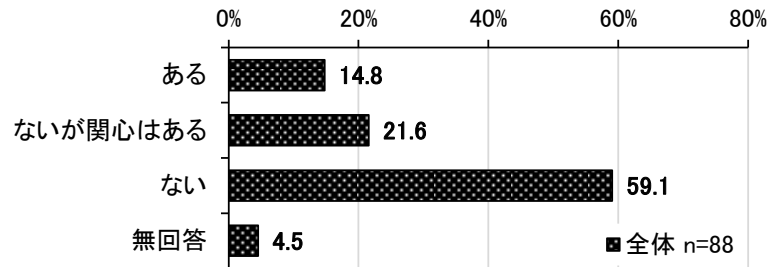
	支援を必要とする人が身近にいないから	支援をするのが気恥ずかしいから	おせっかいと思われる気がするから	どのようにしてよいかわからないから	専門の人や関係者に任せた方がいいから	時間がないから	関心がないから	接し方がわからないから	声をかけるきっかけがなかったから	誤った支援をしてしまうのが不安だから
R7_今回調査 n=23	65.2%	0.0%	8.7%	17.4%	8.7%	13.0%	4.3%	17.4%	4.3%	17.4%
R4_前回調査 n=32	81.3%	0.0%	3.1%	31.3%	18.8%	6.3%	6.3%			
R2_前々回調査 n=48	68.8%	4.2%	6.3%	39.6%	16.7%	4.2%	4.2%			

	トラブルになるのが心配だから	自分にできることが少ないと思うから	支援できる場面に出会わなかったから	その他	無回答
R7_今回調査 n=23	21.7%	4.3%	47.8%	0.0%	0.0%
R4_前回調査 n=32				3.1%	0.0%
R2_前々回調査 n=48				0.0%	0.0%

※今回調査より、選択肢として「接し方がわからないから」「声をかけるきっかけがなかったから」「誤った支援をしてしまうのが不安だから」「トラブルになるのが心配だから」「自分にできることが少ないと思うから」「支援できる場面に出会わなかったから」を追加しています。

問 16 あなたは、障がい者を対象とするボランティア活動をしたことがありますか。（1つのみ）

障がい者を対象とするボランティア活動の経験については、「ない」が 59.1%で最も高く、次いで「ないが関心はある」が 21.6%、「ある」が 14.8%となっています。



■ 経年比較

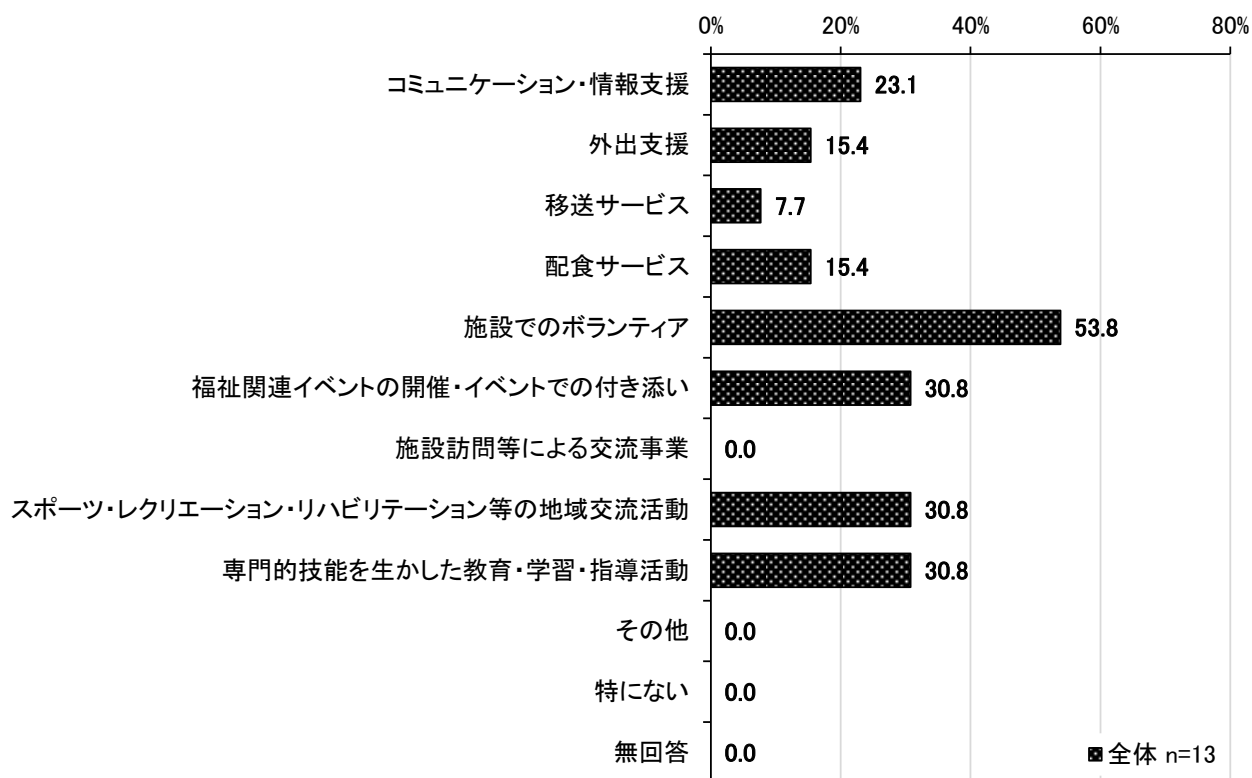
「ある」は、前回調査と比べて 8.0 ポイント増加しています。

	ある	ないが関心 はある	ない	無回答
R7_今回調査 n=88	14.8%	21.6%	59.1%	4.5%
R4_前回調査 n=88	6.8%	19.3%	65.9%	8.0%
R2_前々回調査 n=116	12.1%	16.4%	64.7%	6.9%

【問 16 で「ある」と回答した方にお聞きます。】

問 17 あなたは、障がい者に対してどんな支援や活動をしてみたいですか。（3つまで）

障がい者に対して、どんな支援や活動をしてみたいかについては、「施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等）」が 53.8%で最も高く、次いで「福祉関連イベントの開催・イベントでの付き添い」「スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動」「専門的スキルを生かした教育・学習・指導活動」がともに 30.8%となっています。



■ 経年比較

サンプル数が少数のため、参考値として示すにとどめています。

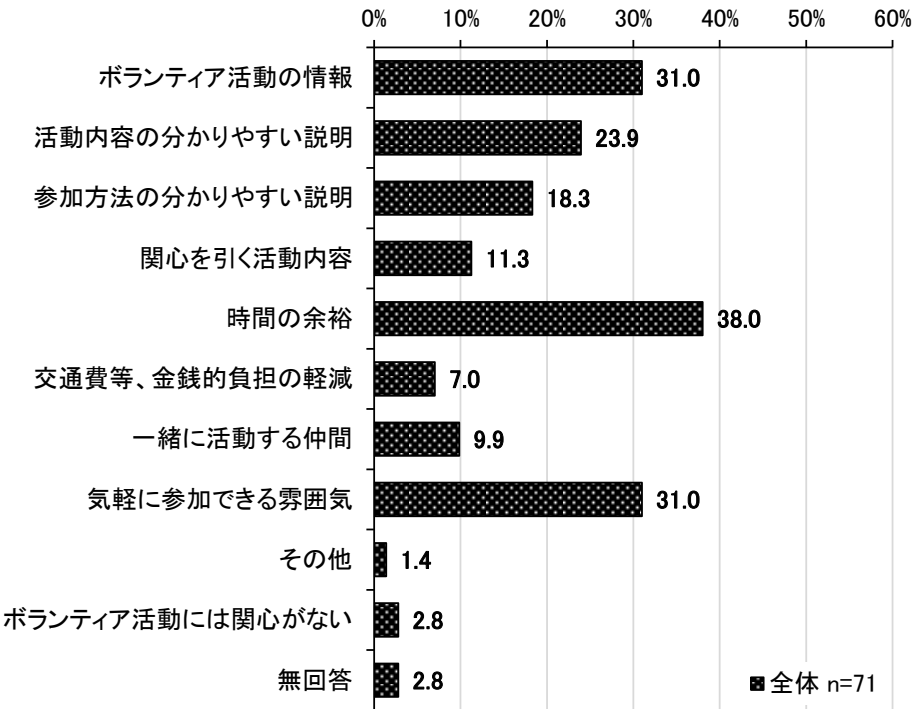
	コミュニケーション・情報支援	外出支援	移送サービス	配食サービス	施設でのボランティア	福祉関連イベントの開催・イベントでの付き添い	施設訪問等による交流事業	スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動	専門的スキルを生かした教育・学習・指導活動	その他
R7_今回調査 n=13	23.1%	15.4%	7.7%	15.4%	53.8%	30.8%	0.0%	30.8%	30.8%	0.0%
R4_前回調査 n=6	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	16.7%	16.7%	0.0%
R2_前々回調査 n=14	28.6%	14.3%	7.1%	7.1%	42.9%	21.4%	14.3%	21.4%	14.3%	14.3%

	特にない	無回答
R7_今回調査 n=13	0.0%	0.0%
R4_前回調査 n=6	0.0%	0.0%
R2_前々回調査 n=14	7.1%	0.0%

【問 16 で「ないが関心はある」「ない」と回答した方にお聞きします。】

問 18 活動に参加するためには何が必要ですか。（2つまで）

活動に参加するために必要なことについては、「時間の余裕」が 38.0%で最も高く、次いで「ボランティア活動の情報」「気軽に参加できる雰囲気」がともに 31.0%、「活動内容の分かりやすい説明」が 23.9%となっています。



■ 経年比較

前回調査と比べて、「ボランティア活動の情報」が 7.0 ポイント、「時間の余裕」が 7.3 ポイント増加しています。

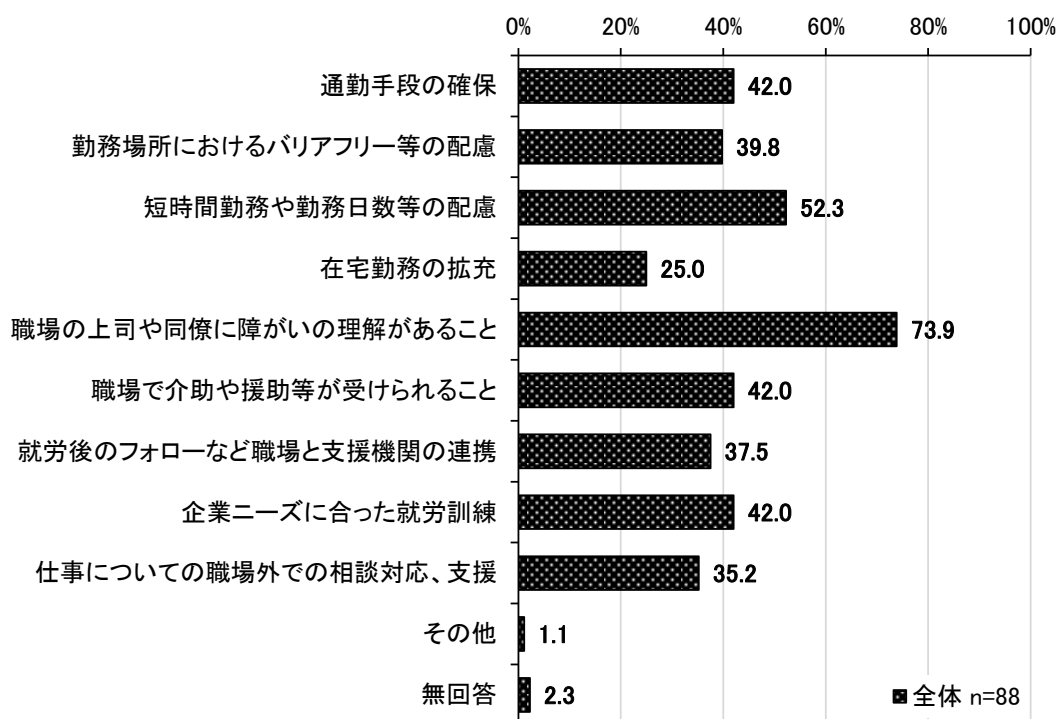
	ボランティア活動の情報	活動内容の分かりやすい説明	参加方法の分かりやすい説明	関心を引く活動内容	時間の余裕	交通費等、金銭的負担の軽減	一緒に活動する仲間	気軽に参加できる雰囲気	その他	ボランティア活動には関心がない
R7_今回調査 n=71	31.0%	23.9%	18.3%	11.3%	38.0%	7.0%	9.9%	31.0%	1.4%	2.8%
R4_前回調査 n=75	24.0%	30.7%	14.7%	8.0%	30.7%	6.7%	8.0%	38.7%	5.3%	6.7%
R2_前々回調査 n=94	27.7%	29.8%	23.4%	5.3%	31.9%	6.4%	11.7%	30.9%	3.2%	4.3%

	無回答
R7_今回調査 n=71	2.8%
R4_前回調査 n=75	4.0%
R2_前々回調査 n=94	1.1%

5. 障がい者の就労・教育について

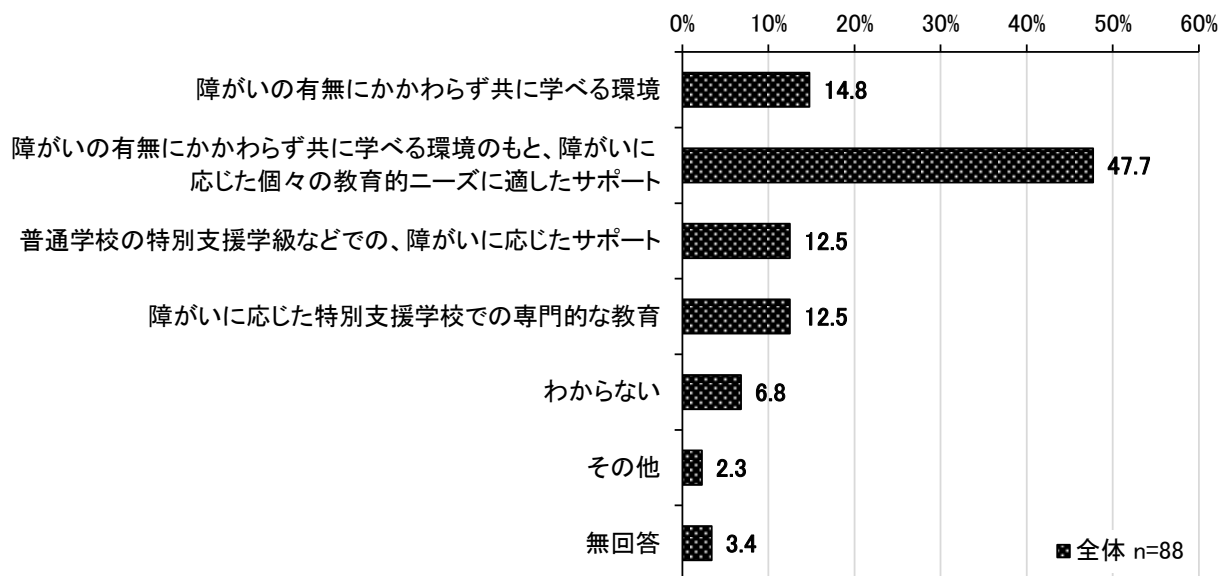
問 19 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。(いくつでも)

障がい者の就労支援として必要だと思うことについては、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が73.9%で最も高く、次いで「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が52.3%、「通勤手段の確保」「職場で介助や援助等が受けられること」「企業ニーズに合った就労訓練」がともに42.0%となっています。



問 20 障がいのある子どもの就学環境は、次のどれが望ましいと思いますか。（1つのみ）

障がいのある子どもの就学環境として望ましいと思うことについては、「障がいの有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障がいに応じた個々の教育的ニーズに適したサポート」が47.7%で最も高く、次いで「障がいの有無にかかわらず共に学べる環境」が14.8%、「普通学校の特別支援学級などでの、障がいに応じたサポート」「障がいに応じた特別支援学校での専門的な教育」がともに12.5%となっています。



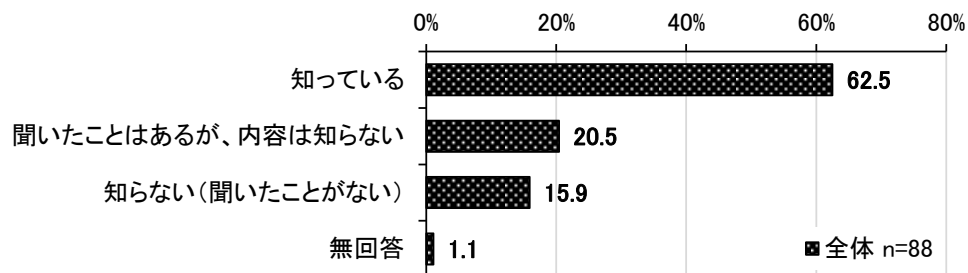
■ 経年比較

前回調査と比べて、「障がいの有無にかかわらず共に学べる環境」が9.1ポイント、「障がいの有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障がいに応じた個々の教育的ニーズに適したサポート」が13.6ポイント増加しています。

	障がいの有無にかかわらず共に学べる環境	障がいの有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障がいに応じた個々の教育的ニーズに適したサポート	普通学校の特別支援学級などでの、障がいに応じたサポート	障がいに応じた特別支援学校での専門的な教育	わからない	その他	無回答
R7_今回調査 n=88	14.8%	47.7%	12.5%	12.5%	6.8%	2.3%	3.4%
R4_前回調査 n=88	5.7%	34.1%	21.6%	21.6%	5.7%	3.4%	8.0%
R2_前々回調査 n=116	7.8%	46.6%	14.7%	19.0%	6.9%	2.6%	2.6%

問 21 「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、国、地方公共団体、民間企業は、一定の割合以上、身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者を雇用しなければならないとされていますが、あなたはご存知ですか。（1つのみ）

「障害者の雇用の促進等に関する法律」の認知度については、「知っている」が 62.5%で最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が 20.5%、「知らない（聞いたことがない）」が 15.9%となっています。



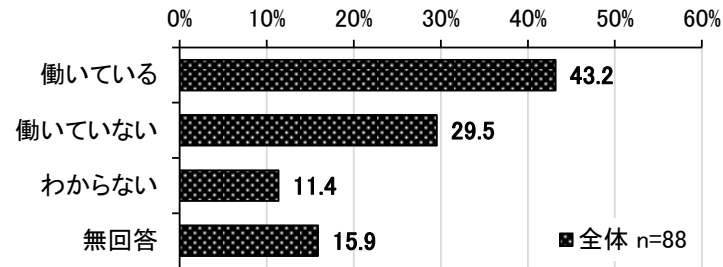
■ 経年比較

「知らない（聞いたことがない）」は、前回調査と比べて 7.9 ポイント増加しています。

	知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない(聞いたことがない)	無回答
R7_今回調査 n=88	62.5%	20.5%	15.9%	1.1%
R4_前回調査 n=88	60.2%	26.1%	8.0%	5.7%
R2_前々回調査 n=116	64.7%	20.7%	12.1%	2.6%

問 22 あなたのお勤めの職場には、障がい者の方が働いていますか。（1つのみ）

職場に障がい者が働いているかについては、「働いている」が43.2%で最も高く、次いで「働いていない」が29.5%、「わからない」が11.4%となっています。



■ 経年比較

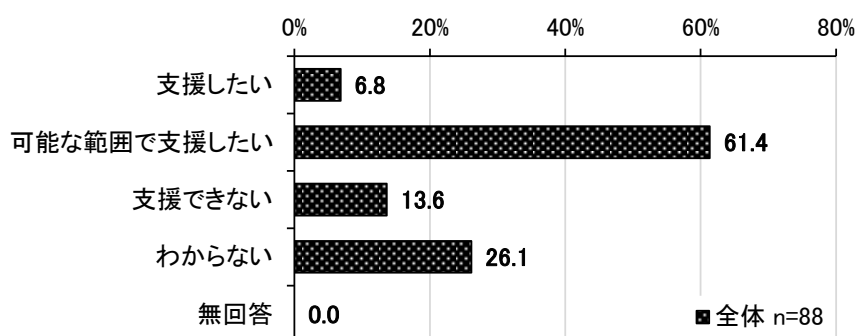
「働いている」は、前回調査と比べて14.8ポイント増加しています。

	働いている	働いていない	わからない	無回答
R7_今回調査 n=88	43.2%	29.5%	11.4%	15.9%
R4_前回調査 n=88	28.4%	40.9%	15.9%	14.8%

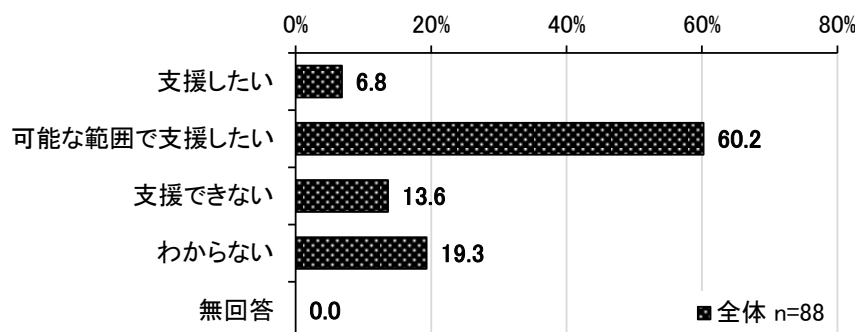
6. 災害時の対応について

問 23 市では、災害などの発生時に自力で避難することが困難な人を支援する「災害時避難行動要支援者避難支援プラン」を設けています。このプランは、登録を希望する要支援者に対して、住民自治組織、自主防災組織、民生委員児童委員、近所の方など地域が連携して支援をしていく制度です。あなたは災害発生時に要支援者の避難を支援できますか。（3つまで）

災害発生時の要支援者への避難支援（複数回答で集計）については、「可能な範囲で支援したい」が61.4%で最も高く、次いで「わからない」が26.1%、「支援できない」が13.6%となっています。



災害発生時の要支援者への避難支援（単一回答で集計）については、「可能な範囲で支援したい」が60.2%で最も高く、次いで「わからない」が19.3%、「支援できない」が13.6%となっています。



※前回調査との回答制限と整合を図るため、複数回答があった7件については、以下の処理を行っています。

「支援したい」と「可能な範囲で支援したい」→「支援したい」で集計 1件

「可能な範囲で支援したい」と「わからない」→「可能な範囲で支援したい」で集計 4件

「支援できない」と「わからない」→「支援できない」で集計 2件

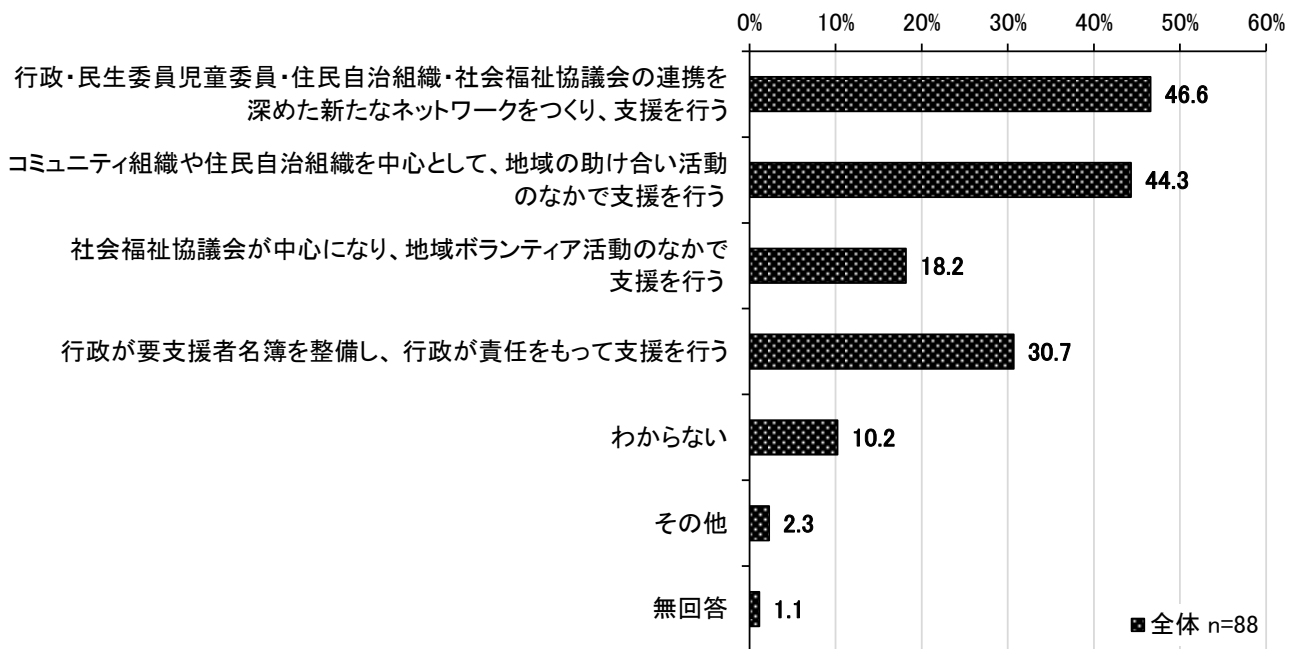
■ 経年比較 ※単一回答で集計した結果での比較

「支援できない」は、前回調査と比べて3.4ポイント増加しています。

	支援したい	可能な範囲で支援したい	支援できない	わからない	無回答
R7_今回調査 n=88	6.8%	60.2%	13.6%	19.3%	0.0%
R4_前回調査 n=88	6.8%	61.4%	10.2%	17.0%	4.5%
R2_前々回調査 n=116	6.0%	60.3%	8.6%	23.3%	1.7%

問 24 災害時や緊急時において、障がい者に対して避難支援や安否確認などの支援を行うためにはどのような体制をつくるのがよいと思いますか。（2つまで）

災害時や緊急時の障がい者への支援として必要な体制については、「行政・民生委員児童委員・住民自治組織・社会福祉協議会の連携を深めた新たなネットワークをつくり、支援を行う」が 46.6%で最も高く、次いで「コミュニティ組織や住民自治組織を中心として、地域の助け合い活動のなかで支援を行う」が 44.3%、「行政が要支援者名簿を整備し、行政が責任をもって支援を行う」が 30.7%となっています。



■ 経年比較

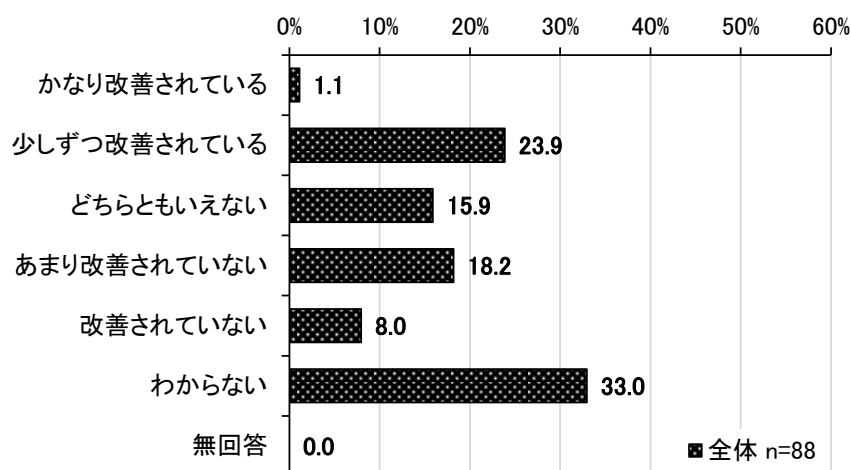
前回調査と比べて、「コミュニティ組織や住民自治組織を中心として、地域の助け合い活動のなかで支援を行う」が 5.7 ポイント、「社会福祉協議会が中心になり、地域ボランティア活動のなかで支援を行う」が 10.2 ポイント増加しています。

	行政・民生委員児童委員・住民自治組織・社会福祉協議会の連携を深めた新たなネットワークをつくり、支援を行う	コミュニティ組織や住民自治組織を中心として、地域の助け合い活動のなかで支援を行う	社会福祉協議会が中心になり、地域ボランティア活動のなかで支援を行う	行政が要支援者名簿を整備し、行政が責任をもって支援を行う	わからない	その他	無回答
R7_今回調査 n=88	46.6%	44.3%	18.2%	30.7%	10.2%	2.3%	1.1%
R4_前回調査 n=88	46.6%	38.6%	8.0%	34.1%	14.8%	1.1%	3.4%
R2_前々回調査 n=116	56.9%	47.4%	12.1%	28.4%	6.9%	2.6%	2.6%

7. 福祉のまちづくり・龍ヶ崎市の障がい者施策について

**問 25 以前と比較して、まちの環境は、障がい者が外出しやすく改善されていると思いますか。
(1つのみ)**

障がい者が外出しやすい環境への改善状況については、「かなり改善されている」と「少しずつ改善されている」の合計値《改善されている》が25.0%、「あまり改善されていない」と「改善されていない」の合計値《改善されていない》が26.2%と、《改善されていない》が1.2ポイント上回っています。



■ 経年比較

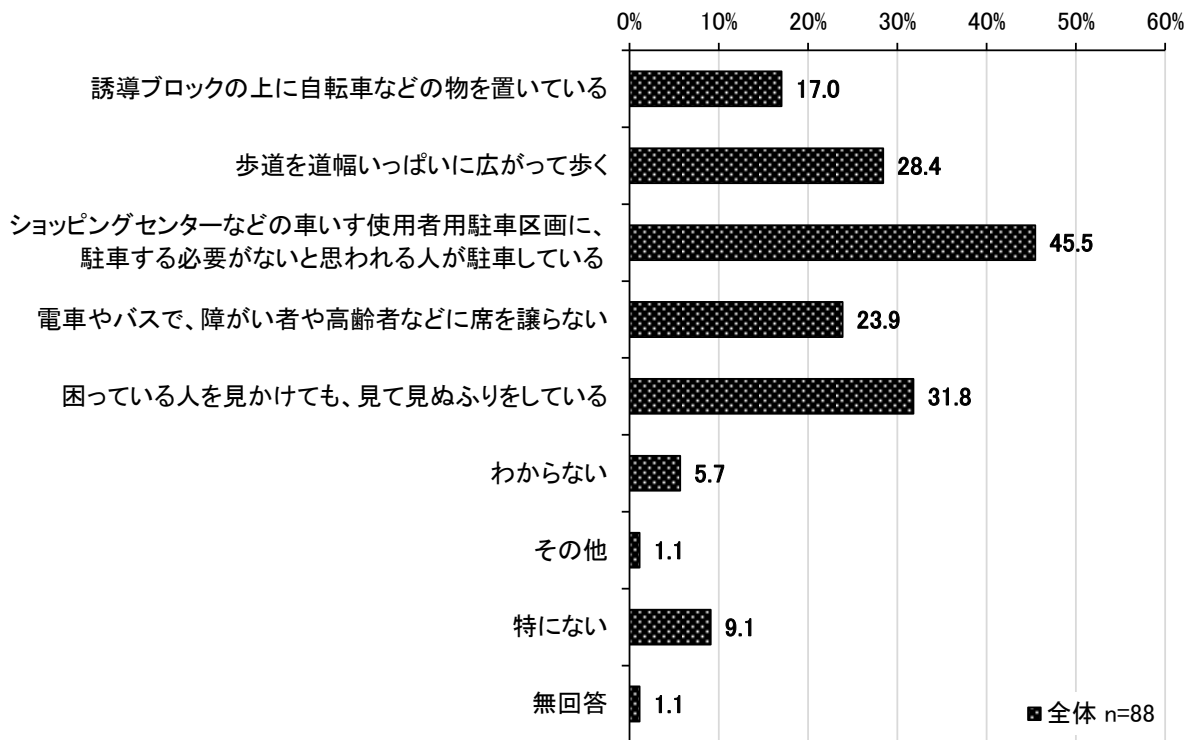
《改善されていない》は、前回調査と比べて5.8ポイント増加しています。

	かなり改善 されている	少しずつ改 善されてい る	どちらともい えない	あまり改善さ れていない	改善されて いない	わからない	無回答
R7_今回調査 n=88	1.1%	23.9%	15.9%	18.2%	8.0%	33.0%	0.0%
R4_前回調査 n=88	2.3%	28.4%	17.0%	10.2%	10.2%	28.4%	3.4%
R2_前々回調査 n=116	1.7%	32.8%	13.8%	6.9%	6.0%	32.8%	6.0%

問 26 まちで見かける人の行動で、特に問題があると思うことは何ですか。（2つまで）

まちで見かける人の問題があると思う行動については、「ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している」が 45.5%で最も高く、次いで「困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている」が 31.8%、「歩道を道幅いっぱいに広がって歩く」が 28.4%となっています。

なお、「特にない」は 9.1%となっています。



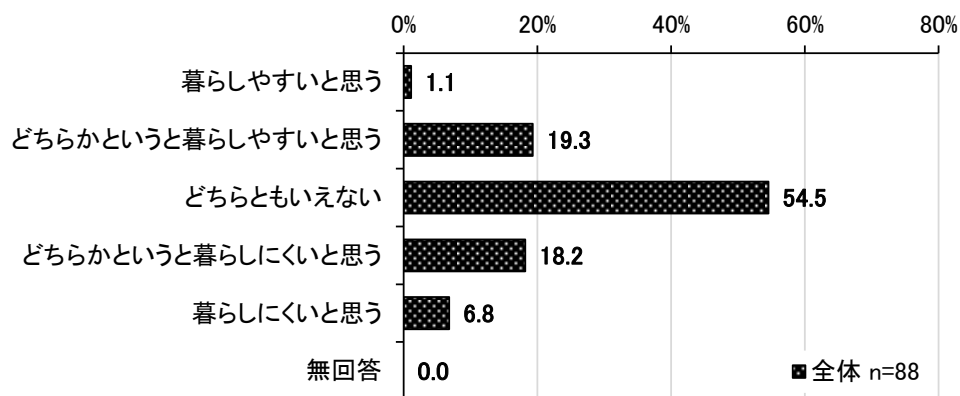
■ 経年比較

「歩道を道幅いっぱいに広がって歩く」は、前回調査と比べて 9.1 ポイント増加しています。

	誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている	歩道を道幅いっぱいに広がって歩く	ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している	電車やバスで、障がい者や高齢者などに席を譲らない	困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている	わからない	その他	特にない	無回答
R7_今回調査 n=88	17.0%	28.4%	45.5%	23.9%	31.8%	5.7%	1.1%	9.1%	1.1%
R4_前回調査 n=88	19.3%	19.3%	48.9%	22.7%	31.8%	10.2%	3.4%	0.0%	6.8%
R2_前々回調査 n=116	21.6%	19.0%	57.8%	20.7%	29.3%	5.2%	1.7%	4.3%	2.6%

問 27 あなたは、龍ヶ崎市は障がい者にとって暮らしやすいまちだと思いますか。（1つのみ）

龍ヶ崎市は障がい者にとって暮らしやすいまちだと思うかについては、「暮らしやすいと思う」と「どちらかという暮らしやすいと思う」の合計値《暮らしやすい》が20.4%、「どちらかという暮らしにくいと思う」と「暮らしにくいと思う」の合計値《暮らしにくい》が25.0%と、《暮らしにくい》が4.6ポイント上回っています。



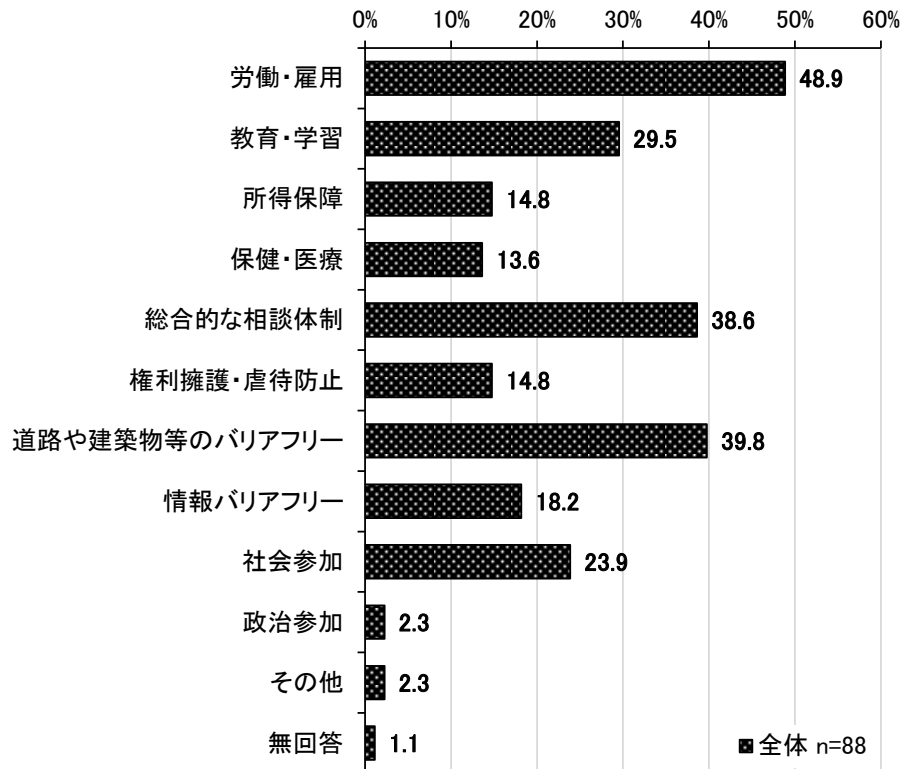
■ 経年比較

《暮らしやすい》は、前回調査と比べて5.6ポイント増加しています。

	暮らしやすいと思う	どちらかという暮らしやすいと思う	どちらともいえない	どちらかという暮らしにくいと思う	暮らしにくいと思う	無回答
R7_今回調査 n=88	1.1%	19.3%	54.5%	18.2%	6.8%	0.0%
R4_前回調査 n=88	2.3%	12.5%	51.1%	17.0%	10.2%	6.8%
R2_前々回調査 n=116	0.9%	19.0%	58.6%	12.1%	6.0%	3.4%

**問 28 今後の障がい者施策において、強化することが望ましい分野は、次のうちどれだと思いますか。
(3つまで)**

龍ヶ崎市の障がい者施策において強化することが望ましい分野については、「労働・雇用」が48.9%で最も高く、次いで「道路や建築物等のバリアフリー」が39.8%、「総合的な相談体制」が38.6%となっています。



■ 経年比較

前回調査と比べて、「権利擁護・虐待防止」が3.4ポイント、「情報バリアフリー」が5.7ポイント増加しています。

	労働・雇用	教育・学習	所得保障	保健・医療	総合的な相談体制	権利擁護・虐待防止	道路や建築物等のバリアフリー	情報バリアフリー	社会参加	政治参加
R7_今回調査 n=88	48.9%	29.5%	14.8%	13.6%	38.6%	14.8%	39.8%	18.2%	23.9%	2.3%
R4_前回調査 n=88	59.1%	27.3%	14.8%	22.7%	39.8%	11.4%	39.8%	12.5%	21.6%	2.3%
R2_前々回調査 n=116	58.6%	31.0%	31.0%	18.1%	29.3%	18.1%	37.1%	13.8%	19.0%	0.9%

	その他	無回答
R7_今回調査 n=88	2.3%	1.1%
R4_前回調査 n=88	2.3%	3.4%
R2_前々回調査 n=116	2.6%	3.4%

問 29 障がい者施策全般について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

自由に記述していただく設問では、14 件の意見が寄せられました。

- ・就労支援、精神障がい者への支援がもっと分かりやすくなると良いなと思います。例えば、アルコールや薬物などの依存症に対する講話や、その家族への支援が手厚くなると良いのかなと思います。あとは、幼児教育からの発達（グレーゾーン）に対しての支援がしっかり分かりやすくなると、子育て家庭も安心できる気がします。早期の発見・生きる術の獲得への支援が手厚くなると良い。そうしたら大人になった時に悩んだり、うつ併発も少なくなるのかな、なんて思います。精神障がいばかりですみません。より良くなりますように。(女性／20～29 歳)
- ・障がい者施設ではなく、そこで働く一人一人の収入が上がるようにしてほしい。(男性／40～49 歳)
- ・障がいの程度によって支援を変えてもいいのかと思う。軽度の障がいでも療育手帳を持っていて、自分でバス、電車に乗れてホテルも予約できて、旅行できる、そんな人に電車やバスの半額は必要なのか。重度ならもちろん手厚い手当ては必要と思いますが、税金も無限ではないので、ある程度の線引きはあっても良いのかと思う。(女性／40～49 歳)
- ・障がいがあるので、雇用する側は「できないのでは」等で不安を感じるので、障がいを持って働く人のサポート体制をしっかりして、雇用側との仲を取り持つことが必要だと思います。また、小さい頃から学校で、福祉活動が重要であるという教育をしていくことが大切だと思います。人と人の助け合いが必要だという教育が最重要です。(男性／50～59 歳)
- ・なかなか分からないことが多い。市役所で相談するまでは相談しにくいと感じていました。やさしい方だと助かります。不安がいっぱいなため。(女性／50～59 歳)
- ・視覚障がい者になり、運転免許を返納し、自家用車のない生活に不便を感じます。地域組織のボランティア送迎サービスがあったら良いかと思います。(女性／50～59 歳)
- ・点字ブロックが破損している箇所（市役所近く）がいつまでたっても修理されないのをみて、市の職員がなぜ気づかないのか不思議に思う。近くの場合すら見て見ぬふりなのか。そのような状況で社会福祉がよくなるのか、市民より先に市の職員で意見交換をして改善していったほしい。障がい者を助けるための器具、用具は手続きさえすれば手に入れることができるが、道や公共施設の補修は市の力がないと改修できない。障がい者、高齢者福祉の充実が今後の龍ヶ崎の発展につながると考える。他県の市町村はすでに充実しているところもあり、住み良い街に行政の力、実行力が高いと広まっていることを知ってほしいと思います。よろしくお願いします。(女性／50～59 歳)
- ・もっと相談体制をつくり、気楽に相談できる体制をつくり、孤立させないようにする。
(男性／60～64 歳)
- ・身体障がい者と知的障がい者とでは、対応の仕方が全く異なると思うが、そのあたりの事を理解した質問になっていないと思う。(男性／65 歳以上)
- ・施策全般という話ではありませんが、運転免許取得費及び自動車改造費の助成についてですが、どちらも身体障害者手帳の等級の基準がありますが、基準外であっても助成をするべきだと思われる方々が居るのではないかと思います。改造された自動車が無ければ教習を受けられない方、自動車をどうしても改造しなければならない方がいます。助成の目的に自立した生活および就労等の社会参加ができるようになっている制度ならば、こういう方々にも手を差し伸べていただければと思っています。(女性／65 歳以上)

- ・障がいがある、なしに市全体、地域全体で怖がらずに支援していけることが大切。ただ、知的障がい者はかかわり方がむずかしく、自分でやれる、だからさわらないで。または、一回その方に接してしまうと、関係性に問題が起きてしまうこともあり、その人の性格や、どこまでIQがあるのか、とてもむずかしい問題があると思います。急にあばれる、大声を出す、座りこむなど、それが一般の方にわかれば支援策は早く出来るのではないのでしょうか。ヘルプマークには記されないため、皆避けてしまう。市全体で障がい者と遊ぼう、ふれ合って一緒に楽しもうなど、スムーズに参加できる行事を多くしてもらいたい。アリーナがあるでしょう、かしこまらず、ふれ合いができることを考えて。その時には参加した全員にあてはまる、イベント保険を使用してください。加入を忘れずに。(女性／65 歳以上)
- ・森林公園内に障がい者の方の店があったと思うのですが、リニューアルされた後、どうなったのか気になっています。そのようなお店とか、障がい者の方の勤務状況とかを広報紙(りゅうほ一)とかに毎掲載せて、広く市民に分かるようにする必要があります。(女性／65 歳以上)
- ・地域の偏見をなくし、差別を感じずに生活できるようになることが社会の理想と考えます。困っている人、うまくできない人を助けることがあたりまえと考え、いつでも行動できるようにすることが、龍ヶ崎市だけでなく国全体として必要だと思います。足を引っ張られているのではなく、能力ある人がサポートして全体がうまく回っていくことを望みます。個人の利益だけでなく、たくさん税金を投入して改善することが住みやすいまちづくりになるのではないのでしょうか。
(女性／65 歳以上)
- ・いわゆる「健常者」「障がい者」も社会を構成する属性の一員・一部なので、互いの視点、思考を理解した上で、する事に努めていくことを前提に、地域社会が動いていけば良いと思います。国家、都道府県、市町村、企業、コミュニティ、家族などの過度な「障がい者」への寄り添いは、障がいを持たぬ者への逆差別になることもありますし、何より障がいを持つ方に対して失礼になることがあると考えています。(無回答／無回答)

第Ⅳ部 事業所アンケート【調査結果】

1. 事業所の概要について

問1 貴事業所について、ご記入ください。

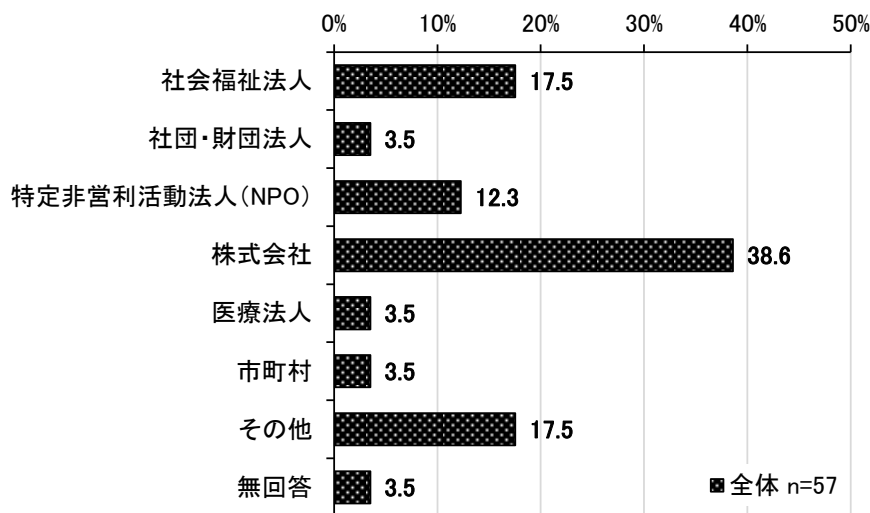
※事業所の概要については割愛します。

問2 令和7年12月1日現在の貴事業所についてご記入ください。

※①施設名、②設立年月日については割愛します。

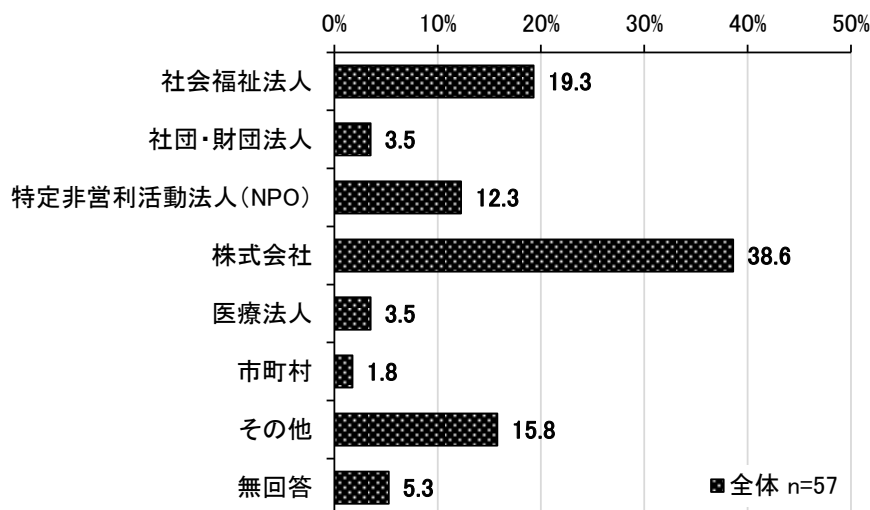
③ 設立主体

設立主体については、「株式会社」が38.6%で最も高く、次いで「社会福祉法人」が17.5%、「特定非営利活動法人（NPO）」が12.3%となっています。



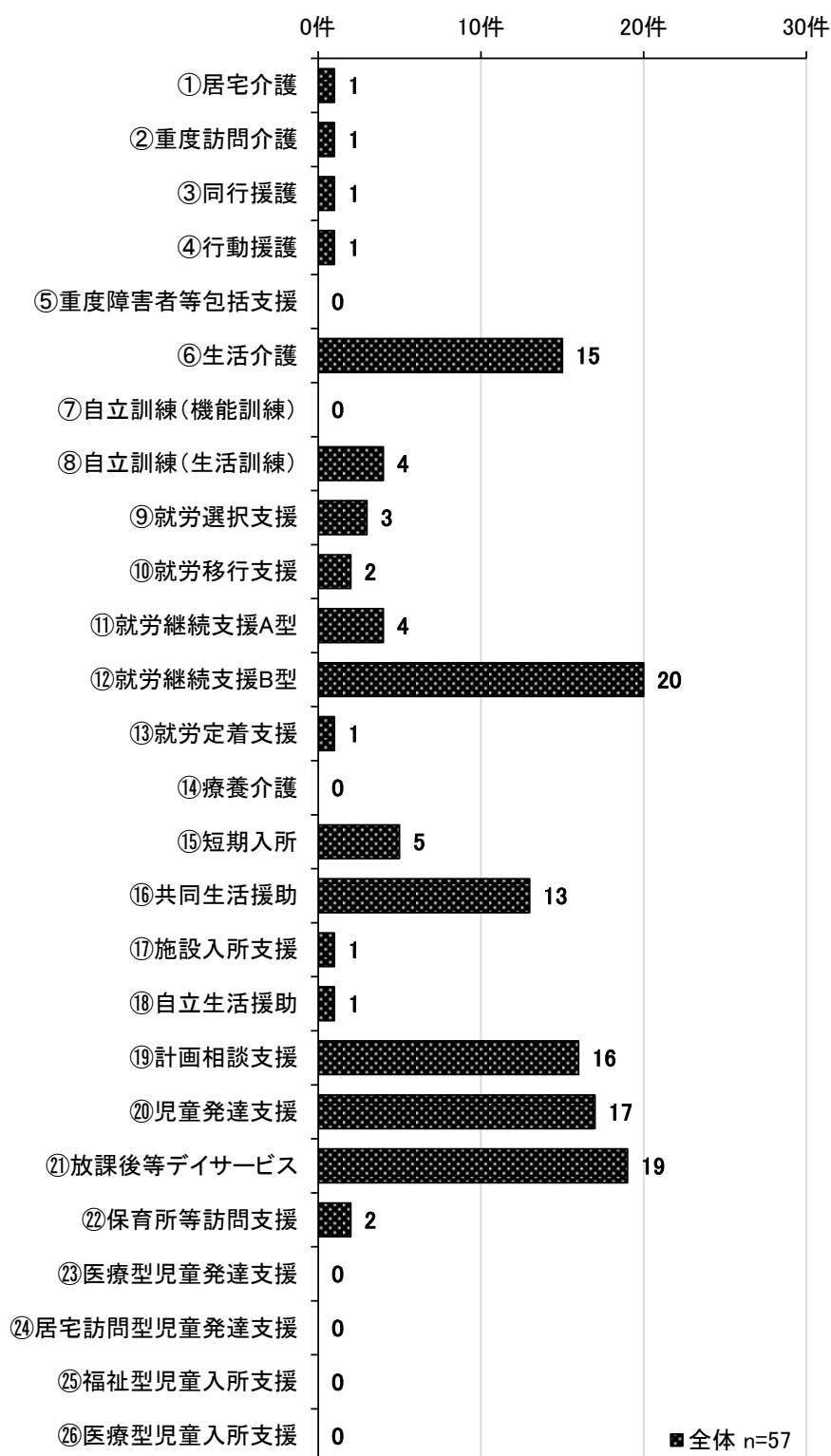
④ 運営主体

運営主体については、「株式会社」が38.6%で最も高く、次いで「社会福祉法人」が19.3%、「特定非営利活動法人（NPO）」が12.3%となっています。



問3 現在実施しているサービスの種類に☑をつけ、定員数・利用者数をご記入ください。

現在実施しているサービスの種類については、「⑫就労継続支援B型」が20件で最も多く、次いで「⑳放課後等デイサービス」が19件、「㉑児童発達支援」が17件、「㉑計画相談支援」が16件、「⑥生活介護」が15件となっています。



■現在実施しているサービスの定員数・利用者数・龍ヶ崎市の利用者数

①居宅介護（サービスを実施している施設数：1件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	—	10 人	7 人

②重度訪問介護（サービスを実施している施設数：1件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	—	1 人	1 人

③同行援護（サービスを実施している施設数：1件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	—	4 人	4 人

④行動援護（サービスを実施している施設数：1件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	—	1 人	—

⑤重度障害者等包括支援

本サービスの提供事業所はありませんでした。

⑥生活介護（サービスを実施している施設数：15件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	40 人	38 人	5 人
2	20 人	20 人	7 人
3	19 人	31 人	7 人
4	5 人	76 人	—
5	58 人	66 人	15 人
6	20 人	6 人	1 人
7	20 人	12 人	1 人
8	30 人	39 人	2 人
9	10 人	8 人	4 人
10	25 人	34 人	10 人
11	40 人	53 人	23 人
12	20 人	10 人	2 人
13	20 人	11 人	11 人
14	20 人	24 人	6 人
15	10 人	5 人	4 人
合計	357 人	433 人	98 人

⑦自立訓練（機能訓練）

本サービスの提供事業所はありませんでした。

⑧自立訓練（生活訓練）（サービスを実施している施設数：4件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	—	11 人	6 人
2	6 人	4 人	—
3	8 人	8 人	2 人
4	20 人	11 人	1 人
合計	34 人	34 人	9 人

⑨就労選択支援（サービスを実施している施設数：3件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	10 人	—	—
2	15 人	3 人	2 人
3	10 人	1 人	—
合計	35 人	4 人	2 人

⑩就労移行支援（サービスを実施している施設数：2件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	14 人	9 人	—
2	6 人	6 人	—
合計	20 人	15 人	—

⑪就労継続支援A型（サービスを実施している施設数：4件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	20 人	19 人	3 人
2	20 人	9 人	7 人
3	20 人	44 人	28 人
4	20 人	32 人	3 人
合計	80 人	104 人	41 人

⑫就労継続支援B型（サービスを実施している施設数：20件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	20人	20人	1人
2	20人	2人	1人
3	20人	11人	—
4	10人	10人	—
5	30人	60人	—
6	20人	27人	1人
7	10人	10人	5人
8	20人	12人	6人
9	20人	35人	14人
10	10人	10人	—
11	10人	9人	3人
12	16人	19人	4人
13	20人	25人	1人
14	20人	13人	2人
15	20人	35人	3人
16	20人	15人	—
17	20人	36人	3人
18	20人	27人	—
19	25人	16人	10人
20	10人	9人	9人
合計	361人	401人	63人

⑬就労定着支援（サービスを実施している施設数：1件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	40人	20人	2人

⑭療養介護

本サービスの提供事業所はありませんでした。

⑮短期入所（サービスを実施している施設数：5件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	2人	—	—
2	3人	14人	2人
3	5人	16人	6人
4	4人	—	—
5	6人	14人	3人
合計	20人	44人	11人

⑩ 共同生活援助（サービスを実施している施設数：13 件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	7 人	7 人	—
2	18 人	18 人	—
3	19 人	13 人	—
4	21 人	21 人	1 人
5	14 人	14 人	2 人
6	11 人	8 人	—
7	6 人	5 人	—
8	7 人	5 人	1 人
9	20 人	15 人	11 人
10	14 人	14 人	2 人
11	20 人	20 人	9 人
12	7 人	6 人	3 人
13	7 人	7 人	1 人
合計	171 人	153 人	30 人

⑪ 施設入所支援（サービスを実施している施設数：1 件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	40 人	38 人	5 人

⑫ 自立生活援助（サービスを実施している施設数：1 件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	—	—	—

①9計画相談支援（サービスを実施している施設数：16件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	—	83 人	2 人
2	—	132 人	87 人
3	—	120 人	—
4	—	33 人	3 人
5	—	—	—
6	—	85 人	2 人
7	—	265 人	—
8	—	134 人	16 人
9	—	10 人	6 人
10	—	—	1 人
11	—	72 人	69 人
12	117 人	70 人	15 人
13	—	125 人	2 人
14	—	83 人	7 人
15	—	95 人	3 人
16	35 人	100 人	1 人
合計	152 人	1,407 人	214 人

②0児童発達支援（サービスを実施している施設数：17件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	—	—	—
2	10 人	12 人	1 人
3	—	—	1 人
4	10 人	—	—
5	20 人	200 人	—
6	—	—	—
7	10 人	3 人	—
8	10 人	24 人	—
9	10 人	11 人	9 人
10	10 人	—	—
11	5 人	7 人	1 人
12	117 人	10 人	5 人
13	10 人	1 人	1 人
14	20 人	104 人	104 人
15	10 人	—	—
16	10 人	7 人	—
17	10 人	3 人	3 人
合計	262 人	382 人	125 人

㉑放課後等デイサービス（サービスを実施している施設数：19件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	10人	13人	6人
2	10人	20人	18人
3	—	—	2人
4	10人	30人	27人
5	10人	15人	3人
6	10人	183人	—
7	10人	260人	10人
8	10人	30人	3人
9	10人	26人	—
10	10人	34人	2人
11	5人	12人	4人
12	10人	4人	—
13	10人	16人	13人
14	20人	120人	120人
15	10人	28人	16人
16	10人	29人	2人
17	10人	27人	17人
18	20人	35人	20人
19	10人	21人	—
合計	195人	903人	263人

㉒保育所等訪問支援（サービスを実施している施設数：2件）

No.	定員数	利用者数	龍ヶ崎市の利用者数
1	20人	5人	5人
2	—	—	—
合計	20人	5人	5人

㉓医療型児童発達支援

本サービスの提供事業所はありませんでした。

㉔居宅訪問型児童発達支援

本サービスの提供事業所はありませんでした。

㉕福祉型児童入所支援

本サービスの提供事業所はありませんでした。

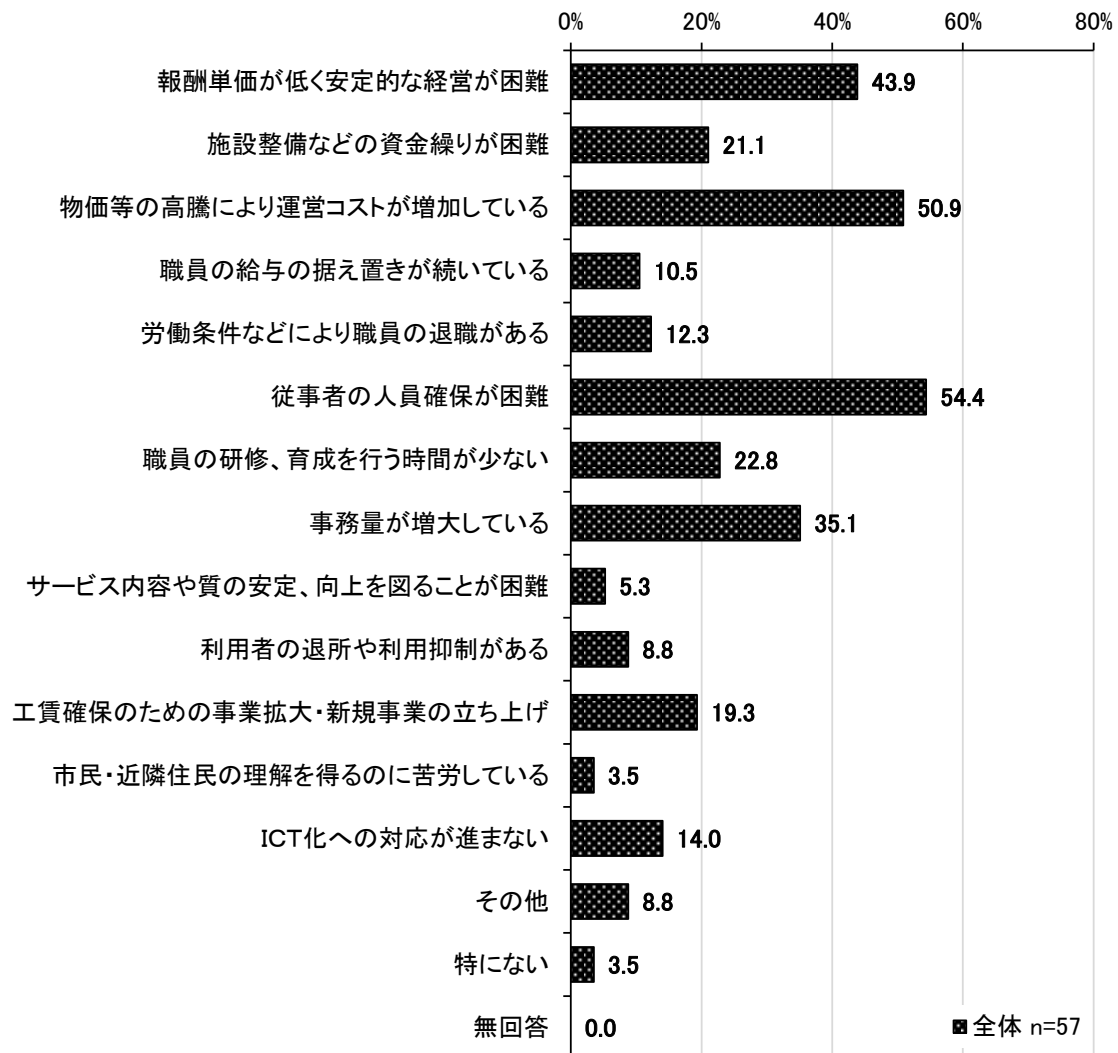
㉖医療型児童入所支援

本サービスの提供事業所はありませんでした。

2. 事業所の経営課題について

問4 貴施設・事業所の経営上の課題は何ですか。(いくつでも)

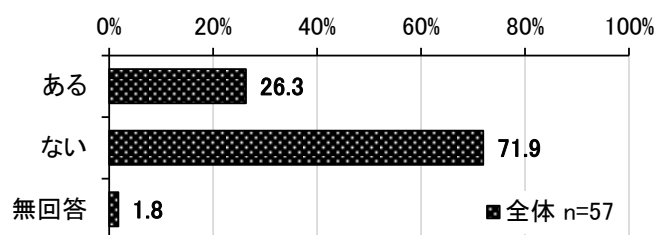
施設・事業所の経営上の課題については、「従事者の人員確保が困難」が54.4%で最も高く、次いで「物価等の高騰により運営コストが増加している」が50.9%、「報酬単価が低く安定的な経営が困難」が43.9%となっています。



3. サービス提供について

問5 令和9年度以降にサービスの定員の拡大（縮小）・新規開設（廃止）の予定はありますか。（1つのみ）

サービスの定員の拡大・新規開設などの予定については、「ある」が26.3%、「ない」が71.9%となっています。



【問5で「ある」と回答した方にお聞きします。】

問6 定員の拡大（縮小）・新規開設（廃止）を予定している内容をお答えください。

■ 定員の拡大・新規開設などの予定

サービスの定員の拡大・新規開設などの予定の内訳については、「新規開設」が11件、「定員拡大」が5件、「定員縮小」が1件、「廃止」が1件となっています。

■ サービス名・サービスの概要・定員数・実施年度

「新規開設」

サービス名	サービスの概要	定員数	実施年度
施設入所支援	—	40人	令和9年度
就労選択支援事業	—	10人	—
児童発達支援／ 放課後等デイサービス	—	10人	令和9年度
就労継続支援B型	花の生産、販売	20人	令和9年度
放課後等デイサービス	—	10人	令和9年度
計画相談支援	相談支援事業所	—	令和9年度
相談支援事業所	—	—	令和9年度
多機能型事業所	生活介護、就労継続支援B型事業所	30人	令和9年度
児童発達支援／ 放課後等デイサービス	個別療育・学習支援	10人	—
相談支援事業所	—	—	—
就労継続支援B型	多機能型に変更予定	10人	—

「定員拡大」

サービス名	サービスの概要	定員数	実施年度
井同生活援助	—	現在：21 人 予定：30 人	令和 9 年度
共同生活援助	—	現在：6 人 予定：12 人	—
生活保護	—	現在：— 予定：—	令和 9 年度
放課後等デイサービス	療育	現在：10 人 予定：20 人	令和 9 年度
就労継続支援 B 型	—	現在：— 予定：—	令和 9 年度

「定員縮小」

サービス名	サービスの概要	定員数	実施年度
就労継続支援 A 型	—	現在：20 人 予定：10 人	—

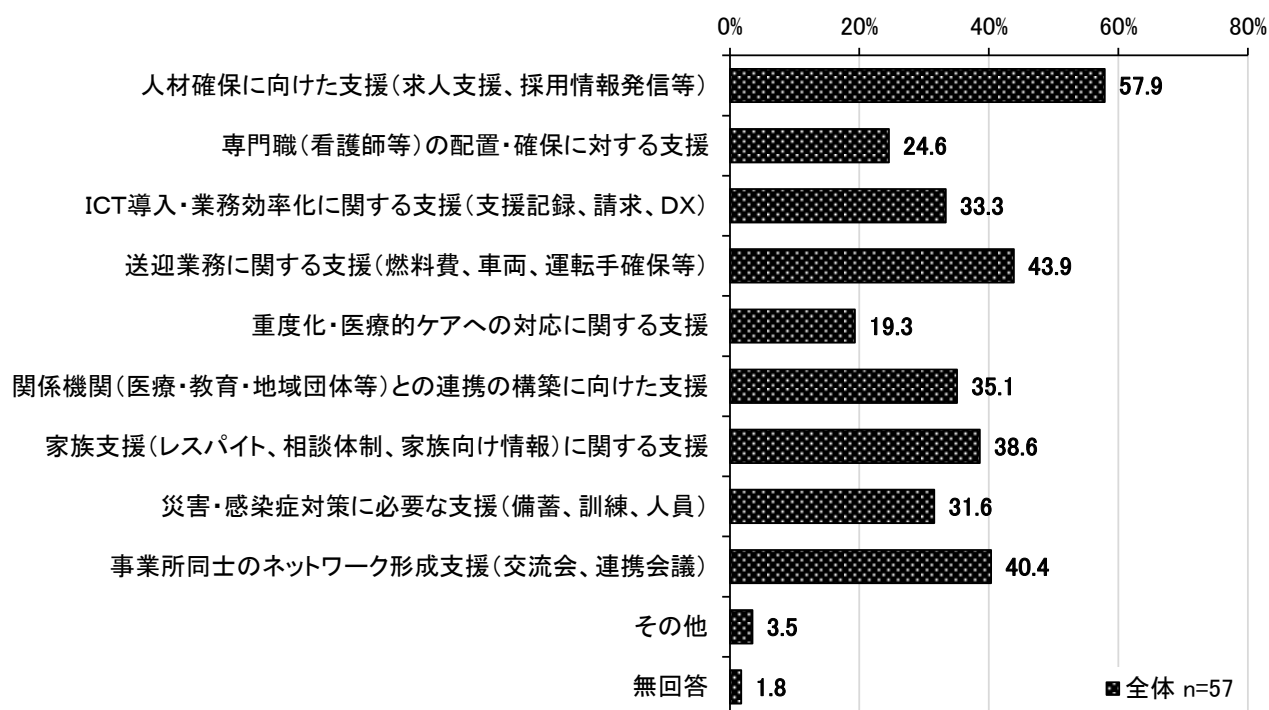
「廃止」

サービス名	サービスの概要	定員数	実施年度
自立訓練（生活訓練）	主にひきこもりの方々への支援、訪問支援 5 人、通所での支援 6 人	11 人	—

4. 事業所への支援について

問7 今後の事業運営にあたって、どのような支援が必要でしょうか。(いくつでも)

事業所運営において必要な支援については、「人材確保に向けた支援（求人支援、採用情報発信等）」が57.9%で最も高く、次いで「送迎業務に関する支援（燃料費、車両、運転手確保等）」が43.9%、「事業所同士のネットワーク形成支援（交流会、連携会議）」が40.4%となっています。

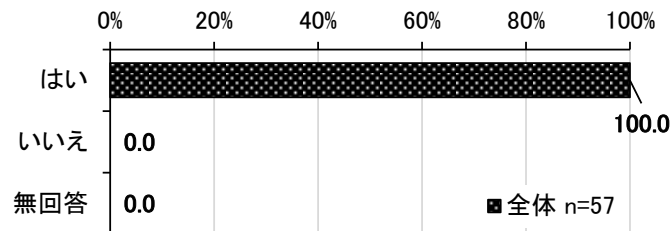


5. 防災対策について

問8 貴施設・事業所の防災対策について、次の①から⑤をお答えください。

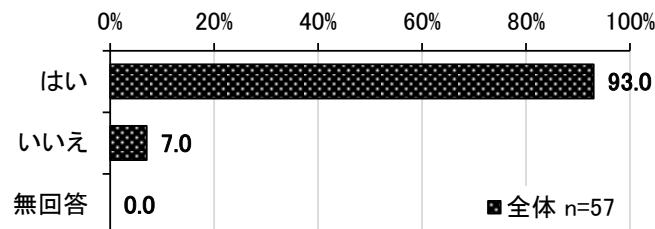
①災害対応マニュアル（火災・地震・風水害）を作成していますか。

災害対応マニュアルを作成しているかについては、「はい」が100.0%、「いいえ」が0.0%となっています。



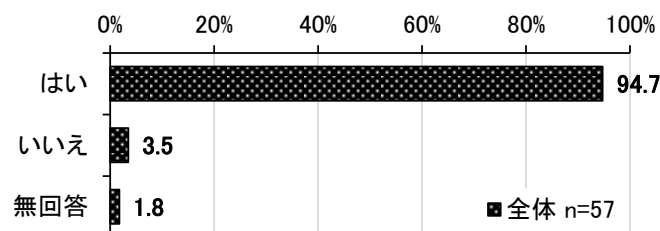
②利用者の安否確認の方法を決めていますか。

利用者の安否確認の方法を決めているかについては、「はい」が93.0%、「いいえ」が7.0%となっています。



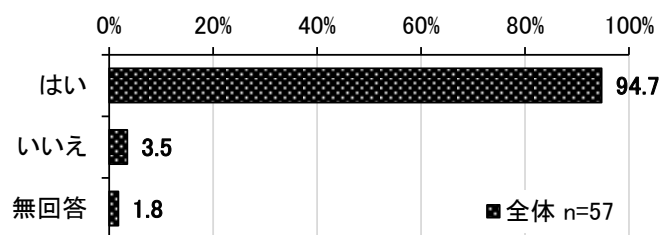
③災害用備品を備蓄していますか。

災害用備品を備蓄しているかについては、「はい」が94.7%、「いいえ」が3.5%となっています。



④発災時に、利用者を安全に避難させる対策をたてていますか。

発災時に、利用者を安全に避難させる対策をたてているかについては、「はい」が94.7%、「いいえ」が3.5%となっています。



⑤特別に防災対策を立てている場合には、その内容をお書きください。

No.	特別な防災対策の内容
1	災害の発生に備えた対応、緊急連絡先の把握を書類にて記載。訓練提案書及び実行、安全確認が行えるようシミュレーションや絵本で知らせています。
2	水害時に垂直避難ができるようにグループホーム建設時に2階をつくった。
3	建物に被害が出た場合などには池田病院（100m以内）に避難することになっている。
4	牛久障がい福祉サービス事業所連絡会災害時相互応援協定局を市内事業所内で取り交わしている。
5	B C Pに基づく
6	事業所が福祉避難所指定の福祉センター館内にあるため避難が容易

6. 入所施設について

【問9から問11は、入所施設のみにお聞きします。】

問9 貴施設に入所されている龍ヶ崎市の方について、3年後の希望する生活を教えてください。

施設に入所している龍ヶ崎市の方の3年後希望する生活については、「家族と自宅生活」が7人、「一人暮らし」が6人、「グループホーム」が8人、「他の施設に入所」が0人、「今の施設に入所」16人、「病院」が0人、「不明」が5人となっています。

問10 貴施設に入所されている龍ヶ崎市の方のうち、地域生活への移行が見込める方の人数をご記入ください。

施設に入所している龍ヶ崎市の方のうち、地域生活への移行が見込める人数については、「家族と自宅生活」が23人、「一人暮らし」が4人、「グループホーム」が13人となっています。

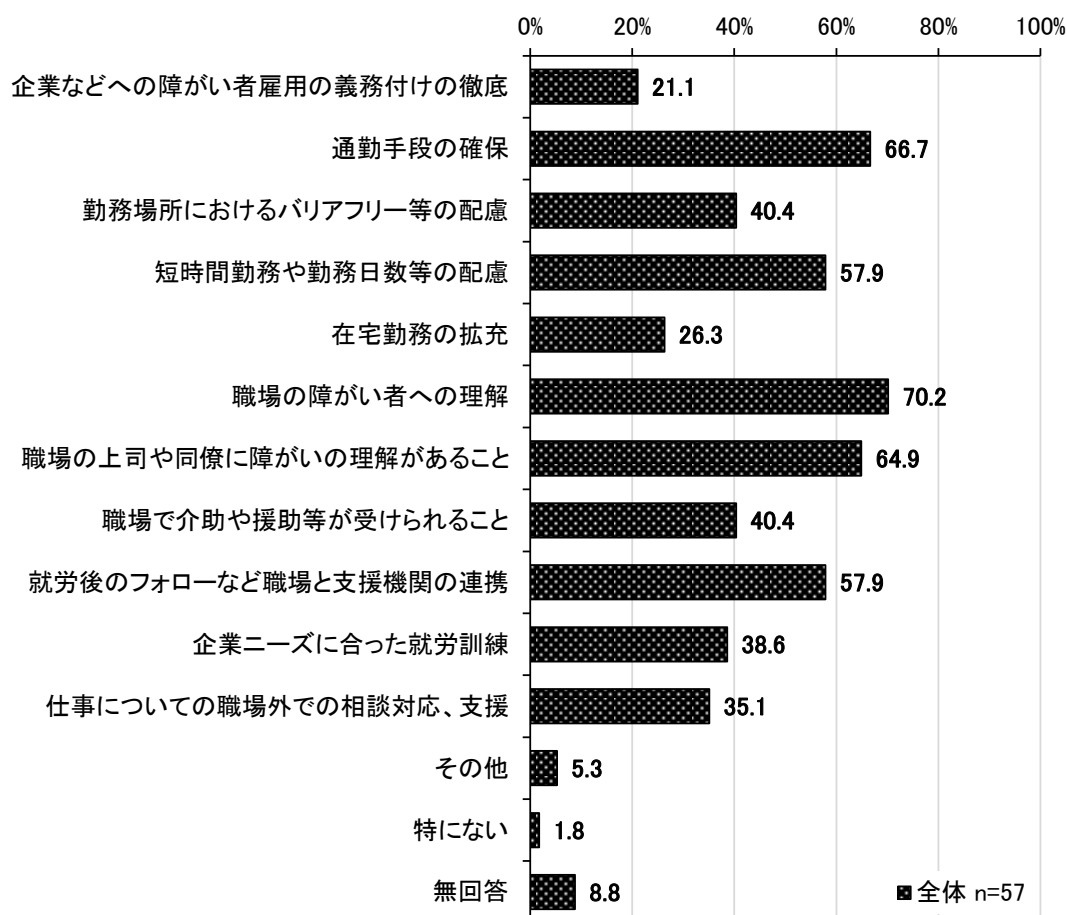
問11 貴施設において、入所者の地域生活への移行を進めていく上で、障壁となっていること、また課題となっていることについてご意見をお聞かせください。

No.	入所者の地域生活への移行を進めていく上で、障壁・課題となっていること
1	社会の身体障がい（車イス等）に対する理解はかなり深まっている一方で、精神障がいや知的障がいに対する偏見や差別意識は非常に根強く、後者の障がい者の社会進出や地域生活への移行に際しての大きな障壁となっていると感じます。特にマスコミ等の報道においては、精神・知的障がいの方の普段の生活や特性についてはほとんど触れられることがない一方で、精神・知的障がいの方が起こした事件等は大々的に報じられるため、精神障がい、知的障がい＝危険人物との考えに無意識に染まり、強い拒否反応を示す方が多くいらっしゃいます。しっかりと服薬し、適切な支援を受けていれば、地域社会の中で一般の方々と全く同じ生活が送れるという現実をもっと多くの人々に知ってもらうために、精神・知的障がいに関するより充実した啓発、広報、交流活動が必要であると考えます。
2	就業場所の確保
3	夜間の様子（夜はしっかり入眠できているか）、他害等ある場合はどのようなになったら不隠になるのかを重点に検討する。
4	当事業所は重度の知的障がいと身体障がいの重複する障がいをもつ方が多く、マンツーマンに近い支援を必要とします。地域生活へ移行するためにはその際の支援体制を整えることが困難で何かと考えます。
5	現在入所されている方は50～60代で年齢的に就労が難しい方や長期入院を経ての入所で、ご家族が地域生活への移行を希望されていない方が多いことが課題となっている。入所者の中には単身生活や就労の希望がある方もいるが。
6	障がいの特性やこだわり等々への理解、援助が必要

7. 就労支援について

問 12 障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。（いくつでも）

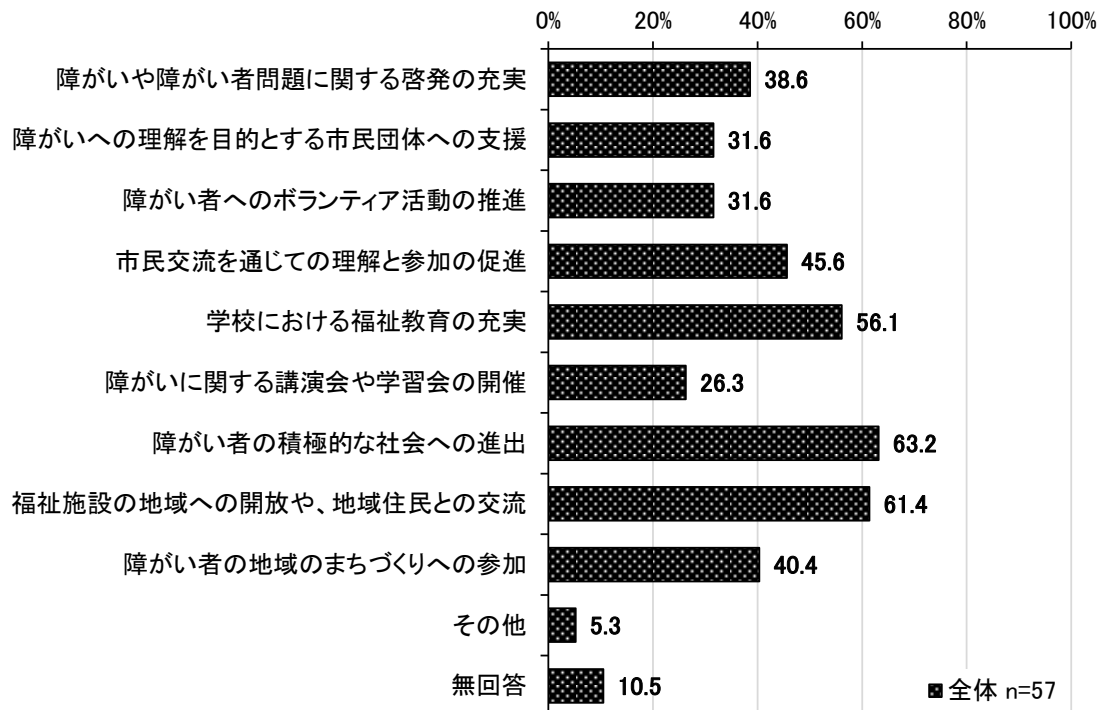
障がい者の就労支援として必要だと思うことについては、「職場の障がい者への理解」が70.2%で最も高く、次いで「通勤手段の確保」が66.7%、「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が64.9%となっています。



8. 福祉のまちづくりについて

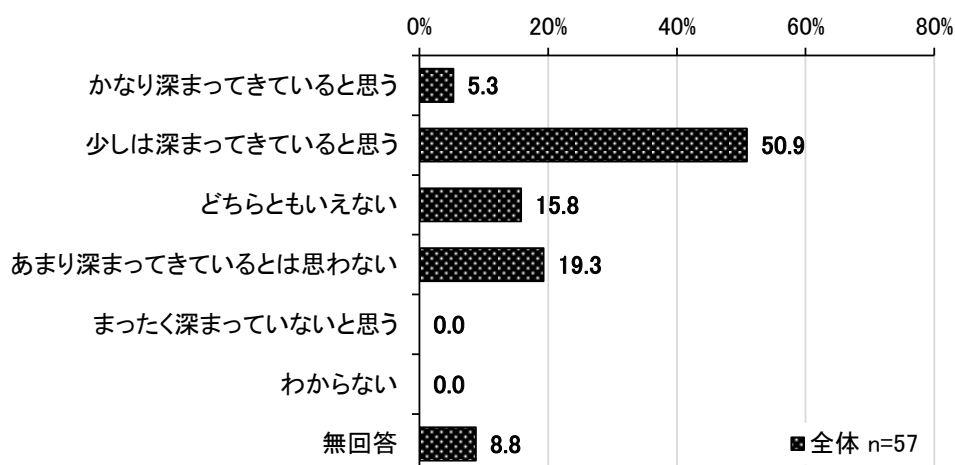
問 13 障がい者への市民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。（いくつでも）

障がい者の就労支援として必要だと思うことについては、「障がい者の積極的な社会への進出」が63.2%で最も高く、次いで「福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流」が61.4%、「学校における福祉教育の充実」が56.1%となっています。



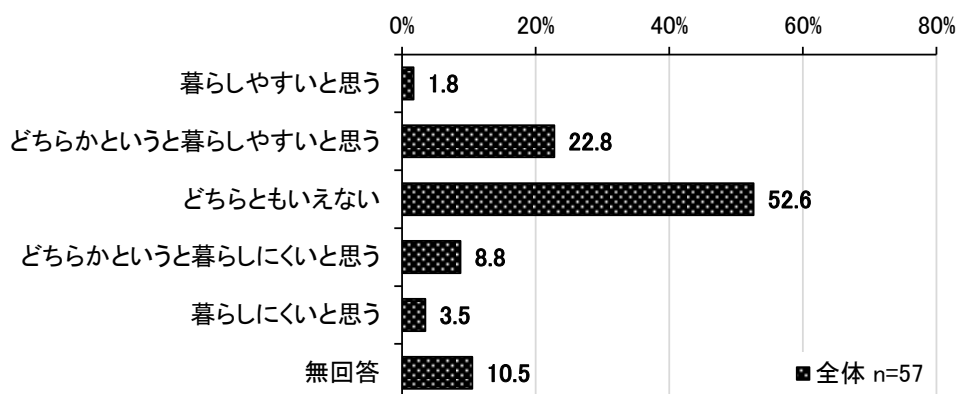
**問 14 ここ数年で、社会全体で障がいのある人への理解が深まってきていると思いますか。
(1つのみ)**

ここ数年、社会全体で障がいのある人への理解が深まってきていると思うかについては、「かなり深まってきていると思う」と「少しは深まってきていると思う」の合計値《深まってきている》が56.2%、「あまり深まってきているとは思わない」と「まったく深まっていないと思う」の合計値《深まっていない》が19.3%と、《深まってきている》が36.9ポイント上回っています。



問 15 龍ヶ崎市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。(1つのみ)

龍ヶ崎市は障がい者にとって暮らしやすいまちだと思うかについては、「暮らしやすいと思う」と「どちらかという暮らしやすいと思う」の合計値《暮らしやすい》が24.6%、「どちらかという暮らしにくいと思う」と「暮らしにくいと思う」の合計値《暮らしにくい》が12.3%と、《暮らしやすい》が12.3ポイント上回っています。



問 16 障がい者施策全般について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

No.	自由意見
1	障がいの程度によって、就職するにあたって交通事情が重要だと思います。通勤するときの見守りや、定期的な乗り物の補助等を充実して欲しいと思います。
2	子どもの教育と福祉が良い連携ができるとありがたいです。最近是不登校のお子さんも増えていて、その中に福祉サービスが必要な子が一定数いるように感じます。不安定な子どもと困っている保護者を支援できる事業所でありたいので、そのような子ども達を受け入れやすい制度や施策であってほしいです。専門的な視点での療育を実施していますので、それが加算等につながるとありがたいです。
3	日本の精神病院の病床数は32万床で、世界の先進国全体の病床数の約4割を占め、その多くが人里離れた僻地に存在し、一度入院すると平均して9か月は退院できないという現状は、人権上大きな問題であり、早急な解決を要する問題であると考えます。一方で、前述のとおり、地域社会の精神・知的障がいに対する偏見と差別は根強く、入院中の障がい者が自らアパート等を借りて一人で住むということは極めて難しい状況です。自治体におかれましては、精神・知的障がい者の地域での受け入れ先としてのグループホームの充実にご理解を頂くとともに、長期入院者の退院促進のための取り組みにご尽力を頂ければ幸いに存じます。
4	障害福祉サービスの報酬単価は、実際の支援に要する人件費、運営費、物価上昇等を十分に反映しているとは言い難く、事業所の経営を圧迫しています。特に重度障がい者支援や医療的ケアを伴う支援など、手厚い人員配置が不可欠なサービスにおいては、現行の報酬体系では必要な体制を維持することが難しい状況です。安定的かつ質の高い支援を維持するためには、実態に即した報酬単価の見直しが不可欠です。
5	障がい福祉サービス事業を行うにあたって、事務作業が増えていると感じます。BCPや業務管理体制の整備等々、必要とする会議や訓練なども増えていて、必要なことは理解していますが、小さな事業所ではなかなか対応に苦しんでいます。本来ならば、障がい者の方の支援にもっと時間を使いたいのに、もっとスタッフのケアをしたいのに、手がまわらないのが歯がゆく思います。指針をつくるにしろ、会議を行うにしろ、県にもテンプレートや具体的なマニュアルもなく、他県や他市町村のマニュアルや指針を参考にして作成するなど、余分な時間をとられています。もっと事務作業に関わるアドバイスやサポートがほしいと、いま痛切に感じています。
6	重度心身障がい者（児）や強度行動障がい者（児）を受け入れる施設が市内にないため、困っている。
7	当方は相談支援事業所です。サービス利用計画書及び案、モニタリング報告書などを市役所へ直接データで送れるようになってほしい。サービス利用対象者の一括データベースを市役所が運営して、そちらにアクセスする方法でデータ管理ができるとよい。モニタリングスケジュールは、就労や児童について6か月毎では用を足さないことが多い。3か月単位を標準としてほしい。難易事例の指導体制の拡充。

No.	自由意見
8	地域で障がい者が暮らしていけるようにシステムを整えていくことが重要であると考えています。精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムや地域自立支援協議会が充実した活動を行い、地域共生社会が実現できるように関係機関の連携が必要であると考えています。それには関係機関が集まり、イベントや行事を通して地域の活性化を目指すことが大切であると思います。さらに、障がい者が気兼ねなく参加できるようになると良いと思っています。お互いの理解を得て地域づくりが可能となれば、暮らしが少しでも豊かになっていくのではないかと考えています。
9	持続可能な地域社会を創造していくに当たり、地域住民すべてがその形成を担っていくべきだと思うので、障がい者施策だけを考えても人やお金に限界が来ると思います。いかに地域資源や人材の効率化を図っていくかが、2040年までの課題だと思います。例：ヘルパーの人材が不足している。8050問題で、ひきこもりといわれる80代の方が50代の方の面倒をみている。お金にも困っている。家族介護も、その介護負担分の労働力を費用として支払う等のことができれば、当事者も社会参加しながら地域課題の解決に貢献してくれる人材になり得ると思います。
10	暮らしやすいとかにくいとかより、障がいのある方を優先にものごとを考え、作っていけば、自然に高齢者や幼児などにも優しいまちになると思う。買い物に出かける手段（交通等）や段差（バリアフリー）など、それにより外出等をあきらめている方も多いと思われる。そういった場所・機会・イベント・店等があると良い。

第Ⅴ部 資料編（使用した調査票）

1. 障がい者アンケート 調査票

りゅうがさきししょう しゃ
龍ヶ崎市 障がい者プラン・
だい きしょう ふくしけいかく だい きしょう じ ふくしけいかく
第8期 障がい福祉計画・第4期 障がい児福祉計画
さくてい かか ちょうさ きょうりょく ねが
策定に係るアンケート調査へのご協力をお願い

りゅうがさきし ふくしぎょうせい すいしん へいそ かくべつ り かい きょうりょく たまわ
龍ヶ崎市の福祉行政の推進につきましては、平素から格別のご理解とご協力を賜り
あつ れいもう あ
厚くお礼申し上げます。

ほんし げんざい しょう しゃしきく きほんてき けいかく りゅうがさきししょう しゃ だい
本市では、現在、障がい者施策の基本的な計画として、「龍ヶ崎市 障がい者プラン・第
きしょう ふくしけいかく だい きしょう じ ふくしけいかく さくてい と く
8期 障がい福祉計画・第4期 障がい児福祉計画」の策定に取り組んでいます。

このアンケート調査は、障がい者の皆様の実情やニーズを把握したり、市民の皆様の
しょう しゃしきく いけん あたら けいかく はんえい じっし
障がい者施策へのご意見を新しい計画に反映させるために実施します。

みなさま ちょうさ しゅし り かい きょうりょく ねが
皆様には、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い
します。ご回答いただいた内容は、統計的に処理し、計画策定以外には使用しませんので、
かいとう
ありのままをご回答ください。

れいわ ねん がつ
令和7年12月

りゅうがさきしちょう はぎわら いさむ
龍ヶ崎市長 萩原 勇

き にゅう ねが
＜ご記入にあたってのお願い＞

- この調査は、原則としてご本人におうかがいするものです。ご本人が回答できない場合は、ご家族や介護をされている方が、ご本人のお気持ち、お考えを聞きながら、ご本人の立場になって、代筆していただきますよう、お願いいたします。
- ご回答にあたっては、すべて 令和7年12月1日現在 の状況でご記入ください。
- ご回答は、あてはまる回答に「☒（しん）（点）」をつけてください。質問によっては、「1つのみ」「いくつでも」など、回答する数が異なりますので、ご注意ください。また、質問によっては回答していただく方が限られる場合がございます。ことわりが書きにご注意ください。
- 「その他」に回答された方は、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、
れいわ ねん がつ にち きん
令和8年1月9日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。

ちょうさ しつもん ふ めい てん と あ か き ねが
調査についてのご質問、ご不明な点についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

りゅうがさきし ふくし ぶ しょう ふくし か しょう ふくし
龍ヶ崎市 福祉部 障がい福祉課 障がい福祉グループ

だいひょう
TEL : 0297-64-1111（代表） FAX : 0297-64-7008

ちょうさひょう 調査票

下記の項目について、あてはまる回答に「☒（レ点）」をつけてください。

1 あなたご自身のことについてお聞きします。

問1 お答えいただくのは、どなたですか。（1つのみ）

- ☐ 本人（この調査票が郵送された宛名の方）
- ☐ 本人の家族
- ☐ 家族以外の介助者

※これ以降、この調査票が郵送された宛名の方を「あなた」とお呼びしますので、ご本人（この調査票の対象者：障がいのある方）の状況などについて、お答えください。

問2 あなたの年齢をお答えください。（令和7年12月1日現在）

まん 満 さい 歳

問3 あなたの性別をお答えください。（1つのみ）

※自認する性でお答えください。

- ☐ 男性 ☐ 女性

問4 現在、あなたが一緒に暮らしている人は、どなたですか。（いくつでも）

- ☐ 父母・祖父母・兄弟 ☐ いない（一人で暮らしている）
- ☐ 配偶者（夫または妻） ☐ その他（ ）
- ☐ 子ども

※グループホーム、福祉施設等を利用されている方は「その他」としてください。

問5 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。①から⑩のそれぞれにお答えください。（①から⑩それぞれ1つのみ）

項 目	ひとりでできる	介助が必要
① 食事	☐	☐
② トイレ	☐	☐
③ 入浴	☐	☐
④ 衣服の着脱	☐	☐
⑤ 身だしなみ	☐	☐
⑥ 家の中の移動	☐	☐
⑦ 外出	☐	☐
⑧ 家族以外の人との意思疎通	☐	☐
⑨ お金の管理	☐	☐
⑩ 薬の管理	☐	☐

【問5で「介助が必要」と回答した方にお聞きします。】

問6 あなたを介助してくれる方は主に誰ですか。（いくつでも）

☐ 父母・祖父母・兄弟 ☐ 配偶者（夫または妻） ☐ 子ども	☐ ホームヘルパーや施設の職員 ☐ その他の人（ボランティア等）
---	---

【問6で「父母・祖父母・兄弟」「配偶者（夫または妻）」「子ども」と回答した方にお聞きします。】

問7 主な介護者の年齢もお答えください。（1つのみ）

☐ 10歳未満 ☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代	☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代 ☐ 80代以上
--	--

2 あなたの障 がい の 状 況 についてお聞きします。

問8 あなたは身体障 害 者手帳をお持ちですか。（1つのみ）

- ☐ 1 級 ☐ 3 級 ☐ 5 級 ☐ も 持っていない
☐ 2 級 ☐ 4 級 ☐ 6 級

問9 あなたは療 育 手帳をお持ちですか。（1つのみ）

- ☐ ①判定 ☐ B判定 ☐ も 持っていない
☐ A判定 ☐ C判定

問10 あなたは精神障 害 者保健福祉手帳をお持ちですか。（1つのみ）

- ☐ 1 級 ☐ 2 級 ☐ 3 級 ☐ も 持っていない

問11 あなたは難 病 や特定疾患の認定を受けていますか。（1つのみ）

- ☐ う 受けている ☐ う 受けていない

※難 病 とは、筋萎縮性側索硬化症（ALS）・クローン 病 などの治療法が確立していない疾病その他の特殊の疾病を言います。（令和7年4月1日現在：348疾病）

※特定疾患とは、スモン・難治性肝炎のうち劇 症 肝炎・重 症 急性膵炎・プリオン 病 （ヒト由来乾燥硬膜移植によるクロイツフェルト・ヤコブ 病 に限る）・重 症 多形滲出性紅斑を言います。

問12 あなたは発 達 障 がい として診断されたことがありますか。（1つのみ）

- ☐ ある ☐ ない

※発 達 障 がい とは、自閉症、アスペルガー 症 候群その他の広汎性発 達 障 がい、学 習 障 がい、注意欠陥多動性 障 がいなどを言います。

問13 あなたは高次脳機能障 がい として診断されたことがありますか。（1つのみ）

- ☐ ある ☐ ない

※高次脳機能障 がい とは、一般に、外 傷 性脳損 傷、脳血管障 がい 等により脳に損 傷 を受けその後遺症等として生 じた記憶障 がい、注 意 障 がい、社会的行動障 がい などの認知障 がい 等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない」等の 症 状 があります。

問14 あなたは強度行動障がいと言われたことはありますか。（1つのみ）

☐ ある ☐ ない

※強度行動障がいとは、自傷、他傷、こだわり、もの壊し、睡眠の乱れ、異食、多動など本人や周囲の人のくらしに影響を及ぼす行動が、著しく高い頻度で起こるため、特別に配慮された支援が必要になっている状態のことをいいます。障害福祉サービス等を利用している方で重度障害者支援加算の対象となっている場合や、外出支援で行動援護を利用している場合、医師や療育機関等から指摘されたことがある場合等は「ある」としてください。

問15 あなたは医療的ケアを受けていますか。（1つのみ）

☐ 受けている ⇒問16へ ☐ 受けていない

【問15で「受けている」と回答した方にお聞きします。】

問16 あなたが現在受けている医療的ケアを教えてください。（1つのみ）

- | | |
|---|---|
| ☐ 気管切開 | ☐ 中心静脈栄養（IVH） |
| ☐ 人工呼吸器（レスピレーター） | ☐ 透析 |
| ☐ 吸入 | ☐ カテーテル留置 |
| ☐ 吸引 | ☐ ストマ（人工肛門・人工膀胱） |
| ☐ 胃ろう・腸ろう | ☐ 服薬管理 |
| ☐ 鼻腔経管栄養 | ☐ その他（ ） |

3 障がい福祉サービス等の利用についてお聞きします。

問17 あなたは次のサービスを利用していますか。または、今後利用したいと考えますか。
 （①から⑥のそれぞれについて回答してください）

項 目	利用している	利用したい	利用は考えていない わからない
①居宅介護（ホームヘルプ） 自宅で入浴や排せつ、食事などの介助を行なうサービスです。	☐	☐	☐
②重度訪問介護 重度の障がいがあり常に介護が必要な方に、自宅で入浴や排せつ、食事などの介助や外出時の移動の補助を行なうサービスです。	☐	☐	☐
③同行援護 視覚障がいにより移動が著しく困難な方に、外出に必要な情報の提供や移動の援護などを行なうサービスです。	☐	☐	☐
④行動援護 知的障がいや精神障がいにより行動が困難で常に介護が必要な方に、行動するとき必要な介助や外出時の移動の補助などを行なうサービスです。	☐	☐	☐
⑤重度障害者等包括支援 常に介護が必要な方で、介護の必要の程度が著しく高い方に、居宅介護などのサービスを包括的に提供するサービスです。	☐	☐	☐
⑥生活介護 常に介護が必要な方に、施設で入浴や排せつ、食事の介護や創作的活動などの機会を提供するサービスです。	☐	☐	☐

こ う も く 項 目	りよう 利用している	りよう 利用したい	りよう かんが 利用は考えていない わからない
⑦ 自立訓練（機能訓練、生活訓練） じりつ にちじょうせいかつ しゃかいせいかつ 自立した日常生活や社会生活ができるよ う、一定の期間における身体機能や生活 のうりよくこうじょう ひつよう くんれん おこな 能力向上のために必要な訓練を行うサ ービスです。	☐	☐	☐
⑧ 就労選択支援 しゅうろう きぼう かた じぶん あ はたら 就労を希望する方が、自分に合った働き かた しょくぎょう を見つけられるよう、職業 体験や相談、評価などを通じて、就労に 向けた方向性の選択を支援するサービス です。	☐	☐	☐
⑨ 就労移行支援 しゅうろういこうしえん つうじょう じぎょうしょ はたら かた いってい 通常の事業所で働きたい方に、一定の 期間、就労に必要な知識及び能力の 向上のための訓練を行うサービスです。	☐	☐	☐
⑩ 就労継続支援（A型、B型） しゅうろうけいぞくしえん がた がた つうじょう じぎょうしょ はたら こんなん かた 通常の事業所で働くことが困難な方に、 しゅうろう きかい ていきょう せいさんかつどう ほか 就労の機会の提供や生産活動その他の 活動機会の提供、知識や能力の向上の ための訓練を行うサービスです。	☐	☐	☐
⑪ 就労定着支援 しゅうろうていちゃくしえん しゅうろう む しえん う いっぱんきぎょうなど 就労に向けた支援を受けて、一般企業等 に雇用された障がい者に対して、就労の 継続を図るために、雇用主や障害福祉事 業者等との連絡調整を行うサービスで す。	☐	☐	☐
⑫ 療養介護 りょうようかいご いりょう ひつよう かた つね かいご ひつよう 医療が必要な方で、常に介護を必要とする 方に、主に昼間に病院等において機能 訓練、療養上の管理、看護などを提供 するサービスです。	☐	☐	☐

項 目	利用している	利用したい	利用は考えていない わからない
⑬短期入所（ショートステイ） 在宅の障がい者(児)を介護する方が病気 などの場合に、障がい者が施設に短期間 入所し、入浴、排せつ、食事の介護など を行うサービスです。	☐	☐	☐
⑭共同生活援助（グループホーム） 地域社会における自立を図るために、生活 の場を提供し、日常生活の支援を行う サービスです。グループホームの世話人が 食事提供、通院同行、服薬管理、相談援助 など、日常生活上の援助を行い、地域 での生活をサポートします。	☐	☐	☐
⑮施設入所支援 主として夜間、施設に入所する障がい者 (児)に対し、入浴、排せつ、食事の介護 などの支援を行うサービスです。	☐	☐	☐
⑯自立生活援助 障害者支援施設やグループホーム等を利用 していた障がいのある方で、地域での一人暮 らしを希望する方を対象に、一定期間にわ たり定期的な巡回訪問や食事や掃除、地域 住民との関係性の確認等を行います。	☐	☐	☐
⑰計画相談支援 福祉サービスの利用において、障がい者 (児)の抱える課題の解決や適切なサービ ス利用に向けて、ケアマネジメントにより きめ細かく支援するサービスです。	☐	☐	☐
⑱地域移行支援 住まいの確保や、地域での生活に移行する ための活動に関する相談、各福祉サービス 事業所への同行を行うサービスです。	☐	☐	☐

こ う も く 項 目	りよう 利用している	りよう 利用したい	りよう かんが 利用は考えていない わからない
⑭地域定 着 支援 つね れんらくたいせい かくほ しょう とうせい 常に連絡体制を確保し、障 がい の特性に よる きんきゅうじたい そうだん 緊急事態における相談や、サービス じぎょうしょ れんらくちようせい しえん 事業所との連絡調整などを支援するサ ービスです。	☐	☐	☐
⑮～⑳のサービスは、18歳未満の 障 がい のある児童が利用するサービスとなります。 18歳以上の方は、問18 へお進みください。			
㉑児童発達支援 にちじょうせいかつ きほんてき どうさ しょう 日常生活における基本的な動作の指導、 ちしきぎのう ふ よ しゅうだんせいかつ てきおうくんれん 知識技能の付与、集 団 生活への適応訓練 などの しえん おこな 支援を行 うサービスです。	☐	☐	☐
㉒放課後等デイサービス がっこう じゅぎょうしゅうりょうご がっこう きゅうこう び 学校の授業終了後や学校の休 校 日に、 せいかつ のうりょくこうじょう ひつよう くんれん 生活能力向上のために必要な訓練や、 しゃかい こうりゅう そくしん しえん おこな 社会との交 流 の促進などの支援を行 う サービスです。	☐	☐	☐
㉓保育所等訪問支援 ほいくしょうなど ほうもん しょう じ だい 保育所等を訪問し、障 がい 児 に対して、 しょう じ いがい しょう しゅうだんせいかつ 障 がい 児 以外の児童との集 団 生活への てきおう せんもんてき しえん おこな 適応のための専門的な支援などを行 うサ ービスです。	☐	☐	☐
㉔医療型児童発達支援 にちじょうせいかつ きほんてき どうさ しょう 日常生活における基本的な動作の指導、 ちしきぎのう ふ よ しゅうだんせいかつ てきおうくんれん 知識技能の付与、集 団 生活への適応訓練 などの しえん ちりょう おこな 支援と治療を行 うサービスです。	☐	☐	☐
㉕居宅訪問型児童発達支援 じゅうど しょう など がいしゅつ 重度の 障 がい 等により、外 出 することが いちじる こんなん しょう し だい きょたく 著 しく困難な 障 がい 児 に対して、居宅 ほうもん しょう しょうはつたつしえん おこな に訪問して児童発達支援を行 うサービス です。	☐	☐	☐

項 目	利用している	利用したい	利用は考えていない わからない
㊤福祉型児童入所支援 障がい児入所施設に入所する障がい児に対して、保護・日常生活の指導や知識技能の付与を行うサービスです。	☐	☐	☐
㊦医療型児童入所支援 障がい児入所施設や指定医療機関に入所等をする障がい児に対して、保護・日常生活の指導や知識技能の付与や治療を行うサービスです。	☐	☐	☐

4 す ま い や く ら し に つ い て お 聞 き し ま す 。

問18 あなたは現在、どのように暮らしていますか。（1つのみ）

- ☐ 一人で暮らしている
☐ 家族と暮らしている
☐ グループホームで暮らしている
☐ 福祉施設（障がい者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている
☐ 病院に入院している
☐ その他（ ）

※グループホームとは、地域社会における自立を図るために、生活の場を提供し、日常生活の支援を行うサービスです。グループホームの世話人が食事提供、通院同行、服薬管理、相談援助など、日常生活上の援助を行い、地域での生活をサポートします。

問19 あなたは将来、どのように生活したいと思いますか。（1つのみ）

- ☐ 一人で生活したい
☐ 家族と一緒に生活したい
☐ グループホームを利用したい
☐ 福祉施設（障がい者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしたい
☐ その他（ ）

問20 あなたにとって将来の心配事は何ですか。（いくつでも）

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| ☐ 健康面のこと | ☐ 地域の福祉サービスのこと |
| ☐ 仕事面のこと | ☐ 近所との付き合い |
| ☐ 生活費のこと | ☐ 親・家族に先立たれること |
| ☐ 医療費のこと | ☐ その他（ ） |
| ☐ 住まいのこと | ☐ 特になし |

問21 地域で生活するために、どのような支援があればよいと思いますか。（いくつでも）

- | |
|---|
| ☐ 在宅で医療ケアなどが適切に得られること |
| ☐ 障がい者に適した住居の確保 |
| ☐ 必要な在宅サービスが適切に利用できること |
| ☐ 生活訓練の充実 |
| ☐ 経済的な負担の軽減 |
| ☐ 相談対応の充実 |
| ☐ 地域住民の理解 |
| ☐ 情報の取得利用や意思疎通についての支援 |
| ☐ その他（ ） |

5 日中活動についてお聞きします。

問22 あなたは、1週間にどの程度外出しますか。（1つのみ）

- | | |
|-------------------------------------|---------------------|
| ☐ 毎日外出する | } ⇒問23、問24、問25、問26へ |
| ☐ 1週間に数回外出する | |
| ☐ めったに外出しない | |
| ☐ まったく外出しない | |

【問22で「毎日外出する」「1週間に数回外出する」「めったに外出しない」と回答した方にお聞きします。】

問23 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。（1つのみ）

- | | |
|-------------------------------------|---|
| ☐ 父母・祖父母・兄弟 | ☐ ホームヘルパーや施設の職員 |
| ☐ 配偶者（夫または妻） | ☐ その他の人（ボランティア等） |
| ☐ 子ども | ☐ 一人で外出する |

【問22で「毎日外出する」「1週間に数回外出する」「めったに外出しない」と回答した方にお聞きします。】

問24 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。（いくつでも）

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ 通勤・通学・通所 | ☐ 趣味やスポーツをする |
| ☐ 訓練やリハビリに行く | ☐ グループ活動に参加する |
| ☐ 医療機関への受診 | ☐ 散歩に行く |
| ☐ 買い物に行く | ☐ その他（ ） |
| ☐ 友人・知人に会う | |

【問22で「毎日外出する」「1週間に数回外出する」「めったに外出しない」と回答した方にお聞きします。】

問25 外出する時によく利用する交通手段は何ですか。（いくつでも）

- | | |
|--|--|
| ☐ 徒歩 | ☐ タクシー |
| ☐ 車イス | ☐ 福祉タクシーなどの移送サービス |
| ☐ 自転車・バイク | ☐ 学校などのスクールバス |
| ☐ 自家用車（本人が運転） | ☐ 施設や病院などの送迎車 |
| ☐ 自家用車（家族の運転） | ☐ その他（ ） |
| ☐ 電車、バスなど公共交通機関 | |

【問22で「毎日外出する」「1週間に数回外出する」「めったに外出しない」と回答した方にお聞きします。】

問26 外出する時に困ることは何ですか。（いくつでも）

- | |
|--|
| ☐ 公共交通機関が少ない（ない） |
| ☐ 列車やバスの乗り降りが困難 |
| ☐ 道路や駅に階段や段差が多い |
| ☐ 切符の買い方や乗換えの方法がわかりにくい |
| ☐ 外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど） |
| ☐ 介助者が確保できない |
| ☐ 外出にお金がかかる |
| ☐ 周囲の目が気になる |
| ☐ 発作など突然の身体の変化が心配 |
| ☐ 困った時にどうすればいいのか心配 |
| ☐ その他（ ） |

問27 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。（1つのみ）

- ☐ 会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている
 - ☐ ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている
 - ☐ 専業主婦（主夫）をしている
 - ☐ 福祉サービス事業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）
 - ☐ 病院などのデイケアに通っている
 - ☐ リハビリテーションを受けている
 - ☐ 自宅で過ごしている
 - ☐ 入所している施設や病院等で過ごしている
 - ☐ 大学、専門学校、職業訓練校などに通っている
 - ☐ 特別支援学校（小中高等部）に通っている
 - ☐ 一般の高校、小中学校に通っている
 - ☐ 障がい児通園施設や保育所、幼稚園などに通っている
 - ☐ その他（ ）
- ⇒問28、問29へ

【問27で「大学、専門学校、職業訓練校などに通っている」「特別支援学校（小中高等部）に通っている」「一般の高校、小中学校に通っている」「障がい児通園施設や保育所、幼稚園などに通っている」と回答した方にお聞きします。】

問28 幼稚園・学校などに通っていて困ることはありますか。（1つのみ）

- ☐ 通うのが大変
- ☐ トイレなどの施設が整っていない
- ☐ 介助体制が十分でない
- ☐ 先生の理解や配慮が足りない
- ☐ まわりの生徒たちの理解が得られない
- ☐ 友だちができない
- ☐ 通常の学級に入れてもらえない
- ☐ 医療的なケア（吸引・経管栄養・導尿等）が受けられない
- ☐ 特に困っていることはない
- ☐ その他（ ）

【問27で「大学、専門学校、職業訓練校などに通っている」「特別支援学校（小中高部）に通っている」「一般の高校、小中学校に通っている」「障がい児通園施設や保育所、幼稚園などに通っている」と回答した方にお聞きします。】

問29 幼稚園・学校などに望むことはどのようなことですか。（1つのみ）

- ☐ 就学相談や進路相談など、相談体制を充実してほしい
- ☐ 能力や障がいの状況にあった指導をしてほしい
- ☐ 施設、設備、教材を充実してほしい
- ☐ 個別指導を充実してほしい
- ☐ 通常学級との交流の機会を増やしてほしい
- ☐ 障がいの状況にかかわらず通常学級で受け入れてほしい
- ☐ 医療的なケア（吸引・経管栄養・導尿等）が受けられるようにしてほしい
- ☐ その他（ ）
- ☐ 特に望むことはない

問30 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思えますか。（いくつでも）

- ☐ 通勤手段の確保
- ☐ 勤務場所におけるバリアフリー等の配慮
- ☐ 短時間勤務や勤務日数等の配慮
- ☐ 在宅勤務の拡充
- ☐ 職場の上司や同僚に障がいの理解があること
- ☐ 職場で介助や援助等が受けられること
- ☐ 就労後のフォローなど職場と支援機関の連携
- ☐ 企業ニーズに合った就労訓練
- ☐ 仕事についての職場外での相談対応、支援
- ☐ その他（ ）

6 余暇活動についてお聞きします。

問31 最近1年間、あなたは、地域の行事や活動に参加しましたか。（いくつでも）

- | | |
|---|--|
| ☐ 文化・スポーツ事業 | ☐ 学校・園等の行事 |
| ☐ 障がい者団体の集会・活動 | ☐ 福祉・ボランティア活動 |
| ☐ セミナー・講演会等の学習活動 | ☐ その他（ ） |
| ☐ 自治会活動・祭りなどの地域の活動 | ☐ 参加していない ⇒問32へ |
| ☐ 趣味やスポーツなどのサークル活動 | |

【問31で「参加していない」と回答した方にお聞きします。】

問32 地域の行事や活動に参加していない理由は何ですか。（いくつでも）

- | | |
|---|-------------------------------------|
| ☐ 参加したい行事がない | ☐ 一緒に行く人がいない |
| ☐ 時間の余裕がない | ☐ 関心がない |
| ☐ 参加費が負担になる | ☐ 特に理由はない |
| ☐ 会場に行くことが困難 | ☐ その他（ ） |
| ☐ 会場が障がいに対応していない | |

問33 あなたが、地域や社会に積極的に参加できるようにするため、特に大切なことは何ですか。（いくつでも）

- | |
|--|
| ☐ 参加しやすい機会、場所、仲間 |
| ☐ 使いやすい施設整備 |
| ☐ 移動困難な方に配慮した交通機関や道路の整備 |
| ☐ 外出を支援する移送サービス |
| ☐ 地域社会の人が受け入れるような広報や福祉教育 |
| ☐ 参加を支援するボランティアの育成 |
| ☐ 活動についての情報提供 |
| ☐ 手話通訳や要約筆記などのコミュニケーション支援 |
| ☐ 人々の障がい者に対する理解 |
| ☐ 家族と一緒に社会参加する |
| ☐ 障がいのある人が意見を言いやすい環境づくり |
| ☐ 介助者・援助者がいること |
| ☐ その他（ ） |
| ☐ 特にない |

7 相談相手についてお聞きします。

問34 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。（いくつでも）

- ☐ 家族や親せき
- ☐ 友人・知人
- ☐ 近所の人
- ☐ 職場の上司や同僚
- ☐ 施設の指導員など
- ☐ ホームヘルパーなど福祉サービス事業所の人
- ☐ 障がい者団体や家族会
- ☐ かかりつけの医師や看護師
- ☐ 病院のソーシャルワーカーや介護保険のケアマネジャー
- ☐ 民生委員・児童委員
- ☐ 障がい児通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生
- ☐ 相談支援事業所などの民間の相談窓口
- ☐ 行政機関の相談窓口
- ☐ その他（ ）

問35 あなたは障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。（いくつでも）

- ☐ 本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース
- ☐ 行政機関の広報誌
- ☐ インターネット
- ☐ 家族や親せき、友人・知人
- ☐ 福祉サービス事業所の人や施設職員
- ☐ 障がい者団体や家族会（団体の機関誌など）
- ☐ かかりつけの医師や看護師
- ☐ 病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー
- ☐ 民生委員・児童委員
- ☐ 障がい児通園施設や保育所、幼稚園、学校の先生
- ☐ 相談支援事業所などの民間の相談窓口
- ☐ 行政機関の相談窓口
- ☐ その他（ ）

問36 あなたは障がいのことや福祉サービス等に関する情報を、どの程度入手できていると感じていますか。（1つのみ）

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|
| ☐ 充分に入手できている | ☐ ほとんど入手できていない |
| ☐ ある程度入手できている | ☐ 入手する必要がない |
| ☐ あまり入手できていない | |

問37 障がいのことや福祉サービス等に関する情報を集める際に、困っていることは何ですか。（いくつでも）

- | | |
|--|---|
| ☐ 必要な情報が多すぎて整理できない | ☐ 情報が更新されていない、古い |
| ☐ 情報が信頼できるか判断しづらい | ☐ その他（ ） |
| ☐ 専門用語が多くて内容が理解しづらい | ☐ 特になし |
| ☐ インターネットの使い方が難しい | |

8 権利擁護についてお聞きします。

問38 あなたは、障がいがあることで差別や嫌な思いをする（した）ことがありますか。（1つのみ）

- ☐ ある ⇒問39へ ☐ 少しある ⇒問39へ ☐ ない

【問38で「ある」「少しある」と回答した方にお聞きします。】

問39 どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。（いくつでも）

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| ☐ 学校・仕事場 | ☐ 病院などの医療機関 |
| ☐ 仕事を探すとき | ☐ 住んでいる地域 |
| ☐ 外出先 | ☐ その他（ ） |
| ☐ 余暇を楽しむとき | |

問40 成年後見制度についてご存じですか。（1つのみ）

- ☐ 名前も内容も知っている
- ☐ 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
- ☐ 名前も内容も知らない

※成年後見制度とは、認知症、知的障がい、精神障がいなどの理由で判断能力が不十分な方を保護し、生活や契約・財産管理などについて支援するための制度です。

問41 あなたは、「障害者差別解消法」をご存じですか。（1つのみ）

- ☐ 知っている ☐ 知らない

※障害者差別解消法とは、国や市区町村などの行政機関や、会社やお店などの民間事業者における「障がいを理由とする差別」を解消するために制定された法律です。

問42 あなたは、「ヘルプマーク」をご存じですか。（1つのみ）

- ☐ 名前も内容も知っている
☐ 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
☐ 名前も内容も知らない

※ヘルプマークとは、外見からは分からなくても、配慮や支援を必要としている方が、周囲の方に知らせるために作られたマークです。

9 災害時の避難等についてお聞きします。

問43 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。（1つのみ）

- ☐ できる ☐ できない ☐ わからない

問44 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなただを助けてくれる人はいますか。（1つのみ）

- ☐ いる ☐ いない ☐ わからない

問45 市では、災害などの発生時に自力で避難することが困難な人を支援する「災害時避難行動要支援者避難支援プラン」という制度を設けていますがご存知ですか。（1つのみ）

- ☐ 知っている ☐ 知らない（聞いたことがない）
☐ 聞いたことはあるが、内容は知らない

問46 火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。（いくつでも）

- ☐ 投薬や治療が受けられない
- ☐ 補装具の使用が困難になる
- ☐ 補装具や日常生活用具の入手ができなくなる
- ☐ 救助を求めることができない
- ☐ 安全なところまで、迅速に避難することができない
- ☐ 被害状況、避難場所などの情報が入手できない
- ☐ 周囲とコミュニケーションがとれない
- ☐ 避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安
- ☐ その他（ ）
- ☐ 特にない

10 龍ヶ崎市の福祉施策についてお聞きします。

問47 あなたは、龍ヶ崎市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思いませんか。（1つのみ）

- ☐ 暮らしやすいと思う
- ☐ どちらかという暮らしにくいと思う
- ☐ どちらかという暮らしやすいと思う
- ☐ 暮らしにくいと思う
- ☐ どちらともいえない

問48 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。（いくつでも）

- ☐ 障がいや障がい者問題に関する広報・啓発活動の推進
- ☐ 障がいに関する講演会や研修会の開催
- ☐ 障がいへの理解を深めるために活動する市民団体などへの支援
- ☐ 障がいのある人へのボランティア活動の推進
- ☐ 障がいのある人との市民交流を通じての理解と参加の促進
- ☐ 学校等における人権教育の充実
- ☐ 障がいのある人の積極的な社会への進出
- ☐ 福祉施設、教育機関等と地域住民との日常的な交流
- ☐ その他（ ）
- ☐ 特にない

問49 あなたはここ数年で、社会全体で障がいのある人への理解が深まってきているとおもいますか。（1つのみ）

- | | |
|--|--|
| ☐ かなり深まってきているとおもう | ☐ あまり深まっているとは思わない |
| ☐ 少しは深まってきているとおもう | ☐ まったく深まっていないとおもう |
| ☐ どちらとも言えない | ☐ わからない |

問50 障がいのある人が自立した生活を送るために何が必要だとおもいますか。（いくつでも）

- | |
|---|
| ☐ 相談業務・窓口の充実 |
| ☐ サービス利用の手続きの簡素化 |
| ☐ 制度やサービス等に関する情報提供の充実 |
| ☐ 意思疎通についての支援の充実 |
| ☐ 障がい者本人の意思を尊重する意思決定支援の充実 |
| ☐ 保健や福祉の専門的な人材の育成と資質の向上 |
| ☐ 参加しやすいスポーツ、サークル、文化活動の充実 |
| ☐ いろいろなボランティア活動の育成 |
| ☐ 保健・医療・福祉のサービスの充実 |
| ☐ 入所施設の整備 |
| ☐ リハビリ・生活訓練・職業訓練等の通所施設の整備 |
| ☐ 一人ひとりの個性を活かした保育・教育内容の充実 |
| ☐ 職業訓練の充実や働く場所の確保 |
| ☐ 利用しやすい公共施設の整備・改善 |
| ☐ 障がいの有無にかかわらず、市民同士がふれあう機会や場の充実 |
| ☐ 利用しやすい道路・建物等の整備・改善 |
| ☐ 障がいに配慮した公営住宅やグループホーム・ケアホームの整備等、生活の場の確保 |
| ☐ 災害の時の連絡や避難等の支援を行う体制の整備 |
| ☐ 障がい者に対する理解を深めるための福祉教育や広報活動の充実 |
| ☐ 医療費助成の拡大 |
| ☐ その他（ ） |
| ☐ 特にない |

問51 最後に、障害福祉サービスや行政の取組について、その他普段の生活で困っていること、不安なこと、また、共生社会の実現のために必要と考えていることなど、何でも結構ですので、自由にご記入ください。

This image shows a blank sheet of white paper designed for handwriting practice. It features ten horizontal rows, each defined by two parallel dashed lines. These rows are bounded on both the left and right sides by solid black vertical lines, creating a series of rectangular writing areas. The entire page is otherwise empty, with no text or markings.

アンケートの質問は以上になります。

いそが なか ちょうさ きょうりょく まこと
お忙しい中、調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

どうふう　へんしんようふうとう　　ちようさひよう　　い
同封の返信用封筒に「この調査票のみ」を入れて、
れい　わ　ねん　が　つ　に　ち　きん　　ゆうびん　　とうかん
令和8年1月9日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。

2. 市民アンケート 調査票

龍ヶ崎市障がい者プラン・ 第8期障がい福祉計画・第4期障がい児福祉計画 策定に係るアンケート調査へのご協力をお願い

龍ヶ崎市の福祉行政の推進につきましては、平素から格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市では、現在、障がい者施策の基本的な計画として、「龍ヶ崎市障がい者プラン・第8期障がい福祉計画・第4期障がい児福祉計画」の策定に取り組んでいます。

このアンケート調査は、市民の皆様が、日ごろ、障がい者とどのような関わりを持ち、本市が取り組むべき課題をどのように考えておられるのかをお聞きし、新しい計画の基礎資料とするために実施します。

皆様には、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。ご回答いただいた内容は、統計的に処理し、計画策定以外には使用しませんので、ありのままをご回答ください。

令和7年12月

龍ヶ崎市長 萩原 勇

<ご記入にあたってのお願い>

1. ご回答にあたっては、すべて令和7年12月1日現在の状況でご記入ください。
2. ご回答は、あてはまる回答に「☒」（し点）」をつけてください。質問によっては、「**1つのみ**」、「**いくつでも**」など、回答する数が異なりますので、ご注意ください。また、質問によっては回答していただく方が限られる場合がございます。ことわり書きにご注意ください。
3. 「その他」に回答された方は、（ ）内に**具体的な内容**をご記入ください。
4. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、
令和8年1月9日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。
切手の貼付やお名前の記入は必要ありません。

調査についてのご質問、ご不明な点についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

龍ヶ崎市 福祉部 障がい福祉課 障がい福祉グループ
TEL：0297-64-1111（代表） FAX：0297-64-7008

アンケートへご回答いただく前に

この度は本アンケートにご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

このアンケートは龍ケ崎市の障がい者施策のために実施されていますが、ひとことで「障がい」といっても、その種類はさまざまです。アンケートへご回答いただく前に、以下「障がい」の種類についてご参考いただければ幸いです。

1. 身体障がい者

身体障害者手帳を所持している方になります。

- ①視覚に障がいのある方
- ②聴覚や平衡機能に障がいのある方
- ③音声や言語等に障がいのある方
- ④手足に障がいのある方
- ⑤心臓や腎臓などの内臓に障がいのある方

2. 知的障がい者

「知的機能の障害が発達期（おおむね 18 歳まで）にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別の援助を必要とする状態にあるもの」とされています。

知能検査を実施し、IQ 値がおおむね 70 以下の方には「療育手帳」が交付されます。

3. 精神障がい者

統合失調症、うつ病、さまざまな依存症、その他の精神疾患がある方となります。「精神保健福祉手帳」が交付されたり、「自立支援医療（精神通院）」を受けることができます。

4. その他

①発達障がい

自閉症・アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などの脳機能の障がいです。

②高次脳機能障がい

事故で頭を強く打ったり、脳梗塞などの脳血管の疾病によって、記憶障害・注意障害・社会的行動障害などの認知障害があり、日常生活や社会生活に制約のある障がいです。

③難病

難病とは、発病の原因が明確でないために治療方法が確立しておらず、長期の療養を必要とする疾患です。令和7年4月時点で 348 種類の疾病が指定難病として登録されています。

注1)「障がい」の表記について

龍ケ崎市においては、「害」の字が否定的な意味があることなどを踏まえ、法律名や固有名詞をのぞき、ひらがな表記としています。

下記の項目について、あてはまる回答に「☒（レ点）」をつけてください。

1 あなたご自身のことについてお聞きします。

問1 あなたの性別を教えてください。（1つのみ）

※自認する性でお答えください。

☐ 男性

☐ 女性

問2 あなたの年齢は何歳ですか。（1つのみ）

☐ 20歳未満

☐ 30～39歳

☐ 50～59歳

☐ 65歳以上

☐ 20～29歳

☐ 40～49歳

☐ 60～64歳

問3 現在の、あなたのお住まいの小学校区は、どちらですか。わからない場合は、町名を下の欄にお書きください。（1つのみ）

☐ 龍ヶ崎小学校区（旧大宮小学校区除く）

☐ 龍ヶ崎西小学校区（旧北文間小学校区を除く）

☐ 馴柴小学校区

☐ 松葉小学校区

☐ 八原小学校区

☐ 長山小学校区

☐ 旧長戸小学校区

☐ 馴馬台小学校区

☐ 旧北文間小学校区

☐ 久保台小学校区

☐ 川原代小学校区

☐ 城ノ内小学校区（旧長戸小学校区を除く）

☐ 旧大宮小学校区

※お住まいの小学校区がわからない場合には、地区名か町名をお書きください。

地区名／町名 ⇒

問4 あなたの家族や友人などに、障がい者がいますか。（1つのみ）

☐ 家族・親族に障がい者がいる（いた）

☐ 友人・知人に障がい者がいる（いた）

☐ 身近な人に障がい者はいない

問5 あなたは働いていますか。（1つのみ）

☐ 働いている

☐ 働いていない（学生以外）

☐ 学生

☐ その他（ ）

2 障がい者福祉への関心についてお聞きします。

問6 あなたは、障がい者の福祉について関心をお持ちですか。（1つのみ）

- | | |
|--|--|
| ☐ 非常に関心がある ⇒ 問7へ | ☐ まったく関心がない ⇒ 問8へ |
| ☐ ある程度関心がある ⇒ 問7へ | ☐ どちらともいえない ⇒ 問8へ |
| ☐ あまり関心がない ⇒ 問8へ | |

【問6で「非常に関心がある」「ある程度関心がある」と回答した方にお聞きします。】

問7 どのような理由から、関心をお持ちですか。（いくつでも）

- | | |
|--|---|
| ☐ 自分が身体的・精神的に病弱であるから | |
| ☐ 自分の身内や近所、知り合いに障がい者がいる（いた）から | |
| ☐ 福祉活動やボランティア活動をしている（していた）から | |
| ☐ 保健・医療・福祉・教育に関係する職業についている（ついていた）から | |
| ☐ まちなかやテレビなどで障がい者のことをよく目にするから | |
| ☐ その他（ | ） |

3 障がい者に対する理解についてお聞きします。

問8 あなたは、「障害者差別解消法」をご存知ですか。（1つのみ）

※障害者差別解消法とは、障がいを理由とした不当な差別的取り扱いの禁止や、障がい者に対し合理的な配慮を行うなどを定めた法律のこと。

- | | |
|--|---|
| ☐ 知っている | ☐ 知らない（聞いたことがない） |
| ☐ 聞いたことはあるが、内容は知らない | |

問9 あなたは、あなたが住む地域社会には障がい者に対し、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。（1つのみ）

- | | |
|--|---|
| ☐ あると思う ⇒ 問10、問11へ | ☐ ほとんどないと思う ⇒ 問12へ |
| ☐ 少しはあると思う ⇒ 問10、問11へ | ☐ わからない ⇒ 問12へ |

【問9で「あると思う」「少しはあると思う」と回答した方にお聞きします。】

問10 あなたはどのようなときに障がい者に対する差別や偏見を感じますか。

（具体的にご記入ください）

問 11 あなたは、障がいのある人への市民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。
（いくつでも）

- ☐ 障がいや障がい者問題に関する広報・啓発活動の推進
- ☐ 障がいに関する講演会や研修会の開催
- ☐ 障がいへの理解を深めるために活動する市民団体などへの支援
- ☐ 障がいのある人へのボランティア活動の推進
- ☐ 障がいのある人との市民交流を通じての理解と参加の促進
- ☐ 学校等における人権教育の充実
- ☐ 障がいのある人の積極的な社会への進出
- ☐ 福祉施設、教育機関等と地域住民との日常的な交流
- ☐ その他（ ）
- ☐ 特にない

問 12 あなたは、福祉に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも）

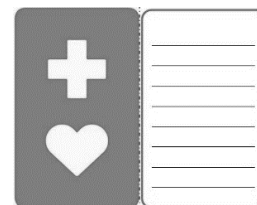
- | | |
|--|---|
| ☐ 市や県からの広報やお知らせ | ☐ 友人・仲間 |
| ☐ 役所の窓口や地域包括支援センター | ☐ 民生委員・児童委員 |
| ☐ 保健所 | ☐ 近所の人 |
| ☐ 学校や職場 | ☐ 家族 |
| ☐ 福祉施設 | ☐ テレビ・ラジオ・新聞 |
| ☐ 病院などの医療機関 | ☐ インターネット（SNSなど） |
| ☐ サービス事業者（相談支援事業所等） | ☐ その他（ ） |
| ☐ ボランティア | ☐ 情報を得るところがない |
| ☐ 障がい者団体・グループ | |

4 障がい者への支援・ボランティアについてお聞きします。

問 13 あなたは、「ヘルプマーク」をご存じですか。（1つのみ）

※ヘルプマークとは、外見からは分からなくても、配慮や支援を必要としている方が、周囲の方に知らせるために作られたマークです。

- ☐ 名前も内容も知っている
- ☐ 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
- ☐ 名前も内容も知らない



問 14 あなたは、今まで障がい者へ、どのような支援を行ったことがありますか。（いくつでも）

- | | |
|---|--|
| ☐ 寄付や募金をした | ☐ 制度やサービスの情報を伝えた |
| ☐ 車いすを押すなど、移動を手伝った | ☐ 啓発や広報活動に協力した |
| ☐ 相談相手、話し相手になった | ☐ 学校や職場でサポートした |
| ☐ 入浴や買い物などを手伝った | ☐ その他（ ） |
| ☐ 行事への参加の機会を設けた | ☐ 支援をしたことがない ⇒ 問 15 へ |

【問 14 で「支援をしたことがない」と回答した方にお聞きします。】

問 15 特に支援をしたことがない理由はなんですか。（いくつでも）

- | | |
|---|---|
| ☐ 支援を必要とする人が身近にいないから | ☐ 接し方がわからないから |
| ☐ 支援をするのが気恥ずかしいから | ☐ 声をかけるきっかけがなかったから |
| ☐ おせっかいと思われる気がするから | ☐ 誤った支援をしてしまうのが不安だから |
| ☐ どのようにしてよいかわからないから | ☐ トラブルになるのが心配だから |
| ☐ 専門の人や関係者に任せの方がいいから | ☐ 自分にできることが少ないと思うから |
| ☐ 時間がないから | ☐ 支援できる場面に出会わなかったから |
| ☐ 関心がないから | ☐ その他（ ） |

問 16 あなたは、障がい者を対象とするボランティア活動をしたことがありますか。（1つのみ）

- ☐ ある ⇒ 問 17 へ ☐ ないが関心はある ⇒ 問 18 へ ☐ ない ⇒ 問 18 へ

【問 16 で「ある」と回答した方にお聞きします。】

問 17 あなたは、障がい者に対してどんな支援や活動をしてみたいですか。（3つまで）

- | |
|--|
| ☐ コミュニケーション・情報支援（手話通訳・要約筆記・点訳物作成・朗読サービス等） |
| ☐ 外出支援（まちを案内したりする外出サポート） |
| ☐ 移送サービス（車いすでも乗れる車の手配、運転、乗り降りの介助など） |
| ☐ 配食サービス（食事作りや配達、またその際の声かけなど） |
| ☐ 施設でのボランティア（話し相手、講師、介助や援助、行事の手伝い等） |
| ☐ 福祉関連イベントの開催・イベントでの付き添い |
| ☐ 施設訪問等による交流事業 |
| ☐ スポーツ・レクリエーション・リハビリテーション等の地域交流活動 |
| ☐ 専門的スキルを生かした教育・学習・指導活動 |
| ☐ その他（ ） |
| ☐ 特になし |

【問 16 で「ないが関心はある」「ない」と回答した方にお聞きします。】

問 18 活動に参加するためには何が必要ですか。（2つまで）

- | | |
|--|--|
| ☐ ボランティア活動の情報 | ☐ 交通費等、金銭的負担の軽減 |
| ☐ 活動内容の分かりやすい説明 | ☐ 一緒に活動する仲間 |
| ☐ 参加方法の分かりやすい説明 | ☐ 気軽に参加できる雰囲気 |
| ☐ 関心を引く活動内容 | ☐ その他（ ） |
| ☐ 時間の余裕 | ☐ ボランティア活動には関心がない |

5 障がい者の就労・教育についてお聞きします。

問 19 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。
（いくつでも）

- | | |
|---|---|
| ☐ 通勤手段の確保 | ☐ 職場で介助や援助等が受けられること |
| ☐ 勤務場所におけるバリアフリー等の配慮 | ☐ 就労後のフォローなど職場と支援機関の連携 |
| ☐ 短時間勤務や勤務日数等の配慮 | ☐ 企業ニーズに合った就労訓練 |
| ☐ 在宅勤務の拡充 | ☐ 仕事についての職場外での相談対応、支援 |
| ☐ 職場の上司や同僚に障がいの理解があること | ☐ その他（ ） |

問 20 障がいのある子どもの就学環境は、次のどれが望ましいと思いますか。（1つのみ）

- | |
|--|
| ☐ 障がいの有無にかかわらず共に学べる環境 |
| ☐ 障がいの有無にかかわらず共に学べる環境のもと、障がいに応じた個々の教育的ニーズに適したサポート |
| ☐ 普通学校の特別支援学級などでの、障がいに応じたサポート |
| ☐ 障がいに応じた特別支援学校での専門的な教育 |
| ☐ わからない |
| ☐ その他（ ） |

問 21 「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、国、地方公共団体、民間企業は、一定の割合以上、身体障がい者、知的障がい者及び精神障がい者を雇用しなければならないとされていますが、あなたはご存知ですか。（1つのみ）

- | | |
|--|---|
| ☐ 知っている | ☐ 知らない（聞いたことがない） |
| ☐ 聞いたことはあるが、内容は知らない | |

問 22 あなたのお勤めの職場には、障がい者の方が働いていますか。（1つのみ）

- | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|
| ☐ 働いている | ☐ 働いていない | ☐ わからない |
|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|

6 災害時の対応についてお聞きします。

問 23 市では、災害などの発生時に自力で避難することが困難な人を支援する「災害時避難行動要支援者避難支援プラン」を設けています。このプランは、登録を希望する要支援者に対して、住民自治組織、自主防災組織、民生委員児童委員、近所の方など地域が連携して支援をしていく制度です。

あなたは災害発生時に要支援者の避難を支援できますか。(3つまで)

- ☐ 支援したい ☐ 支援できない
- ☐ 可能な範囲で支援したい ☐ わからない

問 24 災害時や緊急時において、障がい者に対して避難支援や安否確認などの支援を行うためにはどのような体制をつくるのがよいと思いますか。(2つまで)

- ☐ 行政・民生委員児童委員・住民自治組織・社会福祉協議会の連携を深めた新たなネットワークをつくり、支援を行う
- ☐ コミュニティ組織や住民自治組織を中心として、地域の助け合い活動のなかで支援を行う
- ☐ 社会福祉協議会が中心になり、地域ボランティア活動のなかで支援を行う
- ☐ 行政が要支援者名簿を整備し、行政が責任をもって支援を行う
- ☐ わからない
- ☐ その他（ ）

7 福祉のまちづくり・龍ヶ崎市の障がい者施策についてお聞きます。

問 25 以前と比較して、まちの環境は、障がい者が外出しやすく改善されていると思いますか。
(1つのみ)

- ☐ かなり改善されている
 ☐ あまり改善されていない
☐ 少しずつ改善されている
 ☐ 改善されていない
☐ どちらともいえない
 ☐ わからない

問 26 まちで見かける人の行動で、特に問題があると思うことは何ですか。(2つまで)

- ☐ 誘導ブロックの上に自転車などの物を置いている
- ☐ 歩道を道幅いっぱいに広がって歩く
- ☐ ショッピングセンターなどの車いす使用者用駐車区画に、駐車する必要がないと思われる人が駐車している
- ☐ 電車やバスで、障がい者や高齢者などに席を譲らない
- ☐ 困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている
- ☐ わからない
- ☐ その他（ ）
- ☐ 特にない

問 27 あなたは、龍ヶ崎市は障がい者にとって暮らしやすいまちだと思いますか。（1つのみ）

- ☐ 暮らしやすいと思う ☐ どちらかという暮らしにくいと思う
- ☐ どちらかという暮らしやすいと思う ☐ 暮らしにくいと思う
- ☐ どちらともいえない

問 28 今後の障がい者施策において、強化することが望ましい分野は、次のうちどれだと思いますか。（3つまで）

- | | |
|------------------------------------|---|
| ☐ 労働・雇用 | ☐ 道路や建築物等のバリアフリー |
| ☐ 教育・学習 | ☐ 情報バリアフリー |
| ☐ 所得保障 | ☐ 社会参加 |
| ☐ 保健・医療 | ☐ 政治参加 |
| ☐ 総合的な相談体制 | ☐ その他（ ） |
| ☐ 権利擁護・虐待防止 | |

問 29 障がい者施策全般について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

[illegible]

アンケートの質問は以上になります。

お忙しい中、調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒に「この調査票のみ」を入れて、

令和8年1月9日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。

3. 事業所アンケート 調査票

龍ヶ崎市障がい者プラン・ 第8期障がい福祉計画・第4期障がい児福祉計画 策定に係るアンケート調査へのご協力をお願い

龍ヶ崎市の福祉行政の推進につきましては、平素から格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

本市では、現在、障がい者施策の基本的な計画として、「龍ヶ崎市障がい者プラン・第8期障がい福祉計画・第4期障がい児福祉計画」の策定に取り組んでいます。

このたびの計画策定にあたって、各事業所の障害福祉サービス・地域生活支援事業に関する事業計画をお伺いし、本市のサービス見込み量を算出するための基礎資料とさせていただきたく存じます。

つきましては、大変ご多忙の折とは存じますが、アンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年12月

龍ヶ崎市長 萩原 勇

<ご記入にあたってのお願い>

1. ご回答にあたっては、すべて令和7年12月1日現在の状況でご記入ください。
2. ご回答は、あてはまる回答に「☒（シ点）」をつけてください。質問によっては、「**1つのみ**」、「**いくつでも**」など、回答する数が異なりますので、ご注意ください。また、質問によっては回答していただく方が限られる場合がございます。ことわり書きにご注意ください。
3. 「その他」に回答された方は、（ ）内に**具体的な内容**をご記入ください。
4. ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、
令和8年1月9日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。
切手の貼付やお名前の記入は必要ありません。

調査についてのご質問、ご不明な点についてのお問い合わせは、下記までお願いします。

龍ヶ崎市 福祉部 障がい福祉課 障がい福祉グループ
TEL：0297-64-1111（代表） FAX：0297-64-7008

問1 貴事業所について、ご記入ください。

法人名		
代表者		
アンケート記入者		
連絡先	電 話	
	F A X	
	メール	

問2 令和7年12月1日現在の貴事業所についてご記入ください。

① 施設名 ② 設立年月 （複数ある場合は、 すべてご記入ください）	1	① _____ ② ☐ 昭和 ☐ 平成 ☐ 令和 年 月
	2	① _____ ② ☐ 昭和 ☐ 平成 ☐ 令和 年 月
	3	① _____ ② ☐ 昭和 ☐ 平成 ☐ 令和 年 月
	4	① _____ ② ☐ 昭和 ☐ 平成 ☐ 令和 年 月
	5	① _____ ② ☐ 昭和 ☐ 平成 ☐ 令和 年 月
③ 設立主体（1つのみ）	☐ 社会福祉法人 ☐ 医療法人 ☐ 社団・財団法人 ☐ 市町村 ☐ 特定非営利活動法人(NPO) ☐ その他 ☐ 株式会社	
④ 運営主体（1つのみ）	☐ 社会福祉法人 ☐ 医療法人 ☐ 社団・財団法人 ☐ 市町村 ☐ 特定非営利活動法人(NPO) ☐ その他 ☐ 株式会社	

問3 現在実施しているサービスの種類に☑をつけ、定員数・利用者数をご記入ください。

障害福祉サービス等	現在の提供状況				
	定員数		利用者数		龍ヶ崎市の利用者数
☐ ①居宅介護		人		人	人
☐ ②重度訪問介護		人		人	人
☐ ③同行援護		人		人	人
☐ ④行動援護		人		人	人
☐ ⑤重度障害者等包括支援		人		人	人
☐ ⑥生活介護		人		人	人
☐ ⑦自立訓練（機能訓練）		人		人	人
☐ ⑧自立訓練（生活訓練）		人		人	人
☐ ⑨就労選択支援		人		人	人
☐ ⑩就労移行支援		人		人	人
☐ ⑪就労継続支援 A 型		人		人	人
☐ ⑫就労継続支援 B 型		人		人	人
☐ ⑬就労定着支援		人		人	人
☐ ⑭療養介護		人		人	人
☐ ⑮短期入所		人		人	人
☐ ⑯共同生活援助		人		人	人
☐ ⑰施設入所支援		人		人	人
☐ ⑱自立生活援助		人		人	人
☐ ⑲計画相談支援		人		人	人
☐ ⑳児童発達支援		人		人	人
☐ ㉑放課後等デイサービス		人		人	人
☐ ㉒保育所等訪問支援		人		人	人
☐ ㉓医療型児童発達支援		人		人	人
☐ ㉔居宅訪問型児童発達支援		人		人	人
☐ ㉕福祉型児童入所支援		人		人	人
☐ ㉖医療型児童入所支援		人		人	人

問4 貴施設・事業所の経営上の課題は何ですか。(いくつでも)

[illegible]

問5 令和9年度以降にサービスの定員の拡大（縮小）・新規開設（廃止）の予定はありますか。
（1つのみ）

☐ ある ☐ ない

【問5で「ある」と回答した方にお聞きします。】

問6 定員の拡大（縮小）・新規開設（廃止）を予定している内容をお答えください。

拡大（縮小）／ 新規開設（廃止）	サービス名	サービスの概要	定員数	実施年度	
☐ 新規開設 ☐ 定員拡大 ☐ 定員縮小 ☐ 廃止			現在	☐ 9年度	
				人	☐ 10年度
			予定		☐ 11年度
				人	
☐ 新規開設 ☐ 定員拡大 ☐ 定員縮小 ☐ 廃止			現在	☐ 9年度	
				人	☐ 10年度
			予定		☐ 11年度
				人	
☐ 新規開設 ☐ 定員拡大 ☐ 定員縮小 ☐ 廃止			現在	☐ 9年度	
				人	☐ 10年度
			予定		☐ 11年度
				人	

問7 今後の事業運営にあたって、どのような支援が必要でしょうか。（いくつでも）

☐ 人材確保に向けた支援（求人支援、採用情報発信等） ☐ 専門職（看護師等）の配置・確保に対する支援 ☐ ICT導入・業務効率化に関する支援（支援記録、請求、DX） ☐ 送迎業務に関する支援（燃料費、車両、運転手確保等） ☐ 重度化・医療的ケアへの対応に関する支援 ☐ 関係機関（医療・教育・地域団体等）との連携の構築に向けた支援 ☐ 家族支援（レスパイト、相談体制、家族向け情報）に関する支援 ☐ 災害・感染症対策に必要な支援（備蓄、訓練、人員） ☐ 事業所同士のネットワーク形成支援（交流会、連携会議） ☐ その他（ ）

問8 貴施設・事業所の防災対策について、次の①から⑤をお答えください。

	はい	いいえ
① 災害対応マニュアル（火災・地震・風水害）を作成していますか	☐	☐
② 利用者の安否確認の方法を決めていますか	☐	☐
③ 災害用備品を備蓄していますか	☐	☐
④ 発災時に、利用者を安全に避難させる対策を立てていますか	☐	☐
⑤ 特別に防災対策を立てている場合には、以下にその内容をお書きください。		

【問9から問11は、入所施設のみにお聞きします。】

問9 貴施設に入所されている龍ヶ崎市の方について、3年後の希望する生活を教えてください。

入所者 (龍ヶ崎市) 合計		3年後希望する生活の場													
		家族と 自宅生活		一人 暮らし		グループ ホーム		他の施設 に入所		今の施設 に入所		病院		不明	
	人		人		人		人		人		人		人		人

問10 貴施設に入所されている龍ヶ崎市の方のうち、地域生活への移行が見込める方の人数をご記入ください。

合計		地域生活への移行が見込める人数					
		家族と自宅生活		一人暮らし		グループホーム	
	人		人		人		人

問11 貴施設において、入所者の地域生活への移行を進めていく上で、障壁となっていること、また課題となっていることについてご意見をお聞かせください。

問 12 障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。（いくつでも）

- ☐ 企業などへの障がい者雇用の義務付けの徹底
- ☐ 通勤手段の確保
- ☐ 勤務場所におけるバリアフリー等の配慮
- ☐ 短時間勤務や勤務日数等の配慮
- ☐ 在宅勤務の拡充
- ☐ 職場の障がい者への理解
- ☐ 職場の上司や同僚に障がいの理解があること
- ☐ 職場で介助や援助等が受けられること
- ☐ 就労後のフォローなど職場と支援機関の連携
- ☐ 企業ニーズに合った就労訓練
- ☐ 仕事についての職場外での相談対応、支援
- ☐ その他（ ）
- ☐ 特にない

問 13 障がい者への市民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。（いくつでも）

- ☐ 障がいや障がい者問題に関する啓発の充実
- ☐ 障がいへの理解を目的とする市民団体への支援
- ☐ 障がい者へのボランティア活動の推進
- ☐ 市民交流を通じての理解と参加の促進
- ☐ 学校における福祉教育の充実
- ☐ 障がいに関する講演会や学習会の開催
- ☐ 障がい者の積極的な社会への進出
- ☐ 福祉施設の地域への開放や、地域住民との交流
- ☐ 障がい者の地域のまちづくりへの参加
- ☐ その他（ ）

問 14 ここ数年で、社会全体で障がいのある人への理解が深まってきていると思いますか。
（1つのみ）

- | | |
|---|--|
| ☐ かなり深まってきていると思う | ☐ あまり深まってきているとは思わない |
| ☐ 少しは深まってきていると思う | ☐ まったく深まっていないと思う |
| ☐ どちらともいえない | ☐ わからない |

問 15 龍ヶ崎市は障がいのある人にとって暮らしやすいまちだと思いますか。（1つのみ）

- | | |
|---|---|
| ☐ 暮らしやすいと思う | ☐ どちらかという暮らしにくいと思う |
| ☐ どちらかという暮らしやすいと思う | ☐ 暮らしにくいと思う |
| ☐ どちらともいえない | |

問 16 障がい者施策全般について、ご意見・ご要望がありましたら、自由にご記入ください。

アンケートの質問は以上になります。

お忙しい中、調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒に「この調査票のみ」を入れて、

令和8年1月9日（金）までに、郵便ポストにご投函ください。

令和 7 年度
龍ヶ崎市障がい福祉に関する実態調査
【結果報告書】

令和 8 年 3 月

発 行：龍ヶ崎市 福祉部 障がい福祉課
〒301-8611
茨城県龍ヶ崎市 3710 番地
電 話：0297-64-1111（代表）
F A X：0297-64-7008